日本語

ユーザーガイド

Microsoff® Windows® | Apple® OS X®

DxO Optics Pro 9

あなたのカメラの限界に挑戦

DXO Image Science

目次

はじめに 5
ようこそ 5
DxO Optics Pro 9 の新機能 7
ヘルプとリソース 8
バージョン 8
システム動作環境 8
登録、ダウンロード、インストール、ライセンス認証 9

選択タブ 11
選択タブについて 11
選択タブインターフェイス 11
コマンドバー 12
参照ブラウザ 12
コンピュータ内のディレクトリファイルを参照する（初期設定） *13*
フォルダとファイルの管理 *13*
プロジェクトでの管理 *13*
画像ブラウザ 15
画像ブラウザをドックする *15*
画像ブラウザを切り離す *15*
画像ブラウザのコマンドバー *15*
画像ブラウザの情報メッセージ *16*
ソート *16*
フィルタ *17*
サムネイルアイコン *18*
DxO 光学モジュール 19
新規 DxO 光学モジュールのインストール *19*
インストールされている DxO 光学モジュールの管理 *20*

設定タブ 21
設定タブについて 21
ワークスペースの基本 21
パレットとワークスペース 22
パレットの使い方と移動 *22*
ワークスペースについて *22*
カスタムパレットの作成 *22*
カスタムワークスペースの作成 *23*
画像解析パレット 24
移動／ズームパレット *24*
EXIF 情報パレット *25*
補正パレット 26
補正パレットについて *26*
ローカルヘルプ *26*
ヒストグラムパレット *26*
主要ツールパレット *28*
ライトとカラー：アドバンス *39*
ディテールとジオメトリ：アドバンス *43*
光学補正 *46*
DxO FilmPack *51*
プリセット 51
プリセットについて *51*
用意されているプリセットを使う *52*
プリセットの適用 *54*
現在の設定からフルプリセットを作成する *54*
プリセットエディタパレット *54*
バーチャルコピー 56
バーチャルコピーについて *56*
バーチャルコピーの作成と削除 *56*
参照画像としてバーチャルコピーを使う *57*

 ©DxO Labs 2014 - All rights reserved

エクスポート 58
エクスポートについて 58
インターフェイス 58
ハードディスクへのエクスポート 59
別のアプリケーションへのエクスポート 62
Lightroom との連携ワークフロー *63*
Flickr へエクスポート 65

プリント 66
プリント - Windows 66
プリントメニュー 66
ツールと設定 66
プリント（Mac OS X） 69
ツールと設定 69

メニューとプリファレンス（Windows） 71
メニュー 71
プリファレンス 74

メニューとプレファレンス（Mac OS X） 76
メニュー 76
プレファレンス 78

付録 80
用語集 80
キーボードショートカット（Windows） 81
キーボードショートカット（Mac OS X） 82

Copyright © DxO Labs 1999-2014. All rights reserved.

写真クレジット : Olivier Lambolez, Jean-Christophe Bruneel, Keith Cooper, Jean-Marie Sepulchre

テキスト : Gilles Théophile

レイアウト : degresfahrenheit.com

DxO Optics Proについての詳しい情報：www.dxo.com

商標

DxO is a registered trademark of DxO Labs both in the European Union and in other countries.

DxO Labs holds the following patents that protect DxO software products:

U.S. patents: 7.760.955, 7.792.378, 7.463.293, 7.532.766, 7.724.977, 7.356.198, 7.346.221, 7.379.561

U.S. patents (pending): 12/072, 497 12/838, 198 13/489, 892 10/482, 413

Microsoft, Windows, Windows Vista, and Windows 7 are registered trademarks of Microsoft Corporation. Mac OS X and the Mac logo are trademarks of Apple, Inc., registered in the United States and in other countries. FLICKR and the Flickr logo are trademarks of Yahoo! Inc. The Flickr logo (©2012 Yahoo! Inc.) is reproduced with the permission of Yahoo! Inc. All other trademarks are the property of their respective owners.

承認

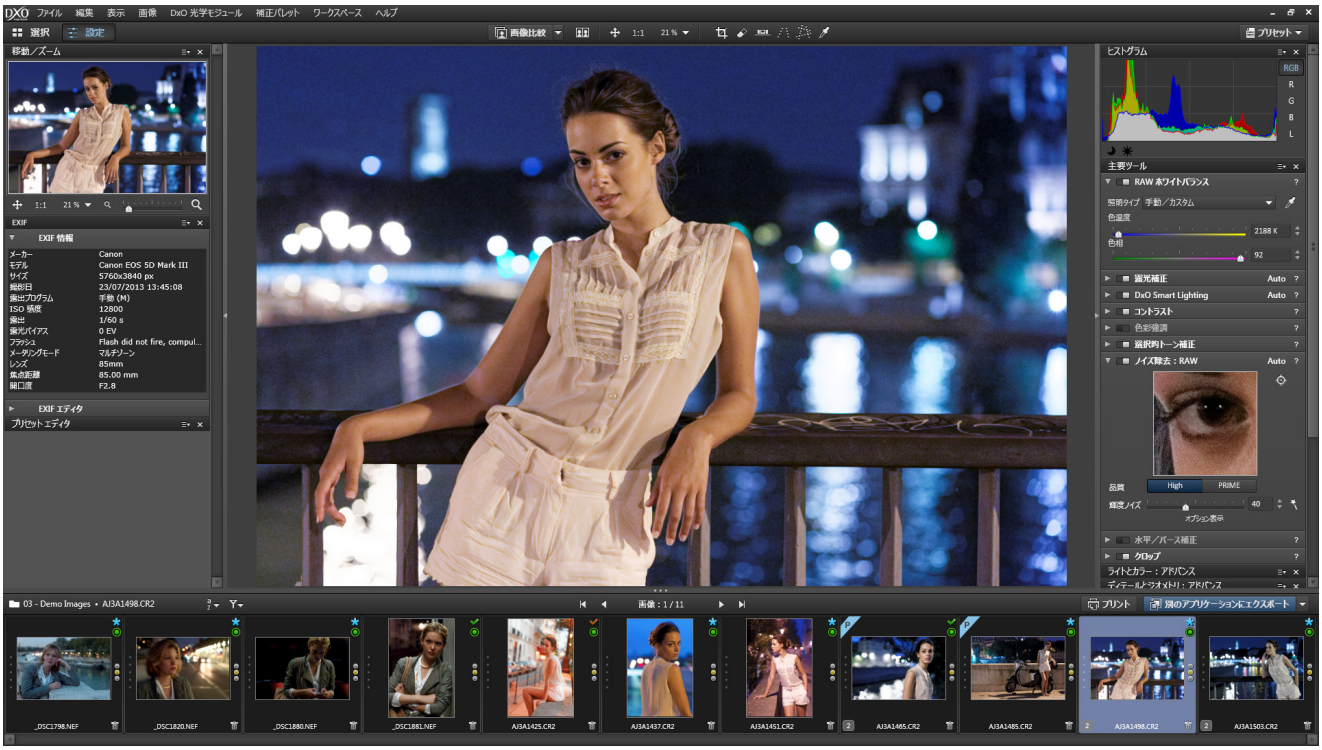
DxO Optics Pro 9は、以下の著作物を利用しており承認を受けています：

- DirectoryInfoEx (Licence LGPL v3) : http://www.codeproject.com/Articles/39224/Rewrite-DirectoryInfo-using-IShellFolder
- DotNetZipLib (Ms-PL) : http://dotnetzip.codeplex.com/license
- LuaInterface (MIT License) : http://code.google.com/p/luainterface/
- MVVMLightToolkit (MIT License) : http://mvvmlight.codeplex.com/license
- NLog (BSD License) : http://nlog-project.org/
- PowerCollections (Eclipse public license) : http://powercollections.codeplex.com/license
- SQLite (Public Domain) : http://www.sqlite.org/copyright.html
- System.Data.SqLite (Public Domain) : http://system.data.sqlite.org/index.html/doc/trunk/www/index.wiki
- WindowsApiCodePack (Custom) : http://archive.msdn.microsoft.com/WindowsAPICodePack/Project/License.aspx
- BPlusTree (Apache 2.0) : http://help.csharptest.net/?CSharpTest.Net.Library/ (Rubrique License)

このガイド内に記載されている項目は、記載されている以上ではありません。DxO Labsはこの文章に記載されているソフトウェアを使用する、使用しないに関わらず、このガイドに記載されている項目によって生じた直接的、間接的、過失、を含むいかなる損害についても責任を負いません。

はじめに

1.1 ようこそ



カメラとレンズを解析

開発元の DxO Labs 社はフランスのパリに本社があり、高度な技術を要求する写真家向けに画像処理技術を開発しソフトウェアをデザインしています。DxO Labs 社のチーフサイエンティスト達は、コンピュータ画像コミュニティでも最も評価の高い機関で定期的に研究成果を発表しています。DxO Optics Pro は高い化学や数学のノウハウを背景に、より高い品質、より良い写真を自動で入手できるツールとして開発されました。

もっとも独創的な点は、DxO Labs で様々なハードウェアの解析を行っていることです。大勢の技術者達が、長い時間をかけてカメラやレンズの特性（歪み、レンズぼけ、ヴィネット、ノイズ、色収差、トーンカーブなど）を計測しています。またカメラが画像をどのように処理しているのかを解析しています。

この結果、他に類を見ない膨大なデータベースを持っています。DxO Optics Pro は撮影時に記録されたカメラとレンズ、露光値と撮影距離を使って、ピクセルをどの程度明るくするか、どの程度場所を調整するのか、どのカラーチャネルをどの程度補正するかなどを決定します。ユーザーは撮影に利用したカメラとレンズのプロファイルモジュールをダウンロードするだけで、ソフトウェアが自動で補正を実行します。

画像を一枚ごとに解析

どんな写真家でも、「まったく同じ画像」というものは一切存在しないことを知っています。どんなに似た画像も、例えばノイズの有無、コントラストの違いなど撮影条件による何らかの違いがあるものです。ほとんどのソフトウェアは、このような個別の画像に対して同じ処理を実行することしかできません。多くの補正機能が用意されていますが、一枚ごとの画像に合わせて調整していかなければなりません。DxO Optics Pro は他の画像編集プログラムとは異なる仕組みを持ちます。個別の画像を解析しどのような補正が必要かを調べ、自動的に補正を実行します。もちろん個別の調整も可能です。

ピクセルごと、エリアごとの解析はとても複雑な演算になります。例えば逆光になってしまっている場合は、その部分だけ明るくし、なおかつローカルコントラストを上げたい。オブジェクトの周りに発生している色収差を取り除きたい。白とびを起こしそうなハイライトをリカバリーしたいというような補正が必要になります。

DxO Optics Pro が実行する処理

- RAW で撮影している場合は、DxO Optics Pro でベストな状態で現像を行います。RAW データを現像する際にアーティファクトを発生させません。
- 長年培われてきたカメラ／レンズの計測情報を元に、自動的に光学的に発生する問題、例えば歪み、ヴィネット（周辺光量落ち）、色収差（縦横それぞれ）、レンズぼけを補正します。
- RAW 画像上のハイライトが白とびを起こさないよう自動調整して現像します。また白とびを起こしているハイライトも場合によってリカバリーすることが可能です（RAW 画像のみ）。
- DxO Labs 社で蓄積されている各カメラボディの計測情報により、超高感度で撮影された画像であっても非常に優れたノイズ低減を実行することが可能です。
- コントラストとハイライト／シャドウにつき独自の自動補正を実行。フラッシュによる光、コントラストの強い画像や逆光補正も可能です。
- 他のカメラやフィルムで撮影したように色を変更できるカラーレンダリング機能が搭載されています。
- 広角レンズで撮影時に端に写っている顔や人体が歪んでしまう現象を補正することができます。
- これらのすべての機能はほとんど自動で処理が可能ですが、もちろん好みに合わせて手動で調整することもできます。

NOTE

このユーザーガイドでは DxO Optics Pro の専門用語を使っています。これらの用語の意味は巻末の**用語集**を参照してください。

DxO Optics Pro 用の DxO FilmPack プラグイン

DxO FilmPack は、デジタル写真に銀塩フィルムの画像感を持たせることができる別売りのプラグインです。DxO Labs 同時の解析技術によって、銀塩フィルムのカラー表現やコントラスト、彩度や粒状感をプロファイルしています。26 種類のモノクロフィルム、36 種類のカラーフィルムのプロファイルが用意されており、アーティスティックな表現や古い写真の表現を可能にします。

DxO FilmPack には、**エッセンシャル**版と**エキスパート**版の 2 種類のパッケージが用意されています。これらは、利用できるフィルムプロファイル数と機能に違いがあります。DxO Optics Pro 上の**ヘルプ**メニューから、DxO FilmPack プラグインの体験デモ版を利用できます。体験デモ版の期限は 31 日間です。

DxO Optics Pro のプラグイン版として利用する DxO FilmPack は、DxO Optics Pro の**設定タブ**のパレットに完全に統合され、非常に使いやすい環境で、バッチ処理や RAW 現像のワークフロー内の一部として利用できます。

DxO FilmPack は Adobe Photoshop CS3 ～ CS6、CC、Adobe Photoshop Elements 9 ～ 11、Adobe Lightroom 3 ～ 5、Apple Aperture 3 の各アプリケーションのプラグインとしても利用することができます。

1.2　DxO Optics Pro 9 の新機能

高い ISO 値でも美しい画像を作る

DxO Optics Pro 9 には、革新的なノイズ低減エンジン **PRIME** が搭載されました。条件の悪い環境下の撮影であってもディテールの表現や鮮やかな色を再現します。

PRIME（Probabilistic Raw IMage Enhancement）ノイズ低減エンジンは、RAW 画像の構造要素を解析し、ノイズとディテールの違いを識別します。DxO Optics Pro 9 では、現在市場で低減可能なレベルから、さらに 1 ストップ分の品質向上が可能です。

PRIME テクノロジーは画像の美しさを引き出すことができます。特にシャドウ部分も含め、テクスチャやディテール、カラーなどを保護し、自然な画像を再現します。

高速にノイズ低減を行いたい写真家のために、通常の高品質ノイズ低減エンジンも搭載しています。この通常のエンジンも、今回のバージョンで向上しています。

他の追随を許さない、ハイライト管理とカラーレンダリング

他に類のない **DxO Smart Lighting** 機能は、撮影内容によって画像全体のコントラストをインテリジェントに最適化します。DxO Optics Pro 9 ではこの機能がさらに向上し、強力なハイライト管理が可能になりました。オリジナル RAW データ内で情報が欠けている場合であっても、失われてしまったと見えるハイライトを偽色を最低限に抑えて復元できます。

DxO Labs が持つ高度で詳細なカメラ情報により、RAW 画像に対して任意のカメラのカラーレンダリングを再現することができます。また、新しいカラーレンダリング「DxO ポートレート」により、肌のトーンと自然な飽和カラーを保持することができます。

新規ビジュアルプリセット

DxO Optics Pro 9 のプリセットライブラリが完全に新しくなりました。ポートレート、風景、モノクロ、シングルショット HDR など、写真家がよく利用する目的にあわせて整理されました。またクリエイティブなレンダリングを提供する「雰囲気」プリセットのグループが新しく追加されました。

新規エクスポートツール

DxO Optics Pro 9 で編集した画像を、直接書き出せるようになり、よりシンプルなワークフローが提供されました。

「ハードディスクにエクスポート」機能では、JPEG、TIFF、DNG 画像を数クリックで生成して保存することができます。

新しく搭載された「別のアプリケーションにエクスポート」機能では、1 つのアクションで、画像を処理して外部のアプリケーションで開くことができます。例えば DxO の他のソフトウェアで開いたり、レタッチや HDR、パノラマ編集、カタログ作成などの特殊な用途のアプリケーションで開くことができます。

「Flickr にエクスポート」機能は、同様に画像の処理からオンラインでの共有までをダイレクトに行うことができます。

Adobe Lightroom との新しい連携ワークフロー

Lightroom から直接 RAW 画像をワンクリックで転送し DxO Optics Pro で現像処理できます。

さらに使いやすく、生産性の高い環境に改善

よく利用する補正ツールが優先され、パレットツールの最適化がされています。またツールやパレットもより論理的な方法で再分類されて整理されました。また補正パレットから直接ヘルプシステムにアクセスできるようになりました。

1.3　ヘルプとリソース

DxO Optics Pro のチュートリアル、ユーザーガイド等のヘルプとリソースは、**DxO Academy** ウェブページ（http://www.dxo.com/intl/photography/tutorials）に用意されています。このウェブページは、DxO Optics Pro の**ヘルプ**メニュー内 **DxO Academy** から直接開くことができます。

1.4　バージョン

DxO Optics Pro には、スタンダード版とエリート版の 2 種類があります。どちらのエディションも同じ機能を搭載しています。エリート版の方は、スタンダード版がサポートしているカメラに加えて、さらにハイエンドカメラをサポートしています。

1.5　システム動作環境

DxO Optics Pro で最良の結果を得るためには、最低以下の環境を満たしている必要があります。

Windows

- **OS**:Windows Vista（32/64 ビット）、Windows 7（32/64 ビット）、Windows 8（32/64 ビット）、Windows 8.1（32/64 ビット）
- **プロセッサ**：Intel Core® 2 Duo、AMD Athlon™ 64 X2 またはそれ以上
  （Intel® Core™ i5、AMD® Phenom™ II X4 以上を推奨）
- **ディスク容量**：最低 2 GB（推奨 6 GB）
- **RAM**：2 GB（推奨 8 GB 以上）
- **グラフィックカード**：
  GPU アクセラレートサポート：
  - DirectX 9.0.c 以上対応
  - ビデオメモリ（VRAM）512 MB を推奨

  Open CL アクセラレートサポート：
  - NVIDEA GeForce 460 以上
  - ATI Radeon HD 58xx 以上

※24 MB 以上の RAW 画像を処理する場合は、64 ビットの OS と 8 GB RAM を強く推奨します。4 コアプロセッサを搭載したマシンをご利用ください。

Mac OS X

- **OS**：OS X 10.6 Snow Leopard、10.7 Lion、10.8 Mountain Lion、10.9 Mavericks
- **プロセッサ**：Mac Intel® のみ対応。64 ビットを推奨（Intel® Core™ i5 以上を推奨）
- **ディスク容量**：最低 2 GB（推奨 6 GB）
- **RAM**：2 GB（推奨 8 GB 以上）
- **グラフィックカード**：
  GPU アクセラレートサポートビデオメモリ（VRAM）512 MB を推奨

※24 MB 以上の RAW 画像を処理する場合は、64 ビットの OS と 4 GB RAM、4 コアプロセッサを搭載したマシンをご利用ください。

1.6　登録、ダウンロード、インストール、ライセンス認証

重要：以下に説明する内容は必ずインターネット接続が必要です。

登録

ソフトウェアの認証を行うには、ライセンスを登録する必要があります。DxO Labs のウェブサイト（www.dxo.com/CD）に接続して、登録手続きを済ませてください。DxO Labs お客様アカウントを持っていない場合は、フォームに必要事項を入力して DxO Labs お客様アカウントを作成します。すでにお持ちの場合にはサインインしてください。

ダウンロード

ライセンスを登録すると、DxO Labs のお客様アカウント内に重要な情報が表示されます。DxO Optics Pro のダウンロードリンクもここに用意されています。ここからダウンロードすることで、最新バージョンのソフトウェアをインストールすることができます。**WIN** または **MAC** ボタンをクリックしてインストーラをダウンロードします。

インストール

Windows

1. インストールプログラムで使用したい言語を選択します。
2. ようこそ画面が開き、DxO Optics Pro のインストールを開始します。**次へ**をクリックします。
3. ライセンス使用許諾に同意したら**次へ**をクリックします。
4. DxO Optics Pro をインストールするディレクトリを選択します。
5. **インストール**をクリックします。インストールの実行には数分かかります。

Mac OS X

1. ダウンロードが完了したら、**DxO_Optics_Pro9.dmg** をダブルクリックして解凍し、インストーラを起動します。
2. 開いたウィンドウ内にある DxO Optics Pro 9 アイコンを**アプリケーション**フォルダにドラッグ＆ドロップします。アプリケーションフォルダ内から DxO Optics Pro 9 を起動します。
3. DxO Optics Prow 9 をはじめに起動する際に、ライセンス使用許諾が表示されます。DxO Optics Pro 9 を利用するには、使用許諾を読んで**同意する**をクリックします。

ライセンス認証

1. DxO Optics Pro を起動します。
2. ダイアログボックスが表示されます。フィールドにライセンス認証コードを入力（またはコピー＆ペースト）し、**認証**ボタンをクリックします。
3. お客様アカウントが作成されていない場合は、www.dxo.com でアカウントを作成するようメッセージが表示されます。アカウント作成に必要な情報をすべて入力します。作成されると、ライセンス認証コードをお客様アカウントページで見ることができます。アプリケーションに戻って、ライセンス認証コードを入力します。
4. DxO Optics Pro が正しく認証されたことが表示されます。**OK** をクリックしてソフトウェアを起動します。

アプリケーションがインストールできたら、ライセンス認証コードを入力しなくても 31 日間体験デモ版として利用できます。この期間は機能制限はありません。31 日間を過ぎると、書き出した画像に「DxO Optics Pro 9 DEMO」という透かしが入ります。予期せず透かしマークが入ってしまわないよう、できるだけ早く購入してライセンス認証を受けてください。

NOTE

DxO のソフトウェアライセンス認証は 2 台のコンピュータまで実行することができます。

NOTE

体験デモ版の期限（31 日間）が過ぎると、DxO Optics Pro のプリント機能は利用できなくなります。プリント機能を利用するには、ライセンス認証を実行してください。

アンインストール

Windows

1. **スタート** > **プログラム** > **DxO Optics Pro 9** > **Uninstall** をクリックします。
2. アンインストールの手順に従って進めます。

Mac OS X

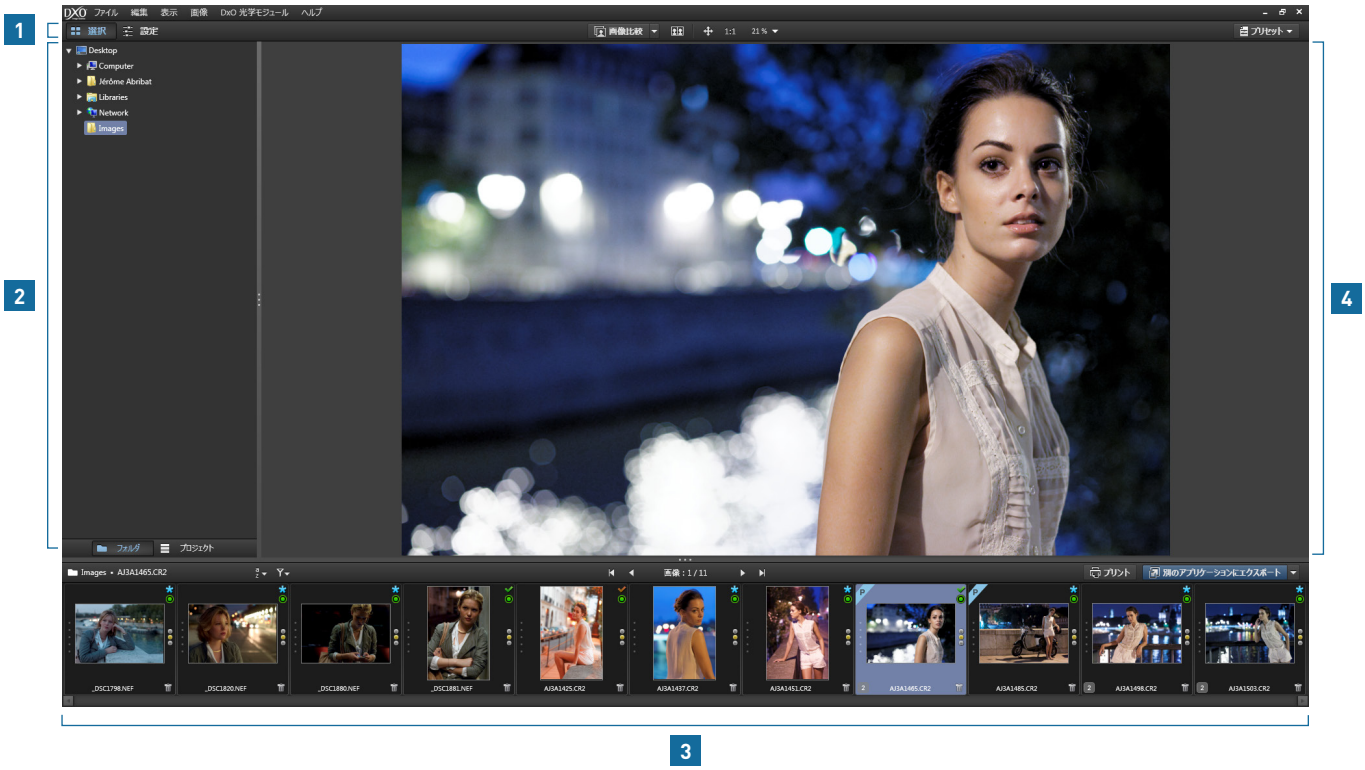
1. **アプリケーション**フォルダをクリックします。
2. DxO Optics Pro 9 のアイコンをゴミ箱をドラッグ＆ドロップします。

選択タブ

2.1　選択タブについて

DxO Optics Pro を起動すると**選択**タブが開きます。この最初の画面では、単体やバッチで処理したい画像が含まれたフォルダやプロジェクトを探したり選択することができます。

2.2　選択タブインターフェイス



選択タブは 4 つのパネルから成り立っています：

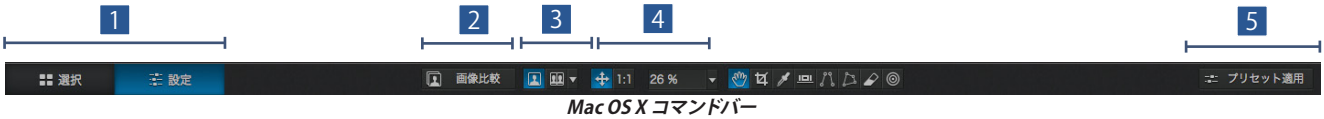
1. **コマンドバー：**ファイルシステムのナビゲート、画像の表示、プリセットの適用。
2. **参照ブラウザ：**フォルダやプロジェクト内を見て、処理したい画像を探します。
3. **画像ブラウザ：**選択したフォルダやプロジェクト内の画像のサムネイルを表示。
4. **画像ブラウザ**内で選択した画像のプレビュー表示。

NOTE

これらの 4 つのパネルは、必要に応じて調整できます。それぞれは間にある縦横 2 つのセパレータで区切られており、中央に Windows の場合は矢印、OS X の場合は点が表示されています。それぞれのセパレータを動かしてサイズを変更することができます。

2.3 コマンドバー

Windows コマンドバー



Mac OS X コマンドバー

コマンドバーは DxO Optics Pro のタブを切り替えたり、どの画像を**プレビュー**するかなどを選択できます。**プリセット**適用のメニューもあります。

1 **タブ選択**：コマンドバーの一番上にあります。各タブを設定できます。

2 **表示モード**：

- **補正前画像と補正のプレビュー画像を前後に交互に表示**:単一画像がプレビューされます。補正された画像が表示され、画像上でクリック（または Windows：Ctrl + D、Mac OS X：D）すると、補正画像と参照画像表示を切り替えることができます（参照画像はショートカットキーやマウスボタンを押している間表示されています）。

- **参照画像の選択ドロップダウンメニュー（Windows)**:比較用に参照画像を選択できます。オリジナル画像（デフォルト）、出力画像、バーチャルコピーから選択できます。

3 **補正前画像と補正のプレビュー画像を並べて表示**（Windows）：補正前のオリジナル画像を左に、DxO Optics Pro で補正されるプレビュー画像を右に並べて表示します。Mac OS X では、参照画像を選択できます。

4 **画像表示サイズ**：

- **ズームフィット**：このボタンをクリックすると、表示エリア内に画像がフィットするサイズになります。

- **1:1**：このボタンをクリックすると、100% 表示（1:1 スケール）になります。

- **ズームレベル**：1:1 ボタンをクリックした後、ドロップダウンメニューからズーム設定を変更できます（25 ／ 50 ／ 75 ／ 100 ／ 200 ／ 400%）。

5 **プリセット**：ドロップダウンメニューから利用可能なすべてのプリセットを選択できます。

2.4 参照ブラウザ

参照ブラウザはコンピュータやドライブ内のディレクトリを表示したり、プロジェクトデータベース内のプロジェクトを参照できます。

参照ブラウザ（Windows と Mac OS X）

2.4.1 コンピュータ内のディレクトリファイルを参照する（初期設定）

参照ブラウザで**フォルダ**を選択すると、コンピュータ内のディレクトリを表示します。内部追加ドライブや外付けハードディスク、CD-ROM、DVD、メモリカードなども表示されます。参照ブラウザ内で処理したい画像が入っているディレクトリやフォルダを探します。フォルダアイコンをクリックすると、そのフォルダ内の画像のサムネイルとファイル名が画面下の**画像ブラウザ**に表示されます。Mac OS X では、フォルダやプロジェクトのボタンは表示されずに同じナビゲーションツリーにコンテンツが表示されます。

TIP

参照ブラウザは**表示メニュー > ソースブラウザを表示する／隠す**（Windows、Mac OS X）、またはショートカット Ctrl +F10（Windows のみ）で表示を切り替えることができます。

2.4.2 フォルダとファイルの管理

フォルダ表示（Windows）モードでは、新規のフォルダを作成することができます。フォルダを選択して右クリックしコンテキストメニュー内の**新規フォルダ作成**を選択します。コンテキストメニューからフォルダ名の変更も可能です。DxO Optics Pro 内でフォルダを作成すると、実際のハードディスク内でも作成されます。実際のコンピュータ上のディレクトリで作成したフォルダを見る場合は、作成したフォルダを選択して右クリックしコンテキストメニュー内の **Windows エクスプローラで開く**を選択します。Mac OS X では、Finder と同じフォルダ操作になります。

TIP

Windows でこのフォルダに画像を移動する場合は、**画像ブラウザ**内で移動する画像を選択し、**Shift** キーを押しながら移動したいフォルダへドラッグ&ドロップします。画像をハードドライブ内の別のフォルダに移動やコピーする場合には、**Ctrl** キーを押しながらドラッグ&ドロップします。Mac OS X では、**画像ブラウザ**内で画像を選択して、参照ブラウザ内の移動したいフォルダにドロップします。

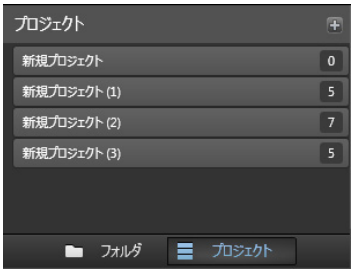
2.4.3 プロジェクトでの管理

プロジェクトには様々な元画像を含めることができます。撮影日やカメラの種類、レンズ、シャッタースピード、露出度その他で管理できるだけでなく、CD-ROM や DVD、ハードディクスなど別々の保存場所にある画像を一カ所で管理することもできます。

TIP

プロジェクトは**ファイル > プロジェクトを開く**または**前回の画像参照場所**（Windows）、**プロジェクトを開く**または**最近使用したプロジェクト**（Mac OS X）からも開けます。

Windows では、**参照ブラウザ**の**プロジェクト**ボタンをクリックします。プロジェクトがアルファベット順に表示されます（初めて DxO Optics Pro を使う場合は空です）。プロジェクトをクリックすると**画像ブラウザ**にサムネイルが表示されます。



プロジェクト管理ウィンドウ（Windows）

Mac OS X では、**参照ブラウザ**内のフォルダ構造の下にプロジェクトが表示されます。

プロジェクトの作成と削除

Windows でプロジェクトを作成するには、ヘッダにある **+ アイコン**をクリックします。新規プロジェクトがリストに表示され、名称を直接変更することができます。プロジェクトは常にアルファベット順に表示されます。名前をクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューから**プロジェクトの名称変更**を選択すればプロジェクト名はいつでも変更できます。

プロジェクトを削除するには、リストからプロジェクトを選択してヘッダにある削除アイコンをクリックします。またはプロジェクトを右クリックしてコンテキストメニューから**選択されたプロジェクトの削除**を選択します。ダイアログボックスが開いてプロジェクトを削除してよいか聞かれます。

Mac OS X で最初のプロジェクトを作成するには、参照ブラウザ内のプロジェクトヘッダの左向きの→をクリックしてから、下に表示されているコマンドバーにある + ボタンをクリックします。新規プロジェクトが表示され、名前を変更することができます。

プロジェクトに画像を追加

複数の写真から**プロジェクト**を作成する場合は、**画像ブラウザ**で画像を選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**現在選択されている画像からプロジェクトを作成する**を選択します（この操作は選択タブでも設定タブでも行えます）。Windows では、**選択タブ**のプロジェクトブラウザが自動的に開いて、新規プロジェクトが自動的に追加されています。デフォルトのプロジェクト名（新規プロジェクト）から名前を変更しておきます。Mac OS X では、プロジェクトの名前が入力できるフローティングウィンドウが表示され、選択タブの参照ブラウザ内のプロジェクトセクションに追加されます。

TIP

Windows Explorer から（Windows）、または Finder から（Mac OS X）から、**画像ブラウザ**や**プレビュー**エリアに複数の画像をドラッグ&ドロップすると、新規プロジェクトを自動的に作成することもできます。この場合は新規プロジェクトの名前を入れるダイアログボックスが開きます。

すでにあるプロジェクトにさらに画像を追加する場合は**画像ブラウザ**で画像を選択して(Ctrl + クリックまたは Shift + クリック)、または右クリックしてコンテキストメニューから**現在選択されている画像をプロジェクトに追加**を選択します。メニューから既存のプロジェクトを選択することもできます。**全てのプロジェクトを表示**（Windows のみ）でフローティングウィンドウ内に既存のプロジェクトをすべて表示することができます。

TIP

プロジェクトを開いてから、Windows Explorer（Windows）または Finder（Mac OS X）から画像をドラッグ&ドロップすることもできます。

現在選択されている画像からプロジェクトを作成する、**現在選択されている画像をプロジェクトに追加**のどちらも、選択、設定タブ内で画像メニューから開くことができます。

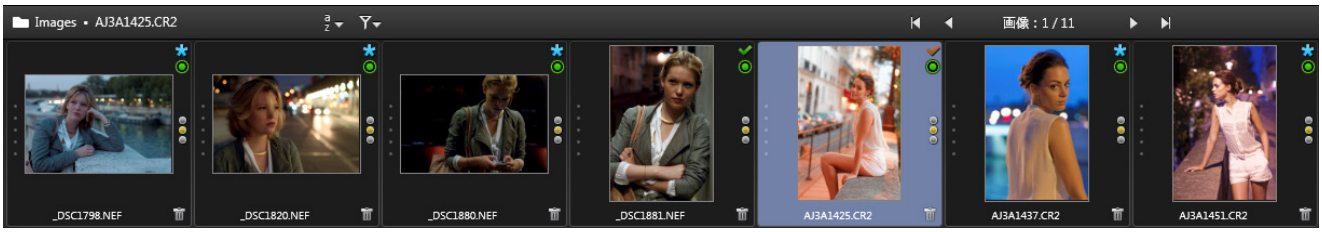
画像ブラウザのコマンドバーには、左から右に、選択したプロジェクト名、選択している画像のファイル名（Windows のみ）、選択した画像点数、プロジェクト内の画像点数が表示されています。プロジェクト内には何点でも画像を追加できます。また同じ画像を異なるプロジェクトに追加することもできます。

NOTE

複数のプロジェクトに画像を追加しても、画像自体は複製されません。複数のプロジェクトに同じ画像を追加している時、例えば 1 つのプロジェクトから画像を削除しても、他のプロジェクトからは削除されません。またプロジェクトから画像を削除しても、オリジナルの元画像は保存してあるディスクから削除されません。複数のプロジェクトに追加されている画像を補正すると、その画像が追加されているすべてのプロジェクト内で変更されます。1 つの画像で異なる補正設定をしたい場合には、バーチャルコピー機能を使います。

2.5　画像ブラウザ

画像ブラウザには、左側の**参照ブラウザ**で選択されたフォルダやプロジェクト内の画像が表示されます。**画像ブラウザ**で画像を1枚選択すると、その画像がメイン画面の一番大きいウィンドウにプレビューされます。



画像ブラウザ

2.5.1　画像ブラウザをドックする

画像は横並びでサムネイルとして表示されます。左右はスクロールバーやマウスホイール、トラックパッドなどを使って移動できます。**画像ブラウザ**は画像プレビュー間のセパレートバーを移動することでサイズを変更できます。

2.5.2　画像ブラウザを切り離す

セカンドモニタを利用している場合など、**画像ブラウザ**を切り離して利用すると便利です。

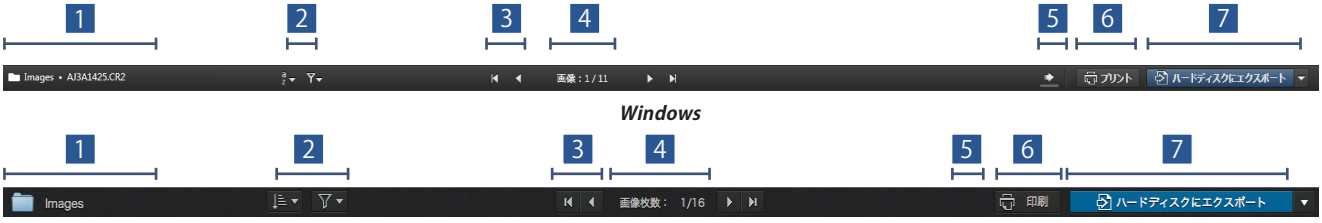
- 画像ブラウザを切り離すには、**表示**メニューから**画像ブラウザをアンドックする**を選択します（Ctrl + U）。
- 画像ブラウザを再びドックするには、**表示**メニューから**画像ブラウザをドックする**を再び選択します（Ctrl + U）。

切り離された**画像ブラウザ**はフローティングウィンドウとして表示されるので、セカンドモニタ上など、どこにでも移動することができます。**画像ブラウザ**を移動すると、メインのプレビューエリアが広く使えます。サイズ変更やスクロールバー、ナビゲーションボタンも用意されています。コマンドバーにあるスライダを使って、サムネイルサイズを調整できます。

TIP

画像のリサイズスライダが見えない場合は、画像ブラウザウィンドウを大きくしてください。

2.5.3　画像ブラウザのコマンドバー



Windows

Mac OS X

1. **選択フォルダ**名、または**プロジェクト**名と、選択されている画像のファイル名（Windows のみ）
2. **ソートとフィルタのオプション**：
   - **ソート**：画像ブラウザ内の並び順の条件
   - **フィルタ**：表示フィルタを選択するボタン
3. **ナビゲーション**：前後の画像、または最初や最後の画像に移動します。
4. 画像ブラウザ内の**選択画像点数**と、選択した**フォルダまたはプロジェクトの画像点数**
5. **エクスポート処理ボタン**：デフォルトでは、このボタンは小さな進行バーを表示します。ボタンをクリックするとフローティング進行パレットが表示され、進行バーと進行中または終了したエクスポートの詳細が表示されます。
6. **選択された画像をプリントする**：プリントの設定やプレビューが可能な、プリントダイアログを開きます。

7 **ディスクへエクスポート**：ドロップダウンメニューからハードディスクや外部アプリケーション、または Flickr ギャラリーへの書き出しが行えます。

NOTE

処理ボタンと進行バーはエクスポートを開始した後のみ表示されます。

2.5.4 画像ブラウザの情報メッセージ

NOTE

ディスクへのエクスポートボタンとエクスポートオプションウィンドウは、以前のバージョンの DxO Optics Pro の処理タブに該当します。詳しくは第 4 章を参照してください。

NOTE

画像ブラウザが切り離されている場合は、コマンドバーにサムネイルのサイズが変更できるスライダが表示されます。

画像ブラウザが空の場合、表示できる画像が無いことを知らせるメッセージが表示されます。画像ブラウザが空になる主な理由は以下の通りです：

- 画像が選択されていない。
- フィルタ条件にあった画像がフォルダ内にない。
- フォルダ内に画像がない。

2.5.5 ソート

ソート機能は、ファイルシステムや、プロジェクトと同じように機能します。**ソート**ボタンをクリックすると表示されるダイアログボッ

NOTE

このメッセージは、フォルダまたはプロジェクトでも表示されます。

クスから選択した条件に従って、画像を並べ替えることができます。ソートボタンの並べ替え条件は以下の通りです：

Windows

- **ファイル名**：アルファベット順のファイル名
- **登録日**：プロジェクトに追加された日付
- **フォーマット（RAW/JPEG）**：同じフォルダやプロジェクト内にある場合に RAW と RGB を並べ替えます。
- **拡張子**：.jpg、.tiff、.NEF、.CR2 などアルファベット順
- **サイズ**：ファイルサイズ（MB）
- **作成日**：撮影日、作成日、または変更日です。フォルダ内の最も新しいファイルを探したい場合などに便利です。
- **画像サイズ**：ピクセル数（長さ x 高さ）
- **カメラ機種**：カメラ本体のメーカーとモデル
- **レンズ**：メーカーとモデル
- **ランク付け**：星の数（このオプションは**編集** > **プリファレンス** > **表示**で選択した場合のみ表示されます）
- **ISO 感度**：ISO 設定
- **バーチャルコピー連番**：すべてのバーチャルコピーを元画像と一緒にグループにできます。
- **処理ステータス**：エラー、実行済、処理中、処理待ち（このオプションは**編集** > **プリファレンス** > **サムネイル**で選択した場合のみ表示されます）

Mac OS X

- **ファイル名**：アルファベット順のファイル名
- **登録日**：プロジェクトに追加された日付
- **フォーマット（RAW/JPEG）**：同じフォルダやプロジェクト内にある場合に RAW と RGB を並べ替えます。
- **拡張子**：.jpg、.tiff、.NEF、.CR2 などアルファベット順
- **サイズ**：ファイルサイズ（MB）
- **作成日**：撮影日、作成日、または変更日です。フォルダ内の最も新しいファイルを探したい場合などに便利です。
- **画像サイズ**：ピクセル数（長さ x 高さ）
- **カメラ機種**：カメラ本体のメーカーとモデル
- **レンズ**：メーカーとモデル
- **ランク付け**：星の数（**編集** > **プレファレンス** > **サムネイル**で表示設定ができます）
- **ISO 感度：**ISO 設定

2.5.6 フィルタ

画像ブラウザに表示するサムネイルにフィルタをかけることができます。項目にチェックがかかっていない場合はその条件に該当

> **NOTE**
>
> 表示されていない画像は補正設定や処理用に選択できません。

する画像は表示されません。利用可能なフィルタボタンの上から順に：

Windows

- **画像の種類**：RAW または RGB（RAW 以外の対応ファイル形式）、DxO Optics Pro で処理された画像
- **ノイズ除去**：スタンダードまたは PRIME ノイズ除去 エンジンのどちらかを使って処理された画像
- **処理の状況**：処理不可能、処理待ち、処理済み、処理中、処理エラー
- **ランキング ***：0 から 5 までの星の数
- **リセット**：フィルタをリセットしてデフォルト設定に戻します（すべての画像を表示します）。

Mac OS X

- **画像の種類**：RAW または RGB（RAW 以外の対応ファイル形式）、DxO Optics Pro で処理された画像
- **DxO 光学モジュール**：モジュールの利用可能状況により分類
- **処理の状況**：処理不可能、処理待ち、処理済み、処理中、処理エラー
- **ランキング ***：0 から 5 までの星の数
- **ISO スピード**：High または PRIME ノイズ除去 エンジンのどちらかを使って処理された画像
- **リセット**：フィルタをリセットしてデフォルト設定に戻します（すべての画像を表示します）。

* **DxO Optics Pro** > **プレファレンス** > **サムネイル**で表示設定ができます。

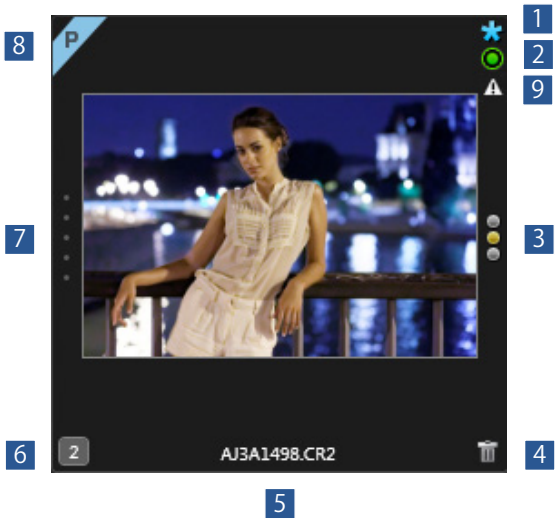
> **NOTE**
>
> フィルタの **PRIME** と **High** は、**設定**タブのノイズ除去パレットでの設定によってフィルタされます。ただし、ノイズ除去の設定が行われていない画像も High に分類されます。

NOTE

フィルタを実行すると、ソフトウェアを再起動した後も有効です。

2.5.7 サムネイルアイコン

画像ブラウザのサムネイルには、様々な情報を表す多くのアイコンが表示されています。



1 処理ステータスアイコン

各画像の処理ステータスを表しています：

- 処理待ち（デフォルト）
- すでに処理が完了
- 処理時にエラー
- 処理されない画像
- 処理不可（小さすぎる画像は DxO Optics Pro では処理できません。または未対応のフォーマット（例えば未対応のカメラで撮影された DNG 画像など）の場合に表示されます。
- 現在処理中

2 モジュールステータスアイコン

画像に関連した DxO 光学モジュールの状況を表しています：

- DxO 光学モジュールの準備 OK
- この画像用の DxO 光学モジュールは用意されていません
- DxO 光学モジュールのダウンロードが可能
- DxO 光学モジュール曖昧性 - アイコンをクリックすると正しい DxO 光学モジュールを選択するダイアログボックスが表示されます。
- DxO 光学モジュール曖昧性が解決済み

3 処理ステータスアイコン

このアイコンでは処理にまわしてよい画像（青）、処理しない画像（赤）、保留（黄）で表します。プロジェクトに追加した際にはデフォルトですべての画像に黄色が付きます。処理を開始すると青と黄の画像は処理されますが、赤の画像は処理されません。画像ブラウザ内のサムネイルを右クリックすることで処理ステータスを変更することができます。処理ステータスアイコンが表示されている状態でコンテキストメニューから**処理を可能にする**を選択します。

4 削除アイコン

元画像をディスクから削除する、またはバーチャルコピーを画像ビューワーから削除します。

5 ファイル名

ファイル名はデフォルトで表示されます。通常の画像拡張し（.jpg、.tiff 等）や、特定の拡張子（.CR2、.NEF 等）も一緒に表示されます。

6 **バーチャルコピー**
バーチャルコピーの番号（1、2、3 等）が表示されます。

7 **ランク付けアイコン**
画像のランクを 0 から 5 の星の数で表示します。

8 **PRIME**
エクスポートの際に PRIME ノイズ除去エンジンが実行される画像に表示されます。

9 **データ消失アイコン**（Mac OS X のみ）
このアイコン はデフォルトでは非表示になっています。焦点距離や撮影距離が、カメラによって画像内の EXIF 情報内に書き込まれていない場合です。これらの情報が欠落していると、自動ディストーション補正の結果にわずかに影響します。

この場合は**光学補正**パレット内に、**焦点距離**と**撮影距離**のスライダが表示されます。DxO Optics Pro では焦点距離のスライダは無限遠に設定され、撮影距離は EXIF 情報内のデータになっています。正確な情報がわかっていれば入力することもできます。

NOTE

アイコンは非表示にしたり、マウスがのった時だけ表示させることができます。**編集** > **プリファレンス** > **表示** > **画像ブラウザ**（Windows）、**DxO Optics Pro** > **プレファンレンス** > **サムネイル** > **アイコン表示**（Mac OS X）で設定を行います。いくつかのアイコンはデフォルトで非表示になっています。

2.6 DxO 光学モジュール

DxO Optics Pro は撮影機材に基づいた DxO 光学モジュールを使って、自動処理が可能です。DxO 光学モジュールを管理できる 2 つのダイアログボックスも用意されています。

NOTE

DxO 光学モジュールの検索とインストールにはインターネット接続が必要です。以下のページから手動でダウンロードすることもできます：**http://www.dxo.com/intl/photo/dxo_optics_pro/manual_download**

2.6.1 新規 DxO 光学モジュールのインストール

DxO 光学モジュールのダウンロードウィンドウを表示するには **DxO 光学モジュール** > **インストールされていない DxO 光学モジュールのダウンロード**（Windows）、**DxO 光学モジュール** > **DxO 光学モジュール管理**（Mac OS X）を選択します。

ダウンロードできる DxO 光学モジュールの一覧がアルファベット順にメーカー別に表示されます。Windows 版では、リスト全体の表示や、**メーカー名**のドロップダウンメニューから特定のメーカーモデルを表示することができます。

DxO 光学モジュールを追加でダウンロードするには：

Windows

1. ダウンロードしたいカメラにチェックを入れます。
2. **次へ**をクリックします。
3. レンズを選択してチェックを入れます。
4. **次へ**をクリックします。
5. 選択した DxO 光学モジュール（カメラとレンズの組み合わせ）のリストが表示されます。
6. **次へ**をクリックします。
7. モジュールがダウンロードされインストールされます。
8. インストールが完了した旨のダイアログボックスが表示されます。
9. **OK** をクリックして、モジュールインストーラを閉じます。

Mac OS X

1. メーカー名の横にある三角形をクリックし、カメラモデルの三角形をクリックします。
2. リストからカメラとレンズの組み合わせを選択して、**ダウンロード**をクリックします。
3. モジュールがダウンロードされ、自動的にインストールされます。
4. 他のモジュールが必要な場合は同じステップを繰り返します。
5. **閉じる**をクリックして、モジュールインストーラを閉じます。

2.6.2 インストールされている DxO 光学モジュールの管理

Windows

DxO 光学モジュールウィンドウには、インストールされているモジュールがすべて表示されます。ウィンドウを開くには、**DxO 光学モジュール** > **DxO 光学モジュールの有効性の表示・確認**メニューを選択します。表示モジュールはフィルターをかけて絞り込むことができます。アップデートされたモジュールのみ、または対応していないモジュールのみを表示させることができます。

モジュールを再度ダウンロードするには、リストから選択して、インストールをクリックし、新規モジュールをインストールするウィンドウを開きます。

同じ方法でモジュールを削除することもできます。モジュールを削除して良いかどうか確認のダイアログボックスが開きます。

Mac OS X

DxO 光学モジュール画面の下にある**インストールされた DxO 光学モジュールのみ表示する**にチェックを入れると、コンピュータ内にインストールされているモジュールを表示することができます。

追加のモジュールをダウンロードしてインストールするには、**インストールされた DxO 光学モジュールのみ表示する**のチェックを外して **2.6.1** の手順で実行します。

DxO 光学モジュールをコンピュータから削除するには、リスト内でクリックしてから、**削除**ボタンをクリックします。

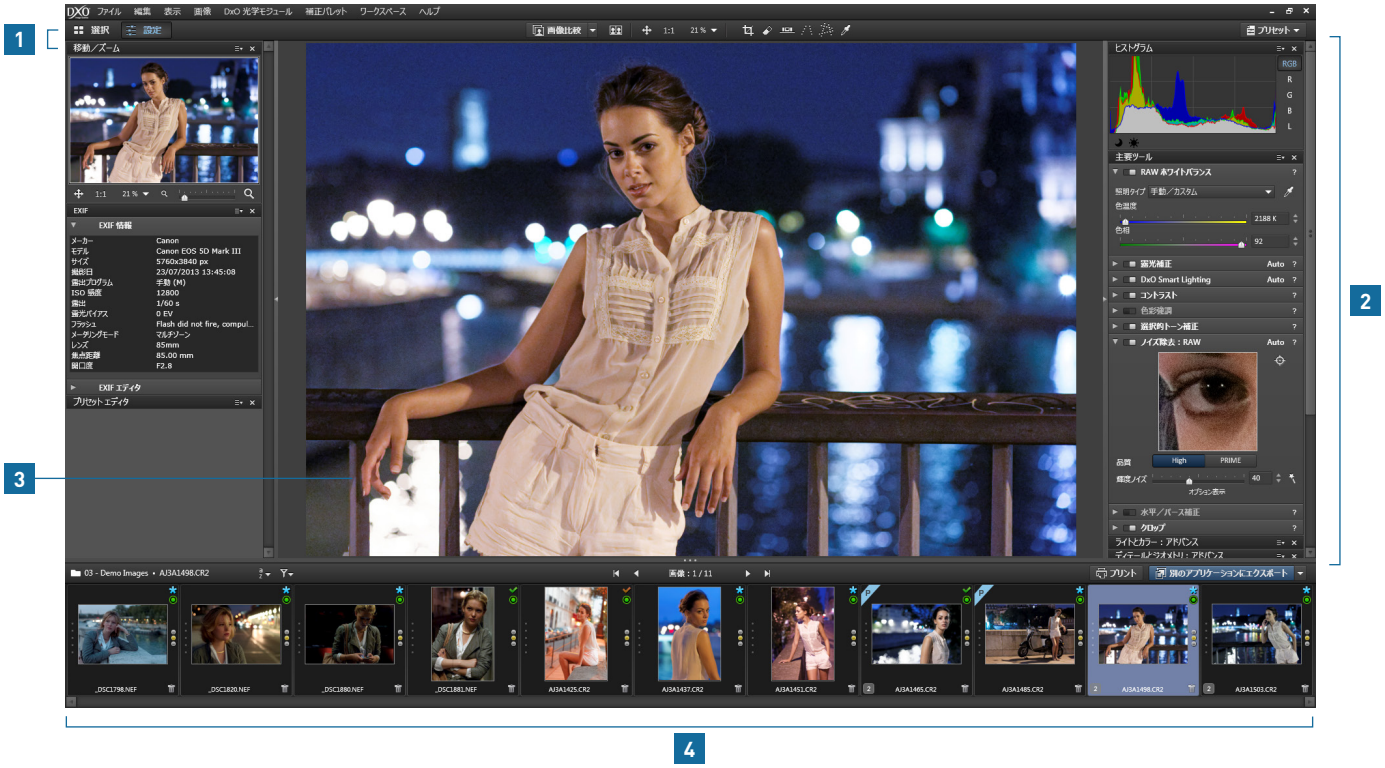
NOTE

進行中の処理で利用されている DxO 光学モジュールは削除できません。削除する場合は、DxO Optics Pro を再起動して、画像を読み込む前に **DxO 光学モジュール管理**を開いて削除します。

設定タブ

3.1　設定タブについて

DxO Optics Pro 9 の 2 つ目のタブである設定タブでは画像の補正設定を行います。



設定タブは 4 つのパネルに分かれています。

1 **コマンドバー**：主に画像の表示方法に利用します。参照タブのコマンドバーと似ていますが追加されている機能があります。

2 **パレット**：ウィンドウの右側に補正ツールが配置されています。このパレットは画面の左側に移動することも可能です。

3 **プレビューパネル**：画像ブラウザで選択した補正画像を表示します。様々なツールを使った補正効果を確認することができます。2 画面表示にして、補正前と補正後の画像を並べて表示することもできます。

4 **画像ブラウザ**：すべてのタブで利用できます。プロジェクトやフォルダを参照して読み込んだ画像が表示されます。

3.2　ワークスペースの基本

DxO Optics Pro 9 を起動して最初のワークスペースの右側には**主要ツール**が開き、編集時によく利用する重要なツールのみがあるパレットが表示されます。もちろんすべてのパレットを表示させることもできます。各ツールのタイトルバーをクリックするとパレットを拡張することができます。

画面上部のコマンドバー、中央のパネル、処理中画像の表示などは、デフォルトのワークスペースから変更することはできません。その他であれば、独自のカスタムパレットを作成したり、パレットを非表示にしたり、好きな位置に配置して、ワークスペースを好きなように作成、保存、変更または削除することができます。

3.3　パレットとワークスペース

3.3.1　パレットの使い方と移動

補正パレットは利用できる補正項目がセットになっています。例えば**主要ツールパレット**内には、画像の基本的な設定に必要なホワイトバランス、露光、コントラストなどが用意されています。

TIP

パレットのタイトルバーをクリックすると、パレットを開いたり閉じたりできます。パレットはタイトルの左にある三角形をクリックして開いたり閉じたりできます。

デフォルトでは、補正パレットは画面の右側にドックされています。左側には EXIF 情報やプリセットパネル等、画像の解析関連のパレットが表示されます。これらのパレットはタイトルバーをドラッグすることで、画面内の好きな位置に移動できます。パレットを閉じるには、タイトルバーにある × をクリックします。閉じたパレットを再び表示するには、**パレット**メニュー（Windows）、または**表示** > **パレット**メニュー（Mac OS X）から選択します。

各パレットのタイトルバーにあるドロップダウンメニューを使って、これらの操作をすることもできます。パレットを開く、閉じる、画面左側や右側に表示させる、パレットの並び順を変えることなどができます。

すべての必要なパレットを画面の片側に寄せることによって、画像プレビュー画面を広く取ることもできます。

TIP

画面プレビューを広く取るために、一時的にすべてのパレットを非表示にすることができます。Windows では、**パレット** > **すべてのパレットを表示 / 非表示にする**、または **F9** キーを押す、Mac OS X では、**Tab** キーを押します。

3.3.2　ワークスペースについて

初めて DxO Optics Pro を起動して設定タブを開くと、画像処理に必要な最低限の補正パレットのみが表示されます：

- **ヒストグラム**：RGB チャンネルの明度分散を表します。
- **主要ツール**：**ホワイトバランス**、**露光補正**、**DxO Smart Lighting**、**コントラスト**、**色彩強調**、**選択的トーン補正**、**ノイズ除去**、**水平垂直補正**、**クロップ**のパレット
- **その他**：その他のパレットはさらに高度な調整が行えるツールが用意されており、デフォルトでは折り畳まれています。**ライトとカラー：アドバンス**、**ディテールとジオメトリ：アドバンス**、**光学補正**パレット。

NOTE

DxO FilmPack がインストールされている場合は、ワークスペース内に **DxO FilmPack パレット**が表示されます。このパレットはデフォルトで開いています。

3.3.3　カスタムパレットの作成

自分が使いやすいパレットを簡単に作成できます：

Windows

1. **パレット** > **新規ユーザーパレットの作成**を開きます。
2. **マイパレット**ウィンドウで、名前を入力します。
3. **OK** をクリックすると、新しいパレットが右側の他のパレットの下に表示されます。
4. 空のパレットに、よく使うツールをパレット内にドラッグ&ドロップします。
5. よく使うツールを登録したら、他のパレットを全部閉じて、作成したパレットだけ表示しておくことができます。

Mac OS X

1. **表示** > **パレット** > **新規パレット**を開きます。
2. **新規パレット**ウィンドウで、名前を入力します。
3. **OK** をクリックすると、新しいパレットが右側の他のパレットの下に表示されます。
4. 新規パレットのタイトルバー右にあるアイコンをクリックして、追加したいツールを 1 度に 1 つづつ選択します。カスタムパレットからツールを外したい場合には、同じアイコンを再び開き、チェックを外します。
5. よく使うツールを登録したら、他のパレットを全部閉じて、作成したパレットだけ表示しておくことができます。

3.3.4 カスタムワークスペースの作成

DxO Optics Pro では、お気に入りの作業環境をカスタムワークスペースとして保存しておくことができます。ワークスペースを保存するには：

1. 不要なパレットのタイトルバーにある × 印をクリックして閉じます。
2. 必要な場合はカスタムパレットを作成します。
3. 新規ワークスペースを保存します：
   - **ワークスペース** > **ワークスペースの保存**を選択します。（Windows）
   - **表示** > **ワークスペース** > **ワークスペースの保存**を選択します。（Mac OS X）
4. **ワークスペースの保存**フローティングウィンドウで名前を入力します。
5. **保存**をクリックします。

カスタムワークスペースのドロップダウンメニュー（Windows）

保存したカスタムワークスペースは以下から利用できます：

- **ワークスペースメニュー**（Windows）
- **表示 > ワークスペースメニュー**（Mac OS X）

DxO Optics Pro を再起動すると、最後に使用していたワークスペースが開きます。

カスタムワークスペースを削除するには：

- **ワークスペース**メニューから、削除したいワークスペースを選択し、**ワークスペースを削除**を選択します。削除の確認画面が開きます。（Windows）
- **表示**メニューから**ワークスペース**を開きます。削除したいワークスペースを選択してから**ワークスペースを削除**を選択します。削除の確認画面が開きます。（Mac OS X）

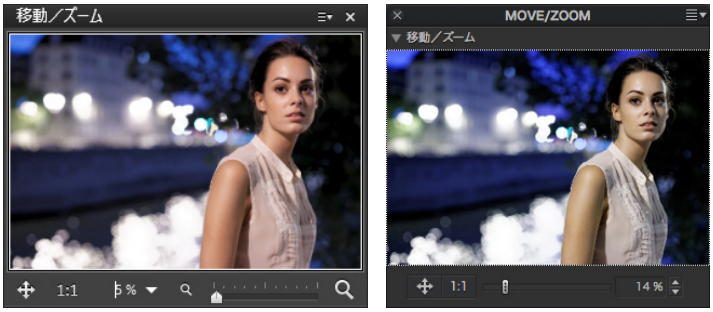
NOTE

DxO - スタンダードワークスペースは削除できません。

3.4 画像解析パレット

選択タブのパレットは**画像プレビュー**の左右にあります。補正関連のパレットが右側に、画像解析関連のパレットが左側にあります。

3.4.1 移動／ズームパレット



移動／ズームパレット（Windows と Mac OS X）

移動／ズームパレットは拡大表示してディテールを確認するなど、**プレビュー**の表示方法を変更することができます。画像を拡大すると、すべての方向に自由に移動することができます。プレビュー内の白い四角をクリックして移動します。表示パネル内の画像が連動して動きます。パレットのコマンドは、ズームスライダを除き、**設定**タブのコマンドバーと同じです：

- **ズームフィット**アイコンは、可能な表示エリア内で可能な限り大きく全画面を表示します。
- **1:1** アイコンは、画像を 1 対 1、または 100% のスケールで表示します。この設定であれば DxO で行える補正の効果を確認することができます。

TIP

Windows では、マウスホイールを使ってズームイン／アウトに利用できます。Mac OS X ではコマンドキーを押しながらマウスホイールを回す、または Magic Mouse® の機能を使う、トラックパッドのピンチズームを使ってズームイン／アウトができます。

- **ドロップダウンメニュー**からあらかじめ用意されたズーム倍率（25 ～ 400% まで 6 種類）が選べます。
- **スライダ**（2% ～ 1600%）で素早くズームイン／アウトが可能です。

3.4.2 EXIF 情報パレット

EXIF パレット（左が Windows、右が Mac OS X）には、変更ができない画像情報が含まれています。

EXIF エディタでは著者とコピーライトを編集することができます。

画像情報

> **NOTE**
>
> 変更できない画像情報と、著者、コピーライトは、OS X **EXIF Editor** のひとつのセクションに一緒にグループされます。

> **NOTE**
>
> 画像を配信する場合には、画像著作権を守るために、名前とコピーライト情報を画像内に入れておくことをお勧めします。

EXIF 情報には、カメラが画像ファイルのヘッダ内に書き込んだ情報が表示されます。この情報は変更できません。また補正後の画像にもコピーされて保存されます。この情報には撮影したカメラモデルやメーカー、レンズモデル、撮影日、画像の画素数、露光、開口度、ISO 感度、焦点距離、露出スピード（シャッタースピード）、露出バイアス、フラッシュのあるなし、メータリングモード、レンズモデル、焦点距離などが含まれます。

EXIF エディタ

EXIF 情報では、画像のメタデータ部分の著者とコピーライトフィールドの情報を編集することができます。

3.5 補正パレット

3.5.1 補正パレットについて

DxO Optics Pro の **DxO - スタンダード**ワークスペースでは、ヒストグラムなど 5 つの補正パレットに分類されたツールが表示されています：

NOTE

パレットのいくつかは、さらに高度なツールが含まれており、デフォルトでは非表示になっています。これらのツールを表示するには、オプションラベルをクリックする（Windows）、またはパレットの右下隅にある+アイコンをクリックします（Mac OS X）。

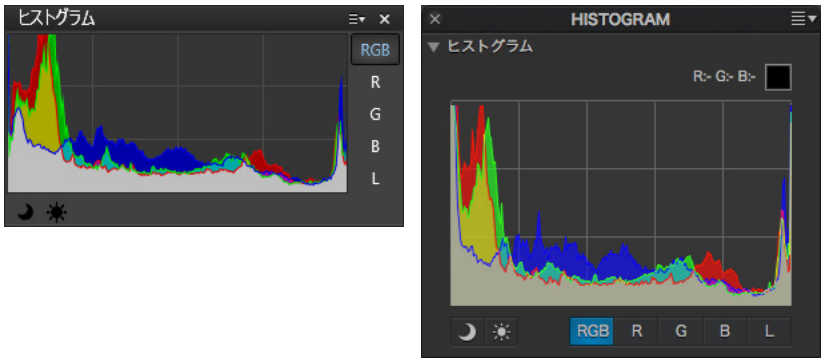
- **ヒストグラム**：RGB 各チャンネルの光分布と明度を表示します。
- **主要ツール**：ホワイトバランス、露光補正、DxO Smart Lighting、コントラスト、色彩強調、選択的トーン補正、ノイズ除去、クロップなど基本的なツール
- **ライトとカラー**：**アドバンス**：カラーレンダリング、スタイル - 調色処理、トーンカーブ、色相／彩度／明度
- **ディテールとジオメトリ**：**アドバンス**：アンシャープマスク、モワレ、ダスト除去、ボリューム歪像
- **光学補正**：焦点距離、撮影距離、ディストーション、ヴィネット、倍率色収差、DxO レンズブラー（このパレットのツールはレンズがサポートされていれば、DxO 光学モジュールで自動補正されます）

DxO FilmPack がインストールされていれると、**DxO FilmPack** という 6 つ目のパレットとして表示されます。

3.5.2 ローカルヘルプ

各補正パレットには、その場で見られるヘルプシステムが用意されています。パレットの右上にある小さいクエスチョンマークをクリックすると、各ツールの機能を紹介するヘルプテキストがパレットのツールの下に表示されます。もう一度クエスチョンマークをクリックすると非表示にできます。

3.5.3 ヒストグラムパレット



ヒストグラムには、各カラーの明度ごとのピクセル数が表示されます。

RGB チャンネルと明度チャンネルは個別にも表示できます。

ヒストグラムについて

ヒストグラムチャートは、輝度の各レベルにどの程度のピクセルが存在するかを表しています。チャートの山が高いほど、その値のピクセルが多く存在することを意味します。チャートの山が左によっている場合は、その画像はローキーな画像です。逆に右側によっている場合は、明るいハイキーな画像と言えます。バランスのとれた最適露光された画像ではヒストグラムの幅いっぱいに値が連続しています。

RGB と L チャンネル

DxO Optics Pro のヒストグラムツールは、各カラーチャンネルの明度値を計算し、同じチャート上に重ね合わせて表示していますが、チャンネルごとに表示することもできます。チャートの右側にあるボタンをクリックします：

- **RGB**：すべてのチャンネルを同時に表示します。
- **R、G、B**：各チャンネルごとに表示します。
- **L**：輝度チャンネルを表示します。

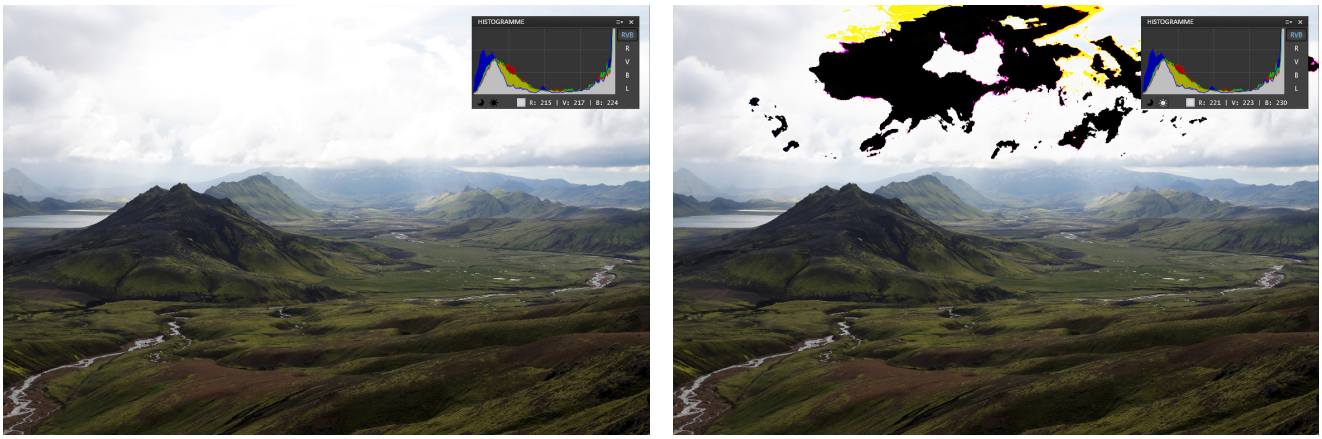
画像上にマウスポインタがある場合は、ヒストグラムはそのポインタの位置の RGB 値を表示します。値は 0 から 255 の間で、選択されている色がパッチに表示されます、色かぶりをしている場合などに、どの色が強く出ているのかを見ることができて便利です。

クリッピング

輝度レベルがヒストグラムの一番左（ブラックポイント）、または一番右（ホワイトポイント）を超えていると、黒潰れや白とびを起こします。この状態、またはこれに近い状態のピクセルはクリッピングを呼ばれています。画像内にとても暗いエリアがあって、その画像の明度を下げると、暗いエリアがクリップされる可能性があります。逆の場合も同様で、暗いエリアを明るく調整しようとすると、ハイライト部分がクリップされディテールが失われます。ヒストグラムチャートの下に 2 つのツールが用意されています。

シャドウのクリッピング：このアイコンをクリックすると、暗いエリアに情報が残っていない領域を色で表示します。

ハイライトのクリッピング：このアイコンをクリックすると、明るいエリアに情報が残っていない領域を色で表示します。3 色すべてのカラーチャンネルが飽和していて白とびを起こす場所は、画像上で黒く塗りつぶされます。1 色でもカラー情報が残ってい場合は別の色で表示されます。そのエリア上でマウスを動かすことで、ヒストグラムで各カラーチャネルの明るさが数値で表示させることができます。



右側の画像ではクリップされたハイライト部分が見えるように表示されています。

TIP

クリップされた画像のディテールをリカバーするためにハイライトを修正する場合、例えば光源（電球や太陽など）や金属の反射箇所などのとても明るい場所を修正しようとするのは意味がありません。

3.5.4　主要ツールパレット

主要ツールパレットには、ホワイトバランス、明度、コントラスト、トーン、カラー、ノイズ、水平垂直、クロップなど、画像を補正する上で必要となる基本的なツールが含まれています。その他の上級ツールはこのガイドの後の章で紹介しています。

ホワイトバランス

光源の種類を問わず、一般的に人の目には光は白く見えますが、日中の光には強い青が含まれ、シャドウ部や空が青かぶりします。白熱電灯では黄色かぶり、また蛍光灯によって複雑な緑かぶりを起こします。ホワイトバランスを調整することでこのような好ましくない色を修正することができます。

ホワイトバランスパレット

ホワイトバランスの補正設定は画像ファイルの形式によって異なります：

・**RAW ファイル**：ホワイトバランスは確定していないので、パレット内のすべてのツールをり使って編集できます。

NOTE

画像ブラウザ内で、RAWファイル、JPEGファイルのどちらを選択したかによって、**ホワイトバランス**パレットは自動的にファイル形式にあわせて最適化されます。

・**RGB ファイル（TIFF や JPEG）**：ホワイトバランスはカメラ内処理や、他のソフトウェアですでに決定されています。編集は制限され、**色温度**のスライダと**カラーピッカー**しか使えません。

あらかじめ用意された設定を使う（RAW ファイルのみ）

多くの場面で利用できるドロップダウンメニューに用意されたプリセットの利用が可能です。太陽光、曇天、日陰、タングステン、蛍光灯など 12 種類が用意されています。

NOTE

ホワイトバランスは、DxO Optics Proが唯一利用するカメラ内設定です。にあわせて最適化されます。

デフォルトでは**撮影時設定**が選択されています。この場合は撮影されたままのホワイトバランスが表示されます。ホワイトバランスパレット内の**色温度**、**色相**スライダを使うと、ドロップダウンメニューは自動的に**手動／カスタム**になります。

カラーピッカーを使う（RAW または RGB ファイル）

TIP

ニュートラルグレイの箇所が小さい場合は、画像を拡大して正確に選択できるようにします。

ホワイトバランスカラーピックツールーアイコンをクリックして、元画像上でカラーピッカーで色の影響を受けていないニュートラルグレーであるべき箇所をクリックして選択します。カラーピックツールを選択すると、画面は 2 画面に分かれます。左側の画像でカラーピッカーを使って色を選択します。右側に結果が表示されます。

TIP

高いISO値で撮影した画像ではノイズによるエラーを避けるため、半径スライダを10に設定してください。

NOTE

いずれの場合でも、ドロップダウンメニューから撮影時設定を選択すると、画像のEXIFデータから提供される設定に安全に戻すことができます。

ホワイトバランス半径スライダ

プレビューの下にある**半径**スライダで、サンプル領域のサイズを設定できます。

TIP

スライダ値をリセットするには、スライダをダブルクリックします。RAW、RGBファイルのどちらも、常に完璧なホワイトバランス補正が必要なわけではありません。あくまでも撮影時の空間の雰囲気を壊すことのないような調整を心がけます。

RAW ファイルのホワイトバランス補正

ホワイトバランスの調整とは別に、**色温度**と**色相**スライダを使って調整することが可能です。色温度スライダは 2,000° K から 20,000° K の間で設定することができます。**色相**スライダと組み合わせて使うと色かぶりを取り除くことができます。

RGB ファイル（TIFF または JPEG）のホワイトバランス補正

TIFF や JPEG ファイルを画像ブラウザ内で選択した場合は、RAW ホワイトバランスパレットは自動的に、色温度スライダとカラーピッカーがあるシンプルな RGB ホワイトバランスパレットになります。TIFF や JPEG ファイルでは、カメラ内の処理や他の編集ツールによってホワイトバランスがすでに決定されているため、ホワイトバランスを設定できません。この場合、画面上のピクセルは入力値に比例しません。そのため、1 つの階調を変更することによって他の階調をバランスを崩す可能性があります。例えば、中間調のグレーを補正することで、暗いグレーに若干の色かぶりを起こすことがあります。このため RAW ファイルに比べてシンプルな補正となります。**カラーピッカー**または、**色温度**スライダを動かすことで冷たい感じ（青系）か暖かい感じ（黄色系）に調整することが可能です。

露光補正

露光補正について

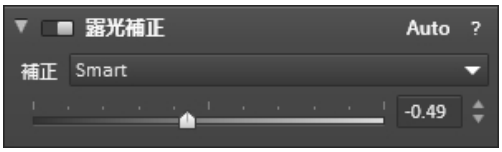
左側の画像では、特に空の部分などハイライトの多くが白とびをおこしています。

露光補正パレット内のハイライトの優先度 - 強くを選択すると、画像が暗くなることなく雲のディテールがリカバーされます。

露光補正は、画像の露光レベルに合わせて実行されます。つまり画像内の各ピクセルごとの明るさを増減します。写真では現実世界のコントラストの一部しか再現できないため、多くの画像は露光オーバー、または露光アンダーの領域を持ってしまいます。

デジタル写真では、カメラセンサーは特定レベル以上の光を「飽和」と受け取り、白いピクセルで表現してしまいます。空や反射物によく発生するこのような白とびを回避しようとすると、コントラストに注意する必要があります。**露光補正**と**ハイライトリカバリー**は、これらを考慮して補正が実行されます。露光補正は RAW 画像の方がより大きな補正を実行する可能性を持っています。一方 JPEG 画像では、カメラの露光補正、ホワイトバランスなど、どのような理由であっても、ハイライト情報はすでに失われています。

RAW ファイルの補正



ハイライトリカバリーのための 3 つの補正モードが用意されています。（Windows）

露光補正のドロップダウンメニューには 5 つの自動補正モードと、手動調整用の**カスタム**があります：

- **Smart**：ハイライトのリカバリーを行いながら、画像内のシャドウ部分を持ち上げます。
- **中央部に配慮した平均**：画像の中心部の露光に合わせて平均させます。
- **ハイライトの優先度**は、**弱く**、**普通**、**強く**のハイライトリカバリーを実行します。この 3 つのレベルを選択する場合は、ヒストグラムでハイライトクリッピングを表示させながら行うと便利です。ハイライトクリッピングボタンをクリックすると、ハイライトの白とび領域を色で表示します。

手動調整をする場合は、**露光**スライダを使います。-4 ～ +4 Ev（1 Ev ＝ 1f-stop）間で調整することもできます。スライダを右に動かすと明るくなり、左に動かすと暗くなります。

TIP

多くの撮影状況に合わせて手動で調整するより、自動の露光補正オプションを利用した方が、補正作業をスピードアップできます。一般的に普通のコントラストで撮影された画像であれば弱くの設定で十分です。

JPEG または TIFF ファイルの補正

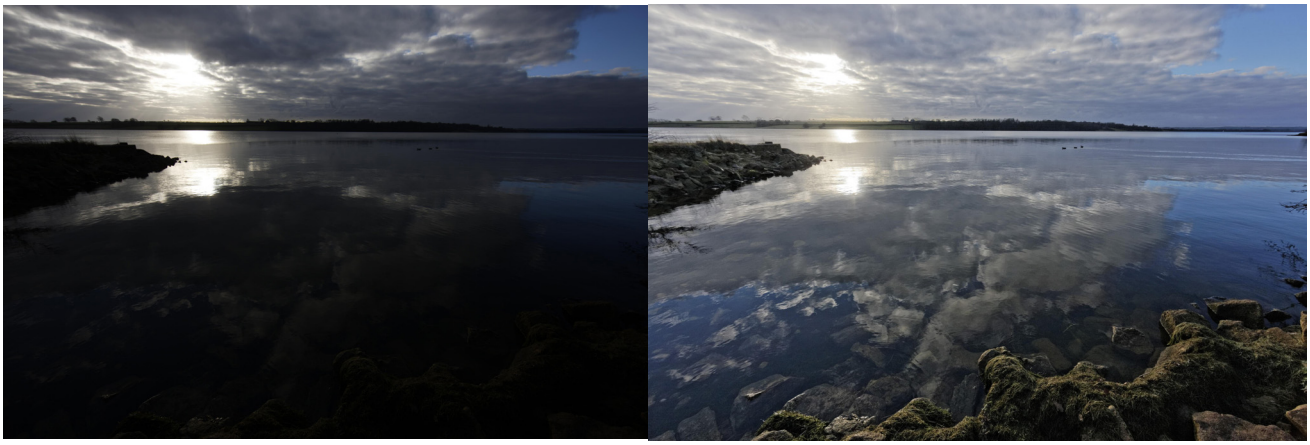
デフォルトでは **Auto** モードになっています。手動で露光を -4 Ev ～ +4 Ev まで**強さ**スライダで変更できます。

TIP

できればヒストグラムで**ハイライトのクリッピング**ボタン（ヒストグラムの右下）を利用して変化を確認しながら、少しずつ調整することをお勧めします。ハイライトクリッピングを表示しながら使うと、露光を上げすぎた場合にクリップゾーンが表示されたり、クリップゾーンが残っていて十分明るさが落とせていないなどがわかります。

DxO Smart Lighting

DxO Smart Lighting について

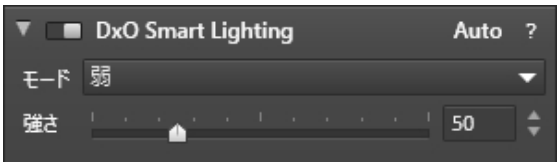


逆光の画像は DxO Smart Lighting の効果が出やすいケースです。
強いコントラストを持つ画像も、まるでフラッシュを使ったようにシャドウ部分を明るくする高いレベルの補正を実行します。

一般的な画像補正は、画像全体に適用されます。明るさやコントラストを調整しようとすると、画像全体が明るくなったり、暗くなったり、コントラストを弱くなったりします。**DxO Smart Lighting** は、画像全体ではなく、部分的な明るさとコントラストを補正します。必要な場所にのみコントラストを強調したり弱くしたりします：

- 逆光で撮影した画像
- 特にとても暗いエリアなど、非常に強いコントラストを持った画像
- フラッシュが届かない、コントラストが弱い、露光が足りないなどの画像

DxO Smart Lighting の基本設定



DxO Smart Lighting の自動モードには 3 つのレベルがあり、様々な画像に利用できます。（Windows）

他のツールと同様に、**DxO Smart Lighting** もデフォルトで自動で利用できます。ソフトウェアが画像を解析して、補正が必要なエリアを認識して補正を実行します。2 種類の調整が可能で、一緒にも個別にも利用できます。

- **1 つめのドロップ**ダウンメニューでは、補正の強さを**弱**、**ふつう**、**強**、**カスタム**の各レベルから選択できます。
- **強さ**スライダは、選択した自動補正モードの強さに設定されています。弱で 50、普通で 100、強で 150 が設定されています。スライダを動かして手動で調整することもできます。手動で調整するとドロップダウンメニューは**カスタム**になります。

DxO Optics Pro 7 モード

ドロップダウンメニューから **DxO Optics Pro 7** を選択すると、**DxO Smart Lighting** パレットには自動的に DxO Optics Pro 7 で利用していた補正項目が表示されます。以前のバージョンを使っていた方のための機能です。

NOTE

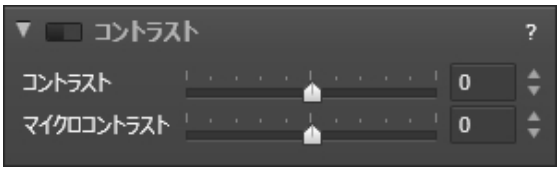
以前のバージョンの機能については DxO Optics Pro 7 のユーザーガイド (37 ～ 41 ページ）を参照してください。（http://www.dxo.com/intl/photo/support）

DxO Smart Lighting のどの設定を使ったらよいか？

DxO Smart Lighting は中でも特に複雑な補正を実行します。この補正は画像全体と部分のディテールの両方、そして明暗両方のエリアに影響し、そして画像の明るさとコントラストに大きく影響します。この複雑な補正を実行しようとすると、高度なテクニックが必要です。DxO Smart Ligting は難しい画像であっても、すばやく補正ができます。

まず始めに、ほとんどの画像の場合、DxO Smart Lighting では、明るい画像は少ししか変わりませんが、暗い画像には強く効果がかかります。**露光補正**とは異なり、ハイライト部分への効果は少しになります。次に、できるだけ 3 つの自動補正モードを使って微調整してください。ほとんどの画像に対応できるように設計されています。その後、強さスライダを使って調整します。さらに補正が必要な場合は**ライトとカラー：アドバンス**パレット内にある**選択的トーン補正**や**トーンカーブ**を使って補正します。

コントラスト



コントラストパレット（Windows）

コントラスト

NOTE

グローバルコントラスト補正は、**トーンカーブ**補正と相反するので注意してください。

このツールは、画像全体のコントラストを調整します。DxO Optics Pro は伝統的な S 字カーブを使ってコントラスト調整を行います。シャドウとハイライト部分を抑えて、中間調を拡張します。-100 ～ +100 までのスライダで調整することができます。

マイクロコントラスト

マイクロコントラストは、ローカルコントラストとも呼ばれます。このツールは、プログラムによって認識された小さなエリアのコントラストを調整します。マイクロコントラストの効果はシャープネスの結果と似たような効果を得られますが、黒や白のピクセルを追加すること無くディテールを強調することができる点で少し異なります。このツールは画像のディテールを強調しますが、

NOTE

DxO Optics Pro 9 のマイクロコントラストスライダは、以前のバージョンよりさらに強くかかるようになっています。スライダの値はこれまでと変わらない -100 から +100 までとなっていますが、+50 の設定値は、以前のバージョンの +100 に相当します。

NOTE

ローカルコントラストがかかりすぎるのを避けるために、**ディテールとジオメトリ：アドバンス**パレットの**アンシャープマスク**補正と一緒にマイクロコントラストを設定するのは避けてください。

効果は微細なので虫めがねツールで画像を拡大して確認してください。風景写真や建築写真、商品写真などに効果を発揮します。ポートレートはマイナスに設定してソフトに仕上げることもできます。

色彩強調

色彩強調パレット

色彩強調パレットには、**自然な彩度**と**彩度**の 2 つの異なるカラー調整スライダが用意されています。

自然な彩度

すべての色を強化する彩度スライダーに比べて、画像内に存在する色を考慮して微妙に機能します。「スマート」彩度調整とも言えます。スライダ値は -100 ～ +100 で、デフォルトは 0 に設定されています。スライダを右に動かすと、画像全体の彩度が鮮やかになりますが、以下のような動きをします：

- 肌は赤くならないように保護されます。
- 空のトーンを鮮やかに、暗い部分はそのままにすることで色の深みを出します。
- グレートーンは色転びがないように保護されます。

スライダがマイナスにある場合は、画像全体の彩度を下げますが、以下のような働きをします：

- 彩度は 0（モノクロ）になりません（HSL コントロールでは、彩度ゼロはモノクロになります）。
- 赤を抑える傾向にあります。これは顔が赤く写ってしまった場合に、より自然な肌色に補正する場合に利用できます。

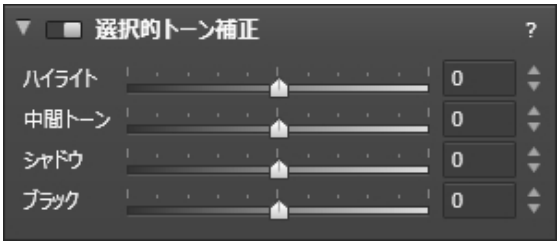
NOTE

カラーレンダリング補正の彩度の値を高く上げる場合は、この機能を組み合わせて強く使用しないようにしてください。

彩度

彩度スライダは非常にわかりやすく機能します。スライダを右に動かすと、画像全体の彩度を上げます。左に動かすと彩度が下がります。-100 まで下げると画像はモノクロになります。デフォルトは 0 に設定されています。

選択的トーン補正



選択的トーン補正パレット

選択的トーン補正パレットは、画像の階調ごとに明るさを調整する、非常に直感的で正確な方法です：

- **ハイライト**：画像内の明るい部分の情報とディテールをリカバリーします。（空の明るい雲や室内の窓を通してみる外など）
- **中間調**：中間調の明るさをコントロールします。ヒストグラムの中央値のレベルを調整します。
- **シャドウ**：シャドウや暗い部分を調整します。
- **ブラック**：ヒストグラムの左端に位置する黒い部分を調整します。スライダを左に動かすと、シャドウ部分を真っ黒にします。右に動かすと暗い部分を明るく持ち上げます（ヒストグラムの左端が右に移動し、真っ黒の部分は画像がない状態になります）。

NOTE

選択的トーン補正ツールは、画像のコントラストを劇的に変更します。極端に設定せず、クリッピングを避けるためにヒストグラムを見ながら調整します。

ノイズ除去

デジタル写真におけるノイズ

すべてのデジタルカメラは一定量のノイズを発生します。ピクセルに明暗が出るコントラストノイズと、ピクセルにグレーではなく色がついてしまうカラーノイズがあります。ノイズはハイライト部分よりシャドウ部分（光量が低い箇所）に多く見られます。高い ISO に設定すると情報をより取り込むため、同時にノイズも目立つようになります。

ノイズ除去パレット（Windows）

ノイズ除去パレットには、2 つの異なる除去アルゴリズムを持つ**品質**ボタンが表示されます。

- **High：**ノイズをすばやく効果的に取り除きます。多くの写真ではこのエンジンで良い結果が得られます。
- **PRIME：**画像をより詳細に解析して、ノイズとディテールの違いを識別します。この結果、画像品質は従来の方法よりも格段に向上し、ディテールや彩度は可能な限り保たれます。ただし演算には時間がかかります（バックグランドでの処理が可能です）。

高い ISO 感度で撮影された画像ほど、処理品質の違いがわかります。撮影したカメラの種類によって異なりますが、一般的に ISO 1600 以上になるとその違いが明確になってきます。

PRIME エンジンは、ISO 感度が低くても、暗いエリアにノイズが発生している画像などにも効果的に利用できます。シャドウ部分のノイズ除去を行うと、これまでの除去エンジンではカラー彩度に影響が出る場合があります。**PRIME** エンジンを使うと、この点で大きな違いを見ることができます。

NOTE

PRIMEエンジンは、RAW画像にしか利用できません。また**PRIME**エンジンは通常よりも多くの処理能力と処理時間が必要になります。処理コンピュータによって変わりますが、20M ピクセルのRAWファイルで数分かかります。

処理プレビュー

PRIME エンジンの効果は、画像内で選択された 150 x 150 ピクセルサイズが表示される、ノイズ除去パレット内の拡大ウィンドウで確認することができます。

NOTE

PRIMEエンジンを選択した際に、ノイズ除去パレット名の横に斜線の入った目のアイコンが表示されます。これは現在の画像プレビューでは補正結果が表示されないことを表しています。

画像内の特定のエリアをプレビュー用に選択するには、パレットの右上にある**照準**アイコンをクリックします。クリックすると、プレビュー画面内に点線の四角形が表示されます。この四角形をプレビューしたい位置まで移動します。**PRIME** エンジンが選択したエリアのプレビューを終了するまで、拡大ウィンドウに丸い小さい矢印アイコンが表示されます。

画像全体に **PRIME** エンジンを実行するためには、エクスポートする必要があります（第 4 章を参照）。

NOTE

PRIMEエンジンの補正が適用されている画像は、画像ブラウザのサムネイルに**P**の字が付いた青い帯が表示されます。

輝度ノイズスライダは、画像内のノイズを低減します。特にディテール内の高周波ノイズに効果的です。

オプション設定

ノイズ除去パレットの右下隅にある「＋」をクリックすると、以下のオプションが開きます：

- **カラーノイズ**：特に目障りなカラーノイズ（肌色の上の黄色い点や、グレーの上に現れる青い点など）を低減します。
- **低周波**（RAW のみ）：肌のレンダリングなどに影響を与える、ピクセルクラスタの様な低周波ノイズを低減します。
- **デッドピクセル**（RAW のみ)**:** どのような原因にせよセンサー上で発生した正しくライトが記録できていないピクセル（デッドピクセル）を取り除くアルゴリズムです。これは画像内で明るい点となって現れます。この現象は高い ISO 値で暗い画像を長時間露光で撮影すると多く発生します。

NOTE

DxO Optics Pro 9では、Highノイズ補正はすべてのズームレベルでプレビューできます。コンピュータの処理スピードを改善するために、**プレファレンス**画面で設定を変更できます。

パース補正／水平パレット（Windows/ Mac OS X）

パース補正／水平の補正について

パース補正／水平の補正では、2 種類の歪み補正が実行できます。ひとつはシンプルですが、もうひとつは複雑な補正です。

シンプルな補正は、画像を回転させる方法です。水平ラインを数度だけ回転させることで、撮影時にカメラが傾いてしまった画像を補正することができます。この回転補正は、木や柱などが写っている場合に垂直方向でも利用できます。少し回転させることでまっすぐに補正することができます。回転補正は必要な度数を回転させるだけの非常にシンプルな解決方法です。

パース補正はもっと複雑です。カメラが被写体に対して正面から撮影していない場合、例えば、ビルを撮影する場合などによく発生します。もしビルが高くて近くから撮影しなければならない場合は、全体を写そうとするとカメラを上向けに構えなければなりません。この場合、平行するすべての線が平行ではなくなります。

同じような現象は水平方向でも発生します。もちろんカメラが左右上下に傾いている場合もあります。このような現象は組み合わせで発生し、非常に複雑な補正になり、不足するピクセルを補完しなければならない場合もあります（この場合ディテールが失われます）。

> **NOTE**
>
> パース補正ツールを使って補正をすると、画像の一部が失われます。事前にこのツールを使うことがわかっている場合には撮影時に周囲に余裕を持って撮影しておきます。

ピクセルを再構築すると、ディテールが失われます。また画像を長方形に補正しようとすると画角が失われますが、適切な補正が適用されると写真がとても良くなります。建築写真だけではなく、風景写真やポートレートにも試してみてください。

水平ツール

水平ツールの利用は簡単です。何度も試したりする必要はありません（ツールバーからも利用できます）：

1. **水平**ボタン■をクリックします。
2. 傾いた水平線上に線を引きます。
3. マウスボタンを放すと、画像は自動的にその線が水平になるように回転します。

Ctrl ＋ Z を使って取り消すことができます。 水平スライダを使って回転することもできます。または回転フィールドに任意の角度を数字で入力することもできます（-180° ～ +180° ）。

水平ツールを使って水平にしたい線を選ぶだけで、簡単に画像を水平にすることができます。

パース補正ツール：オプション

パレット内のオプションを表示すると、追加のボタンとスライダが表示されます。これらのツールは上のコマンドバーからも利用できます。

平行

平行を強制ツール（■または■）を選択すると、2 画面プレビューになります。補正は左側の画像で実行し、その結果がリアルタイムに右側に表示されます。画像内の被写体で本来平行であるべきオブジェクト上（例えば 2 本の柱や、ドアの両側など）で 2 本の線を引きます。

長方形

長方形を強制ツール（■または■）を選択すると、2 画面プレビューになります。左側の画像上でクリック&ドラッグすると長方形を描くことができます。この長方形の各コーナーを移動して、例えば窓など、四角形にしたいオブジェクトに合わせます。この補正は単に垂直に対して平行にするだけではなく水平に対しても補正が同時に実行されます。このツールは画像を大きく変形しますので、あまり大きな角度を付けない方が良いでしょう。被写体に対して正面から撮影できなかった場合などに少しだけ変形して補正することができます。

平行と長方形補正の微調整

4 つのスライダで平行と長方形補正の微調整が行えます：

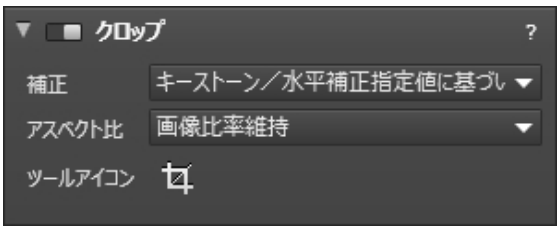
- **上／下と左／右のスライダ：**-125 ～ +125 の間で、垂直や水平のパース補正補正を微調整できます。**上／下**スライダは、水平線に対して下向き、上向きで撮影してしまった場合、**左／右**スライダは、垂直方向に対して右向き、左向きで撮影してしまった場合の補正に利用できます。
- **スケールスライダ：**プロポーションを維持しながら画像サイズを変更することができます（50%～200%）。
- **水平／垂直比率スライダ：**画像幅を変更しないで画像の高さだけを変更することができます。-100（オリジナルの 50%）～ +100（オリジナルの高さの 200%）の間で変形できます。このツールを使うと撮影したオブジェクトを変形しますので注意します。

NOTE

画像の下にある**プレビュー**コマンドバーの右にある**リセット**ボタンをクリックすれば、いつでもリセットや閉じることができます。

水平ツールを使って、縦の 2 本の線を平行にすることができます。

クロップ



クロップパレット

自動クロップ

パース補正／**水平**ツールで補正すると、画像の周囲の情報が失われます。クロップツールのデフォルト設定では **Auto**、アスペクト比は**撮影時設定**に設定され、補正後の画像を、たとえオリジナルのプロポーションを変えることになっても、可能な限り多く残すように自動的にクロップします。

- ドロップダウンメニューから**撮影時設定**ではなく、**無制約**を選択してプロポーションを維持したまま、リサイズすることもできます。例えば 4：3 は長い辺が 4、短い辺が 3 になります。
- ドロップダウンメニューから、1：1（スクエアフォーマット）、5：4（伝統的な 5×4 や 10×8 フォーマット）を選択することもできます。メニューバーに任意の数字を入力することもできます。

手動クロップ

- クロップツールボタン■をクリックすると、画像内に点線の四角形が表示されます。この四角形の角をドラッグして、移動したり拡大することができます。もし特定のアクペクト比を選択していれば、その比率でボックスが描かれ、サイズ変更時もその形が保たれます。アスペクト比が選択されていない場合は、自由に形を変更することができます。
- クロップが有効になったら画像上でマウスを左クリックしたままドラッグしてクロップボックスを描くこともできます。画像内に黒い四角形が描かれます。
- このボックスの四隅をドラッグすることで移動したり拡大することができます。ボックス内をクリックして動かすと位置を変えることができます。
- ボックスの外側をクリックすると、新しいボックスを描くことができます。

クロップツールを使っている場合は、コマンドバーが表示されます。ここではアスペクト比を設定したり、罫線の表示／非表示、ツールのリセット、閉じる、などが行えます。

3.5.5　ライトとカラー：アドバンス

ライトとカラー：アドバンスパレットには、カラーやトーン補正の高度なツールがまとめられています。**カラーレンダリング**、**スタイル／調色処理**、**トーンカーブ**、**彩度・色相・明度補正**などが含まれます。

カラーレンダリング (DxO FilmPack がインストールされていない場合)

すべてのカメラ、処理ソフトウェア、そして伝統的な写真のフィルムでは、それぞれ異なる解釈でカラーレンダリングを行います（この解釈がメーカーの評価になります）。**カラーレンダリング**パレットでは、他のカメラやフィルムで撮影したような色を再現することができます。または、同時に複数のカメラを利用して撮影した画像の調子を揃えたい場合に利用します。特定のカメラの特徴を出さずに、ニュートラルな仕上がりに揃えてクライアントに提出したいという場合もあります。

カラーレンダリングパレット

JPEG または TIFF 画像

他の補正と同様に、TIFF や JPEG 画像へのカラーレンダリング補正は、RAW ファイルへの補正に比べて限界があります。すでに処理済みの場合、撮影時の情報を取り戻すことはできません。これらのファイル形式の場合は、フィルムのみ利用できます。

フィルムカテゴリは、**カテゴリ**と**レンダリング**の 2 つのドロップダウンメニューがあります。**強さ**スライダは、オリジナル画像と他のカラースペースに変換した画像のブレンド率を調整可能です。デフォルト設定は 100 で、0 にすると元画像、100 以上にすると補正が強調された効果になります。

RAW 画像

RAW 画像はすべての光の情報が含まれているため、様々なカラースペースにも変更することができます。カラーレンダリング補正が効果的にかかります。カテゴリとレンダリングの 2 つのドロップダウンメニューから様々な設定が行えます。

ジェネリックレンダリング

カメラ本体はカメラのデフォルトレンダリングが適用されます。JPEG ファイルの場合は工場出荷時の設定でレンダリングされます。2 つ目のドロップダウンメニューから 4 種類の「ニュートラルカラー」から選択できます。これらはコントラストなど、トーンカー

NOTE

DxO Optics Proでは、いくつかのカメラメーカーのフォトスタイルは考慮しませんが、標準のオリジナルレンダリングに可能な限り近づけるようにします。

ブが若干異なります。**ニュートラルカラー：ニュートラルな色調**は、他のカラーレンダリングへ切り替える場合の基本となる設定です。

ドロップダウンメニューには、さらに以下の設定が用意されています：

カメラ本体

カメラ本体が選択されていると、2 つめのドロップダウンメニュー内に、DxO Labs が実際に計測してテストした様々なメーカーやモデルのカメラリストが表示されます。

NOTE

DxO FilmPackがインストールされていない場合は、よく利用されるいくつかのカラーポジフィルム（Kodachrome、Fuji Velvia等）のみがフィルムレンダリングとして使用できます。DxO FilmPackがインストールされていると、さらに60種類を超えるフィルムレンダリングから選択できるようになります（詳しくは、DxO Academyを参照してください：http://www.dxo.com/intl/photography/tutorials）。

カラーポジフィルム

DxO FilmPack プラグインがない場合は、DxO Optics Pro は**カラーポジフィルム**の「ジェネリックポジフィルム」のみ選択できます。

ICC プロファイル

ICC プロファイルを選択すると、ダイアログボックスが開いて利用したいカラープロファイルを選択できるようファイルシステムが開きます。ICC プロファイルは、ビジュアルデバイス（カメラ、モニタ、スキャナー等）の設定プロファイルです。JPEG や TIFF 画像では、**強さ**スライダを使ってオリジナル画像と他のカラープロファイルを設定した画像のブレンドをすることができます。0 に設定するとオリジナル画像が表示され、100 にするとカラープロファイルが適用された画像のみが表示されます。100 以上に設定することもできます。

彩度過多補正

特定のカラーが飽和して、ディテールが失われたり不自然な色になってしまうことをしまうのを防ぐためのツールです。飽和は特定のカラーチャンネルの明るさが最低（0）や最大（255）に近い場合に発生します。この処理は自動的に実行されます。**強さ**スライダで調整することもできます。マジックワンドアイコンをクリックすると、オリジナルの自動設定に戻すことができます。

強さスライダは特定のカラーレンダリングに適用した場合のみ利用できます：

- RAW 画像では、カラーレンダリングが適用されている場合は常に適用されます（デフォルトではカメラ本体のカラーレンダリングが選択されています）。
- JPEG 画像では、カメラボディですでに処理済みのため、DxO Optics Pro はカラーレンダリングを適用しません。

スタイルー調色処理（DxO FIlmPack プラグインが無い場合）

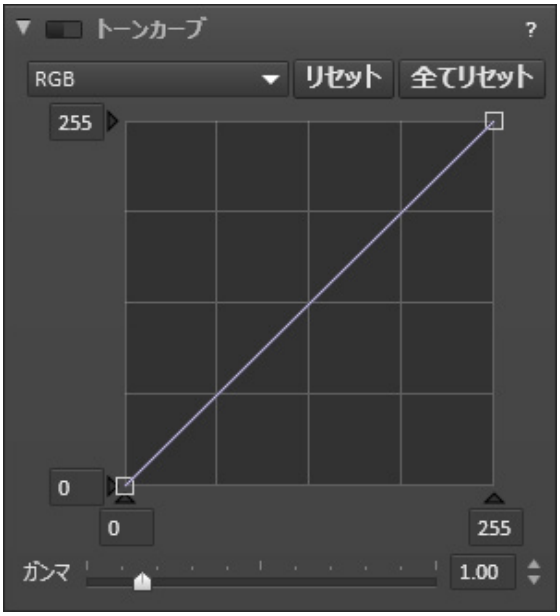
スタイルー調色処理パレットには、画像全体のコントラストや彩度を調整してクラシックスタイルを再現するプリセットが用意されています。

- **モノクロ**：カラー画像をモノクロに変換します。
- **風景**：緑色が強調されます。
- **ポートレート**：スキントーンをきれいに見せます。
- **セピア**

強さスライダで調整することができます。デフォルトの値は 100 で、0 にするとオリジナル画像になります。

NOTE

スタイルー調色パレットのコンテンツはDxO FilmPackがインストールされているかどうかで変わります。詳しくは3.5.6の章を参照してください。



トーンカーブはチャンネルごとや全体で調整できます。

トーンカーブについて

トーンカーブは非常に強力で標準的なツールです。使い始める前に練習をして、カーブがどのように働くのかを確認することをお勧めします。トーンカーブでの効果は、**主要ツール**パレット内の **DxO Smart Lighting**、**選択的トーン補正**、**HSL** パレットでも同じような結果を出せます。

トーンカーブは、入力色調値（受け取る光）と、出力色調値（画像内にある光）の関係を示しています。シンプルな例としては、オリジナルではトーンカーブは 45° の直線になっています。このトーンカーブはナチュラルで、ハイライト、中間調、シャドウ部分全ての入力色調値が出力色調値と同じ値になっています。入力色調値（シャドウ 0 ～ハイライト 255）は X 軸に、出力色調値（同様に 0 ～ 255）は Y 軸に表されています。

トーンカーブは特定のカラーや領域にあわせて、微妙に変化させることができ、また最適な形が異なります。その形から「S 字カーブ」と呼ばれる曲線になる場合が多くあります。このカーブではシャドウ部分を圧縮し、中間調を拡張します。これによってコントラストをあげ、力のある画像にします。繰り返しになりますが、トーンカーブは難しいツールのため、練習することをお勧めします。

トーンカーブを調整する

ガンマスライダを使って、X 軸の中央で傾斜値を調整することで、カーブの中央のみ（ガンマ）の傾きのみを変更できます。デフォルト値は 1 で、0.05 から 6.00 まで値を変更できます。

- 値が上がると、コントラストが上がり、シャドウ部分のディテールが現れます。
- 値が下がると、コントラストが下がり、ハイライト部分のディテールが現れます。

カーブはポイントを動かして変更することができます（よく利用される方法としては、ひとつのポイントを明るいシャドウ部分に配置し、もうひとつをハイライト部分に配置しますが、もっと多く配置することもできます）。カーブ上でクリックするとポイントを選択できます（アクティブなポイントは黒、非アクティブなポイントは中抜きの白で表示されています）。アクティブなポイントをドラッグしてカーブを動かすことができます。

X または Y 軸のブラック / ホワイトポイントも、当該ポイントをマウスでドラッグ & ドロップするか、入力ボックスに任意の値を入力して設定できます。

NOTE

アクティブポイントは右クリック、または **Delete** キーで削除できます。

トーンカーブパレットの上のドロップダウンメニューから、RGB 全チャンネルに対して同時に、または個別に適用することができます。2 つのリセットボタンで、チャンネルごと、または全チャンネルのトーンカーブを元の 45 度のまっすぐなカーブにリセットすることができます。

色相／彩度／明度

色相、彩度および明度は、色の調整を行う場合によく利用されていて効果的な方法です。各カラーで色相（H）、彩度（S）および明度（L）の 3 つのパラメータがあり、各チャンネルごとに 6 色を調整することが可能です。

- 加法混色：RGB（レッド、グリーン、ブルー）
- 減法混色：YMC（イエロー、マゼンタ、シアン）

色相（H）

色相スライダで選択したチャンネルの色相を調整します。例えば、イエローチャンネルを選択してからスライダを左に動かすと、画像内のイエローがマゼンタに変わります。スライダを右に動かすと、イエローはグリーンに変わります。色相スライダの設定範囲は -180º ～ +180º です。色相は伝統的に円で全カラーを説明するため、このような単位になっています。

彩度（S）

彩度スライダでは、選択した色を強調します。例えば、イエローチャンネルを選択してからスライダを左に動かすと、イエローから色がなくなり、グレーになります。スライダを右に動かすと、イエローが強くなりオレンジに近い色になります。彩度スライダの設定範囲は -100 ～ +100 です。

明度（L）

明度スライダの効果は、ヒストグラムを見ると理解が簡単です。スライダを左に動かすと、ホワイトレベルが左に移動します。スケールの下半分の階調幅が圧縮されます。スライダを右に動かすと、ブラックポイントが右に移動します。スケールの上半分の階調幅が圧縮されます。イエローチャンネルを選択してからスライダを左に動かすと、イエローが濃く暗くなり、右に動かすと明るく薄くなります。

リセット

リセットボタンは、すべての HSL 補正をリセットしてスライダの値を 0 にします。

NOTE

もし複数の色を同時に補正したい場合には、特定の補正を簡単に再現できる様に、各カラーを補正した値を書き留めておくことをお勧めします。各カラー調整はほんの少しの調整の違いでも大きな影響がでます。

マルチポイントカラーバランス（Mac OS X のみ）

一般的に写真編集時に 1 つの色を少し変えようとすると、他の色も影響を受けてしまいます。マルチポイントカラーバランスでは、他の色に影響を与えずに 1 色だけ変更することが可能です。

カラーを変更するには、**マルチポイントカラーバランス**ツールをクリックします：

- 2 つのプレビュー画像が表示されます。左側のオリジナル画像でツールを利用し、補正後の画像が右側に表示されます。
- 左の画像の上に、＋マークのカーソルが表示されます。このカーソルを使って、変更したいカラーを選択します。1 つの画像内で 4 カ所まで選択できます。
- 色相にあるバーを回転することで選択したカラーを変更します。
- バーの上にある小さい丸を円の色相の内側から外側へ移動することで、彩度を調整できます。中心が 0 で一番外側が 100%になります。

このコントロールは最大 4 色まで設定することができますが、もし 1 色のみを変更したい場合には、残りの色に近似色を選択しておくことで、色変換の影響を受けないようにすることができます。**ハンドツール**（スペースバーを押す）を使うと、画像の表示箇所を変更することができます。まず青い空など、色の識別が比較的簡単なシンプルな画像を使ってこのツールを試してみてください。

コントロールとコマンド

マルチポイントカラーバランスツールではいくつかのコマンドが利用できます：

- **強さ**スライダでは、補正の強さを調整します。0 に設定するとオリジナル画像のみで補正は行われません。100% に設定するとオリジナル画像は表示されなくなり、補正後の画像のみになります。
- **ホワイトバランス保持**にチェックを入れると、補正による色かぶりを防ぎます。
- 画像プレビューの下にある**半径**スライダでは、元の色をピックアップする領域のサイズを決めます。

3.5.6 ディテールとジオメトリ：アドバンス

ディテールとジオメトリ：アドバンスパレットについて

ディテールとジオメトリ：アドバンスパレットには以下のツールが用意されています：

- **アンシャープマスク：**画像のシャープネスを調整します。
- **モワレ：**画像内の色がついたアーティファクトを除去します。
- **ダスト：**写真内のゴミを除去します。
- **ボリューム歪像補正：**広角レンズ撮影時に発生するシリンダー形、または球形の歪みを補正します。

アンシャープマスク

アンシャープマスクについて

アンシャープマスクは画像をシャープにする手法です。このツールは、オリジナルからぼけたコピーを作成し、ぼけたコピーからオリジナルを引くことでディテールが強化された画像が生成します。

アンシャープマスクパレット

アンシャープマスクパレットには 4 つのスライダが用意されています：

- **強さ：**画像全体にかかるシャープネスの強さ
- **半径：**画像中のディテールエッジの補正エリアの細さを変更します。
- **しきい値：**補正が適応される範囲を決定します。画像内にあるノイズのようなとても小さいディテールにシャープネスがかかるのを避けることができます。
- **エッジオフセット：**画像周囲の効果を強める機能です。

NOTE

アンシャープマスクパレットの補正は、75%以上のズームレベルで利用できます。正しい結果を確認するためには 100%で表示して作業したほうがよいでしょう。

アンシャープマスクを使う

アンシャープマスクはデフォルトではオフになっています。JPEG ファイルの場合はカメラ内であらかじめ処理されているため必要ありません。また、DxO 光学モジュールが用意されている RAW 画像も必要ありません。この機能は通常シャープネスのかかっていない JPEG ファイル、または DxO 光学モジュールが無い RAW ファイルに利用します。後述のようにアンシャープマスクの設定を微調整してプリセットを作成しておくと良いでしょう。

3 つのスライダを使って調整しますが、強さを 100、半径を 0.5、しきい値を 4 ぐらいに設定してから調整を開始すると良いでしょう。一般的なしきい値は 4 ～ 10 の間です。半径は画像中のディテール周辺の補正エリアの細かさを変更します。値を高く設定しすぎると、にじみが発生する場合があります。最後に強さスライダを 200 以内に設定します。

NOTE

強さスライダをマイナス（-100 ～ 0）にすると、シャープな画像をソフトにすることができます。これはポートレートなどに便利な機能です。

DxO 光学モジュールが対応していない古いレンズを使って撮影した画像も手動で調整できます。

モワレ

モワレは、非常に細かいディテールと、カメラセンサーが干渉して発生するカラーアーティファクト、またはパターンです。ローパスフィルタがないカメラなどで発生しやすくなります。これらのカメラでは、フィルタが強くかかるこれまでのデジタルカメラより鮮明に撮影されるため、その分モワレが発生するリスクが高くなります。モワレはタイルや網目、羽、毛皮、髪の毛、布地などのディテールによく発生します。

モワレの強さスライダで、これらのアーティファクトを取り除くことができます。設定範囲は 0 ～ 100 で、デフォルト値は 100 になっています。マジックワンドをクリックするとデフォルト値にリセットできます。

TIP

効果を確認するには、プレビューの表示比率を 75%以上にしてください。

ダスト除去

ダスト除去ツールは、画像上のダストシャドウや汚れを、任意の太さの点または線で塗りつぶすことができるツールです。太さを調整できるダスト除去ツールでゴミを取り除けます。

ダスト除去ツールのアイコンをクリックすると、2 枚の画像が**プレビュー**ウィンドウに表示されます。左の画像がオリジナル画像、右の画像が処理後画像となります。画像表示を拡大してツールの太さを設定してから、点や線などを描きます。クリックしてマウスボタンを押したままドラッグすると線が描けます。補正される箇所はシアンカラーで表示されます。補正されないエリアはマゼンタで表示されます。削除するには同様にクリックしてから **Delete** キーを押します。画像内すべての補正を削除するには、画像の右側にある**リセット**ボタンを押します。

NOTE

複数の写真に同じダストがある場合は、1 枚の画像で補正を行ってから、その設定をプリセットとして保存して他の画像に適用することができます。

左のオリジナル画像内の青いドット部分が補正されます。

ボリューム歪像補正

ボリューム歪像補正パレット

ボリューム歪像補正について

現実世界を写真に撮影する際、大きな課題の1つは 3 次元のシーンを 2 次元で再現しなくてはならないという点です。平らな画像に変換されると、一部の 3 次元の被写体の形状が歪んで見えてしまう場合があります。この現象はボリューム歪像と呼ばれます。ボリューム歪像は、広角レンズを使った撮影や、被写体が画像フィールドの端にある場合に特に目立ちやすくなります。

ボリューム歪像補正を行おうとする際に最も問題となるのは、このディストーションが完全に画像の内容に依存しているという点です。そのため自動的に補正するアルゴリズムは存在しません。そのため、見た目に頼りながら手動で実行する必要があります。各ユーザーが補正における妥協点の判断を行う必要があります。

対角線もしくは水平／垂直から選択

ボリューム歪像補正では、まずはじめに歪みの種類を決定します。対角線方向、または水平／垂直方向の 2 種類が用意されています。

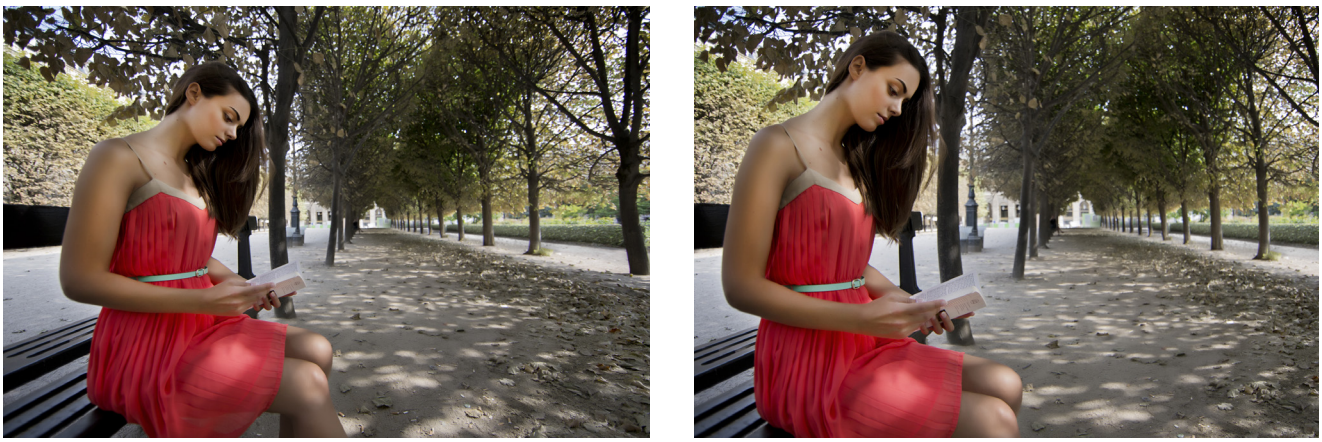
シリンダー形（例えば柱や人体など）のオブジェクトの場合で、一つの軸（多くは垂直方向）で補正する必要がある時は水平／垂直の補正を選択します。立っている人の体は水平／垂直の補正の代表例です。一方球形（人の頭など）の場合は、対角線の補正の必要です。この場合は対角線の補正を選択します。

ボリューム歪像補正のパレットには、水平／垂直と、対角線がドロップダウンメニューから選べるようになっています。一般的には対角線補正の方がよく使われますが、どちらの方がより補正が適切にかかるかを確かめるために、両方を試してみると良いでしょう。

オプションをクリックすると、さらに以下のスライダが表示されます：

- **半径強さ：**対角線補正に使用します（デフォルト値は 150）。
- **水平方向の強さ／垂直方向の強さ：**水平／垂直補正に使用します（デフォルト値は 100 と 0）

スライダは 0 ～200%の間で動かすことができます。



左のオリジナル画像では、顔や頭に強いボリューム歪みが発生しています。右が補正画像です。

NOTE

補正する場合には罫線（Ctrl + G または G）を画像上に表示すると良いでしょう。

3.5.7 光学補正

メインツール

光学補正パレットには以下のツールが用意されています：

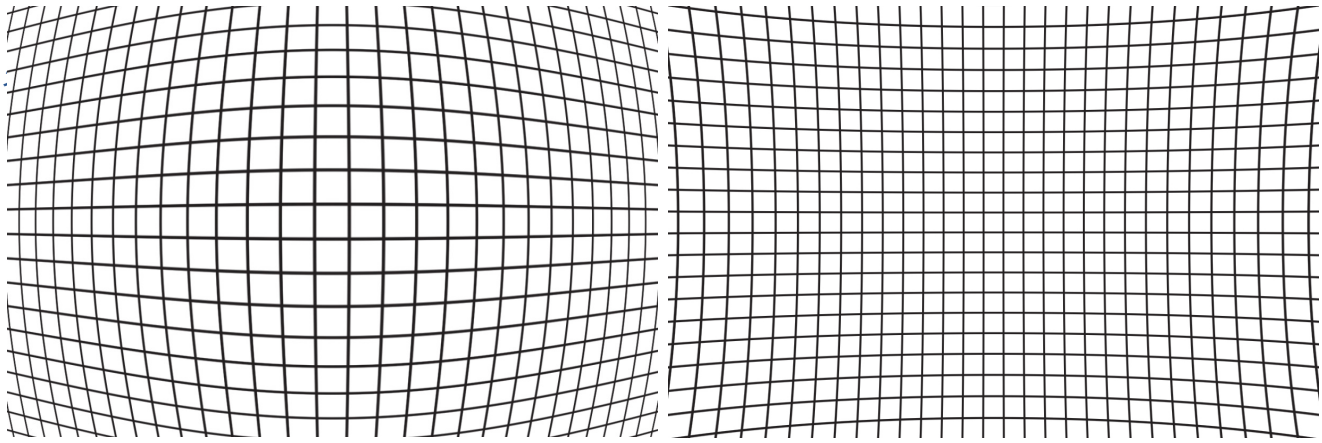
- **ディストーション**：ピンクッションやたる型の歪みを補正します。
- **ヴィネット**：画像角が暗くなる症状を補正します。特に露出開放で撮影した写真で発生しやすくなります。
- **倍率色収差**：コントラストの高いオブジェクトのエッジにカラーフリンジが発生する現象を補正します。画像の角に発生しやすい現象です。
- **DxO レンズブラー**：画像の中央部分と周辺部分のシャープネスの差を補正します。

DxO 光学モジュールが利用可能な場合には、これらのツールは全自動で実行されます。利用できない場合は手動補正となります。

その他のツール

焦点距離と撮影距離が曖昧な場合や EXIF 内のメタデータに保存されていない場合は、**光学補正**パレット内に自動的に手動で設定できるスライダが表示されます。

ディストーション補正



よくある歪みパターン：たる型（左）とピンクッション（右）

光学的な形の歪みは、ピンクッション歪み、たる型歪み、もしくは一部のレンズではそれら両方の組み合わせで発生します。どの場合も、DxO Labs によるレンズの分析測定データに基づいて補正することができます。直線を撮影すれば画像内でも直線として表示させることが可能です。

ディストーションウィンドウには、ディストーション補正の強さを 0 から 100% の間で調整するための**強さ**スライダが 1 つあるだけです。デフォルト設定は 100% で、エッジ付近の大切なディテールのクロッピングを防ぐためや、わざと効果を狙うなどの特別な理由がない限り、デフォルトのままにしておくことをお勧めします。

補正のドロップダウンメニューでは、DxO 光学モジュールによる自動補正と、手動補正（カスタム）を選択できます。DxO 光学モジュールが存在しない場合、手動補正のみ利用できます。

自動補正

画像に適した DxO 光学モジュールがコンピュータ内にある場合には、DxO Optics Pro は自動的に補正を実行します。

手動補正

コンピュータ内に用意されていない場合、その他の理由で必要な DxO 光学モジュールが利用できない場合は、**カスタム**を補正ドロップダウンメニューから選択します。次に、**たる型、ピンクッション**、**魚眼レンズ**からディストーションのタイプを選択します。

魚眼レンズを広角レンズに変更する

お使いのカメラと魚眼レンズの組み合わせが DxO 光学モジュールで対応している場合には、ウルトラワイドアングルスタイルに自動変換することができます。**ディストーション**タイプのドロップダウンメニュー内の**魚眼レンズ**オプションにある強さスライダを使って手動で変更することもできます。

TIP

手動で補正する場合は、**表示** > **罫線の表示**を選択するか、またはCtrl + G（Windows）、G（Mac）のショートカットを使って、画像プレビュー上にグリッドを表示させると便利です。

画像比率維持

通常、ディストーション補正を実行すると、画像のアスペクト比（幅と高さの比率）が変更されます。出版物などで利用する場合アスペクト比は重要な要素となるため、画像のエッジを切り落としてオリジナルの比率から変更しないようにします。利用できる画像を広く取るために、パレットの一番下にある**画像比率維持**のチェックを外してみることもできます。

 ©DxO Labs 2014 - All rights reserved

TIP

魚眼レンズ補正ツールを使う場合は、**画像比率維持**を外すと、より大きいアングルを維持することができます。

ヴィネット

ヴィネットは、画像の角が中央部と比べて暗くなってしまう光学上の欠点です。ヴィネットの補正は DxO 光学モジュールが利用できるかどうかで方法が異なります。

DxO 光学モジュールが利用できる場合

この場合は、**補正**ドロップダウンメニューに **DxO 光学モジュールで自動補正**と表示され、補正は自動で実行されます。自動補正をさらに調整することもでき、モジュールが利用できない場合は**補正**ドロップダウンメニューで手動補正に切り替えることもできます。

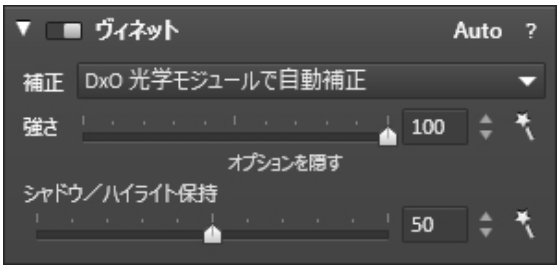
ヴィネット補正は基本的に2つのステップで調整が可能です：

1. 最初に、DxO 光学モジュールが、レンズデータ、焦点距離、露出設定などから画像内の全ピクセルでヴィネットの度合いを検証します。**強さ**スライダ（0 ～ 100%）を使って、画像内でどのくらいヴィネットを取り除けばよいのかを決定します。
2. 続いて明るい部分におけるクリッピングや、シャドウ部分におけるノイズ増加を防ぐためのフィルタが適用されます。このフィルタで各ピクセルの輝度によって、かける事のできる値を制限します。このフィルタの効果は、画像の内容によって異なります。オプション表示ボタンをクリックすると、フィルタの強さを調整できる**保持**スライダ（0 ～ 100%）が表示されます。
   - この値を 0% に設定すると、ヴィネット補正は制限無くかかります。
   - 80% に設定すると、大きい範囲のハイライトとシャドウが補正されません。

この 2 つの設定を調整する場合は、**強さ**スライダを 100%に設定してから、**保持**スライダを動かした方が良いでしょう。このツールで補正できるのは、レンズまたはセンサーによって発生するヴィネットのみです。レンズフードなど機材の構造によって発生するヴィネットは補正できません。この場合は**クロップ**ツールなどを使って問題箇所をトリミングしてしまう方法もあります。

TIP

マジックワンドをクリックすることで、すべてのスライダをデフォルト（自動）設定にリセットできます。



DxO 光学モジュールが使用可能な場合は、2 つのスライダが表示されます。

DxO 光学モジュールが利用できない場合

利用できる DxO 光学モジュールがない場合は、目で画像の隅を確認しながら手動調整をすることが可能です。**中央部強調**スライダを使うと、画像の中心部からどこまで補正を適用するかを選ぶことができます。

NOTE

過度の補正を適用すると、画像の隅が中心部より明るくなってしまうため気を付けます。

倍率色収差

色収差について

色収差は、異なる色がわずかに違う場所で焦点があうために発生します。色収差は、コントラストの高い撮影オブジェクトの境目に目に見える形で出てきます。グリーン、マゼンタフリンジ（横色収差）、パープルフリンジ、またはグリーンフリンジ（縦色収差）などがあります。「パープルフリンジ」は、色収差と同様ですが特定の現象で、紫色のゴーストがコントラストの高い撮影オブジェクトの境目に発生します。

色収差補正

自**動倍率色収差補正**（エッジの周りのマゼンタやグリーンのフリンジ）は、DxO 光学モジュールによって自動的に補正されます。この場合は、手動補正の必要はありません。縦色収差やその他の色収差はパレット内の 2 つのスライダを使って補正できます。

- **強さ**スライダ：設定範囲：0 ～200%
- **サイズ**スライダ：抑制の対象となる色収差のサイズを 0 ～ 12 の範囲で設定します。DxO Optics Pro が何を色収差と判断して補正を行い、何を実際の画像の内容として判断するのかを指定します。

パープルフリンジ補正には、有効／無効を切り替えるためのチェックボックスのみが用意されています。

背景から光が射している場合によく発生する色収差とパープルフリンジの例。

DxO レンズブラー

DxO レンズブラーについて

この補正機能は DxO Optics Pro の強力な機能の一つです。**レンズブラー**とはレンズのポイントがずれることにより小さいぼけが発生する光学的な問題点（一般的に「レンズぼけ」等で呼ばれています）です。焦点があっていないぼけや、被写界深度の不足、手ぶれなどは補正することができません。DxO 光学モジュールが持っているカメラとレンズの情報により、画像領域内すべてのポイントにおけるぼけ量を把握しています。

EXIF に含まれている撮影情報（露出、焦点距離など）を元に、DxO 光学モジュールによって提供される情報によって各ピクセルの場所ごとに補正を実行します。この補正は、画像全体に一律にはかかりません。一般的にレンズは中央部分がシャープに写るため、画像の中央部分の補正は少なくて済みます。

NOTE

適正なDxO光学モジュールがインストールされていない場合、このパレットは表示されません。もし利用できるモジュールが無い場合は、**アンシャープマスク**パレットと**エッジオフセットス**ライダを手動で調整します。

グローバルスライダ

グローバルスライダは、DxO Labs によって平均的な設定（-0.5）になっています。-2 から 0 までのマイナスの設定でも、オリジナル画像より画像がぼやけることはありません。単純に最低レベルのシャープネスとなります（補正後の画像は、オリジナル画像と同じぐらいのシャープネスになります）。0 に設定すると、オリジナル画像と比較して若干シャープネスがかかります。全体のシャープネスを抑えたい場合（ポートレートなど）は、**グローバル**スライダを左に動かします。値を大きくする場合はスライダを右に動かします。**DxO レンズブラー補正**は大変高度で、ノイズが発生しているエリアや、ISO 設定が高い画像はシャープネスレベルを抑えます。

NOTE

JPEG画像の場合は、カメラ内でシャープネスがすでに適用されているため、シャープネスを強くしないことが大切です。JPEGで撮影して、後で写真を編集をする場合には、画像にシャープネスがかかりすぎない様、例えば撮影時のモードをニュートラルモードにしておくと良いでしょう。

ディテールスライダ

ディテールスライダはデフォルトでは 50 に設定されています。これは画像内の細部のコントラストを上げる効果的な機能です。風景写真の細部のディテールを表現する場合に有効な手段となりますが、逆にポートレートの場合は、肌の欠陥が見えてしまいます。

NOTE

レンズブラーよるディテールの表現強調は、**アンシャープマスク**とは異なり、輪郭強調による白いエッジが発生しません。

ボケ表現スライダ

ボケ表現スライダは、シャープネスをかけた際に画像がぼけている箇所に発生するアーティファクトを取り除くスライダです。アーティファクトを取り除こうとするとシャープネスの合っている箇所のシャープネスが若干失われます。

レンズブラーとアンシャープマスク

アンシャープマスク（USM）処理を使う前に、**レンズブラー**による補正を実行してみることをお勧めします。もちろん、適正な DxO 光学モジュールがインストールされていない場合は、シャープネス処理はすべて**アンシャープマスク**で行う必要があります。

光学補正：その他のツール

焦点距離と撮影距離

レンズの焦点距離と撮影距離の情報は、写真内の EXIF 情報に記録されています。しかしこの EXIF 情報が正確に記録されていない場合があります。例えば、17mm と 18mm などの異なる焦点距離が同じ値（18mm）で EXIF 情報内に記録される場合があります。この場合最適な歪み補正を実行するために情報が不足します。同様に、撮影距離も正確に EXIF 情報内に記録されていない場合は、補正が不正確になる可能性があります。どちらの場合も、ジオメトリパレット内に表示される焦点距離と撮影距離の二つのパレットに正しい値を入力して調整することが可能です。

- **焦点距離**：スライダで調整できます。
- **撮影距離**：ドロップダウンメニューから選択した上でスライダで微調整することができます。

3.5.8 DxO FilmPack

DxO FilmPack パレットについて

DxO Film Pack プラグインが利用できる場合はこのパレットが表示されます。DxO Optics Pro 内でシームレスにフィルム効果や DxO Film Pack で提供される機能を利用することができます。この機能には 5 つのパレットがあります：

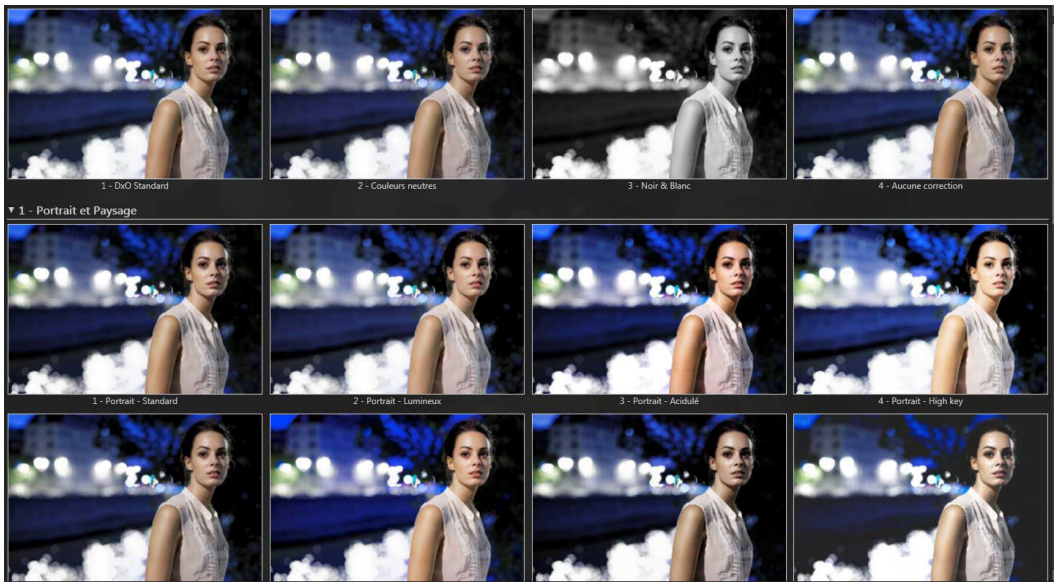
- **カラーレンダリング**：このパレットは**ライトとカラー：アドバンス**パレット内の**カラーレンダリング**パレットと同じです。カメラ本体や ICC プロファイル、ポジ、ネガ、カラー、白黒などの様々なフィルムから選択することができます。
- **スタイルー調色処理**：このパレットは**ライトとカラー：アドバンス**パレット内の**スタイルー調色処理**パレットと同じです。様々なスタイルのモノクロや、カラーフィルタ、カラープロファイル（風景など）から選択して彩度やコントラストを設定することができます。
- **フィルタ**：レンズフィルタを再現するものです。
- **粒状感**：白黒やカラーの最大 60 種類以上のフィルムが持つ粒状感を再現できます。サイズも設定できます。
- **チャンネルミキサー**：6 つのカラーチャンネル（RGB、CMY）内のバランスを手動で調整できます。カラー画像から白黒画像に変換する際に利用します。
- **クリエイティブヴィネット**：画像の周辺部分の光量調整が可能です。画像の中央に視線を集めたい場合に利用される手法です。
- **クリエイティブブラーヴィネット**：（DxO FilmPack エキスパート版でのみ利用可能）**クリエイティブヴィネット**と同様に、画像の中央に視線を集めたい場合に利用される手法です。この場合は、画像の周辺部分をぼかします。
- **フレーム**：（DxO FilmPack エキスパート版でのみ利用可能）画像の周辺部分にフレームを付けます。
- **テクスチャ**：（DxO FilmPack エキスパート版でのみ利用可能）傷やしわくちゃの紙などのテクスチャを付けます。
- **光漏れ**：（DxO FilmPack エキスパート版でのみ利用可能）フィルム現像の際にフィルム上に光が漏れる現象を再現します。

NOTE

詳しくは DxO FIlmPack のユーザーガイドを参照してください。

3.6 プリセット

3.6.1 プリセットについて



ビジュアルプリセットウィンドウ

プリセットは DxO Optics Pro 内の画像に一度にすべての補正を適用させるためのセットです。プリセットによく使う補正項目を保存しておくことで、簡単に補正項目を適用することができます。

DxO Optics Pro には、大きく 2 種類のプリセットがあります。

- **フルプリセット**:設定タブの画面で設定可能なすべての補正項目を、設定されている、されていないに関わらず書き換えます。
- **部分プリセット**:一部の補正項目に対してのみ作用します。他の各補正項目について「補正を実行する」「補正しない」「何もしない」を選択することが可能です。

NOTE

DxO Optics Pro で最初に画像を開くと、デフォルトでフルプリセット「**DxO 標準**」が自動的に適用されます。他のプリセットをデフォルトプリセットに設定することもできます。

3.6.2 用意されているプリセットを使う

DxO Optics Pro では 30 種類以上のプリセットがあらかじめ用意されています。**汎用プリセット、ポートレートと風景、モノクロ、雰囲気、ハイダイナミックレンジ（シングルショット HDR）** の 5 つのカテゴリに分類されています。

汎用プリセット

汎用プリセットには 4 つのプリセットがあります：

- **DxO 標準**：選択タブで画像を選択すると自動的に適用されるプリセットです。このフルプリセットは以下の設定が実行されます（記載されていない設定は「補正なし」に設定されています）：
  - **自動露光**：自動
  - **DxO Smart Ligting**：自動少し
  - **カラーレンダリング**：JPEG 画像は変更無し、RAW 画像は工場出荷時設定
  - **彩度過多補正**：自動
  - **ノイズ**：自動
  - **ディストーション**：自動
  - **ヴィネット**：自動
  - **倍率色収差**：自動（横色収差がオン）
  - **DxO レンズブラー**：オン（グローバルスライダ -0.50）、または DxO 光学モジュールが利用できない場合はアンシャープマスクのデフォルト設定
- **ニュートラルカラー**：DxO 標準とほぼ同じですが、カラーとコントラストが抑えられます。
- **モノクロ**：内容に応じて、自動的にモノクロに変換します。
- **補正なし**:DxO Optics Pro 内のすべての補正項目が「補正なし」に設定されています。画像は撮影時情報のままとなりますが、RAW 現像時には撮影カメラに最適な基本的な設定がかかり、予期せぬアーティファクトが発生しないよう計算されます。

NOTE

プリファレンスでデフォルトプリセットに別のプリセットを選択できます。デフォルトプリセットを変更しても、すでに処理済みの画像には影響しません。

ポートレートと風景

ポートレートと風景のカテゴリには、8 つのプリセットがあります。ポートレートプリセットの場合はコントラストが抑えられ、肌のトーンに最適になります。風景プリセットは、コントラストや彩度があがります：

- **ポートレート：標準**
- **ポートレート：明るい**
- **ポートレート：キャンディーカラー**
- **ポートレート：ハイキー**

・**風景：標準**

・**風景：偏光絵はがき**

・**風景：強いコントラスト**

・**風景：洗いざらし**

モノクロ

モノクロのカテゴリには、コントラスト表現の異なる 8 種類のプリセットがあります。このカテゴリにはポートレートや風景に適したプリセットもあります。またドラマチックな効果を出すプリセットもあります：

・**モノクロ：緻密**

・**モノクロ：くっきり**

・**モノクロ：ドラマチックな空**

・**モノクロ：ローキー**

・**モノクロ：女性ポートレート**

・**モノクロ：男性ポートレート**

・**モノクロ：落ち着いた**

・**モノクロ：ベール**

雰囲気

雰囲気のカテゴリには、トーニングの異なる 8 種類のプリセットがあります。このプリセットはカラーやモノクロ両方に適用できます：

・**霧**

・**ロンドンの夜**

・**ブルーアワー**

・**薄暮**

・**古いスライド**

・**極地**

・**パープル**

・**オールドスクール**

ハイダイナミックレンジ（シングルショット HDR）

このカテゴリには、HDR 効果をシミュレートする 4 種類のプリセットがあります。特別なソフトウェアや 32 ビットファイルを使うことなく、トーナルレンジを再配分してダイナミックレンジを広げます。シングルショットプリセットは、異なる露出の複数の写真を統合する必要はなく、RAW や JPEG ファイルに利用することができます：

・**HDR：軽く**：DxO Smart Lighting 補正に基づき、中間程度の HDR 効果を適用します。

・**HDR：リアル**：前述のプリセットに比べて HDR らしさを抑えた効果を適用します。ハイライトを復元し、シャドウを明るくして、トーンカーブと Vibrancy は通常設定になります。

・**HDR：アーティスティック**：ハイライトを復元し、シャドウを明るくし、トーンカーブと Vibrancy を強調する、HDR 効果を提供します。

・**HDR：モノクロ**：モノクロ写真用に最適化されています。コントラストが強くかかります。

3.6.3　プリセットの適用

あらかじめ用意されているプリセットを適用する

画像にプリセットを適用するには、**コマンドバー**にある**プリセット**(Windows) または**プリセット適用**(Mac) ボタンをクリックします。ビジュアルプリセットウィンドウが表示され、画像に適用できるすべてのプリセットが表示されます。適用したいプリセットを選択すると、ビジュアルプリセットウィンドウが閉じて、選択したプリセットが画像プレビュー内の画像にすぐに適用されます。

TIP

画像ブラウザ内のサムネイル上で**右クリック**して、コンテキストメニューから**プリセットを適用**を選択することもできます。または**プリセットエディタ**内のリストから選択することもできます。

プリセットを組み合わせて使う

1 つ以上のプリセットを適用することができます。両方のプリセットに異なる値が設定がされている場合は、後から適用したプリセットが適用されます。例えば：

- 最初に適用したプリセットの値が「補正しない」で、2 番目に適用したプリセットの値が「補正する」の場合は、補正は実行されます。
- 最初のプリセットが「補正する」で値が「-2」、2 番目も「補正する」で値が「+1」の場合は、2 番目の設定内容「+1」が適用されます。

部分的な補正のみを行う**部分**プリセットを作成することができます。これはフルプリセットの上から適用することができ、この設定箇所のみ部分プリセットの内容に変更されます。

3.6.4　現在の設定からフルプリセットを作成する

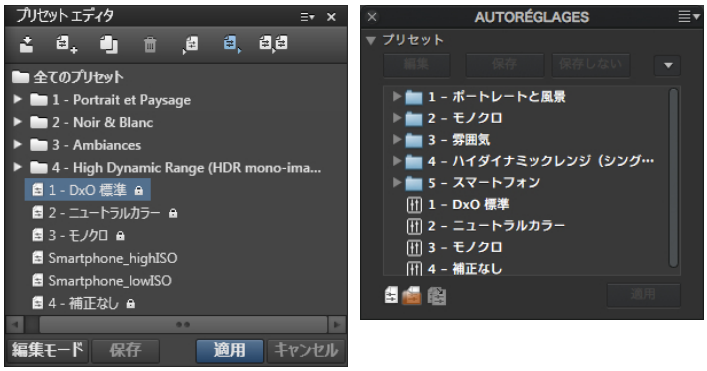
現在の設定からプリセットを作成するには：

1. 画像に補正設定を適用します。
2. 補正設定が完了したら、**画像ブラウザ**のサムネイル上で右クリックして、コンテキストメニューから**現在の設定からプリセットを作成**を選択します。
3. フローティングウィンドウにプリセット名を入力して**保存**をクリックします。
4. コンテキストメニューと**プリセット**リスト内に、新しいプリセットが表示されます。

NOTE

この方法で作成されたプリセットは、すべての設定が含まれるフルプリセットになります。

3.6.5　プリセットエディタパレット



プリセットエディタパレットを使えば、各ツールの設定をしてプリセットを作成することができます。

プリセットエディタは**設定**タブ内のパレットの一つです。このパレットで、ゼロからプリセットを作る、または、既存のプリセットを編集してカスタムプリセットを作成したり、管理することができます。

プリセットエディタコマンド

Windows

プリセットエディタパレットは、以下のコマンドが並んでいます：

プリセットフォルダ新規作成フォルダ：例えば撮影カメラ、高感度撮影、風景、ポートレートなどの目的別に同じようなプリセットをまとめておくことができるフォルダを作成することができます（プリセットをドラッグ&ドロップしてフォルダを移動できます）。

プリセット新規作成：何の設定もされていない空のプリセットを作成します。そのためこのプリセットは何らかの設定をする必要があります。作成時にフォルダを選択しておくと、そのフォルダ内にプリセットが作成されます。

プリセットの複製:既存のプリセットのコピーを作成することができます。既存のプリセットを編集して新しいプリセットを作成したい場合に便利です。

削除：選択したプリセットやフォルダを削除します。

インポート:他のバージョンや他のコンピュータで作成したプリセットを取り込むアイコンです。このアイコンをクリックして取り込みたいファイルを選択します。（同時に複数のプリセットをインポート可能）

エクスポート:プリセットを他のコンピュータに移動するために書き出すことができます。

現在補正作業中の画像の設定を使ってプリセットを新規作成：現在編集中の画像の設定内容で新規プリセットを作成します。

> **NOTE**
>
> DxO Optics Pro があらかじめ用意しているプリセットはロックされており、編集や削除ができません。

> **NOTE**
>
> プリセットエディタ内でプリセットを選択し、編集モードボタンをクリックすれば再編集や変更が可能です。関連するパレットが再びハイライトされます。

プリセットはいくつでも作成でき、カスタムフォルダに保存したり、他のバージョンの DxO Optics Pro 用に書き出したり、共有することができます。

Mac OS X

プリセットエディタパレットは、以下のコマンドが並んでいます：

プリセット新規作成：何の設定もされていない空のプリセットを作成します。

プリセットフォルダ新規作成フォルダ：同じようなプリセットをグループ化するフォルダを作成することができます。

プリセットの複製：既存のプリセットのコピーを作成することができます。

既存のプリセットを編集してプリセットを作成する

Windows と Mac OS X

既存のプリセットを変更して新規プリセットを作成するには：

1. 変更したいプリセットをクリックします。
2. **プリセットエディタ**パレットの左上にある**編集**ボタンをクリックします。関連するパレットツールが編集モードに変わります（パレットの左側に青い帯が表示されます）。
3. 補正を行いたくないパレットのチェックを外します。または補正設定を変更します。非表示になっているパレットも拡張

NOTE

ロックされた DxO プリセットから変更したい場合は、**プリセットエディタ**のコマンドバーにある**コピー**ボタンをクリックし、コピーしたプリセットの名前を変更します。

NOTE

プリセットのパラメータの変更をキャンセルする場合は、**編集** > **取り消し**を選択するか、キーボードショートカット Ctrl/Cmd + Z を押します。

して設定を行うことができます。

4. 設定が完了したら、プリセットエディタパレットの保存ボタンをクリックします。
5. 編集モードを終了するには、もう一度編集モードボタンをクリックします。

プリセットフォルダ

一覧にあるフォルダは、ダブルクリック、またはフォルダの左にある三角形をクリックすると開いて内容を表示することができます。名前をクリックするとファイル名を変更できます。フォルダ名によってリスト内で並べ替えられます。できるだけわかりやすい名前を付けて、適切なプリセットが見つけられるようにしておくことをお勧めします。

3.7 バーチャルコピー

3.7.1 バーチャルコピーについて

バーチャルコピーは元画像と同じ画像がコピーされ、それぞれ異なる設定ができるようになります。バーチャルコピーは同じ画像から設定を試してみたい数だけいくつでも作成することができます。

3.7.2 バーチャルコピーの作成と削除

バーチャルコピーの作成:

1. **画像ブラウザ**内でバーチャルコピーを作成したい画像を選択します。
2. サムネイル上で右クリックして、コンテキストメニューから**バーチャルコピーを作成**を選択します。**画像**メニュー内にも同じ

NOTE

バーチャルコピーは、プロジェクトに登録したり、プリセットの適用、処理、プリントなど、通常の元画像と同じように扱えます。

機能が用意されています。またはキーボードショートカット Ctrl +J (Windows)、⌘ +D (Mac OS X) を利用できます。

3. **画像ブラウザ**内の元画像のサムネイルの横に、新しいサムネイルが表示されます (ソート順が「ファイル名」になっている場合。変更している場合はソート条件によって変わります)。

NOTE

プロジェクトを使っている場合にはバーチャルコピーは削除できません。プロジェクトから削除できますが、オリジナル画像が含まれたフォルダを開くと表示されます。

4. 元画像の左下隅には四角形の中に「1」と表示されます。各バーチャルコピーには作成順に「2、3、4…」と表示されます。

バーチャルコピーの削除：

1. 画像ブラウザ上で**右クリック**します。
2. キーボードの **Delete** キーを押します。

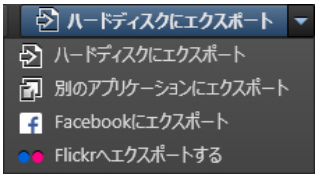
3.7.3　参照画像としてバーチャルコピーを使う

作成したバーチャルコピーは、元画像と比較表示することができます。また他のバーチャルコピー同士とも比較することが可能です。

1. 選択タブ、または設定タブのコマンドバーから、**並列表示**アイコンの横にある矢印をクリックし、**参照画像**ドロップダウンメニューを表示します。
2. 元画像に関連するすべてのバーチャルコピーが表示されます。処理されている必要があるため、処理されていない画像はグレーアウトされています。
4. 選択できる中から画像を選択します。この画像は参照画像となり、並列表示の左側に表示されます。

エクスポート

4.1 エクスポートについて



ファイルエクスポート

処理タブでは、DxO Optics Pro 9 では、選択タブや設定タブに統合されたエクスポート機能を利用できます。エクスポートには 3 つの機能があります：

- **ハードディスクにエクスポート**：ハードディスク上に処理した画像を書き出します。
- **アプリケーションにエクスポート**：外部アプリケーションで処理した画像を開きます（RAW 画像も開けます）。
- **Flickr にエクスポート**：Flickr ギャラリーに処理した画像を転送します。

エクスポートは DxO Optics Pro ワークフローの最後のステップです。これまでに設定した内容に従ってすべての補正が実行されます。そしてクライアントや家族、友達に渡せるようにファイルを書き出します。

4.2 インターフェイス

画像ブラウザ内のコマンドバーに、エクスポート関連の 2 つのボタンがあります：

- ドロップダウンメニューからハードディスク、アプリケーション、Flickr のそれぞれに**エクスポート**を選択できます。
- エクスポートオプションのいずれかを選択すると、**処理ボタン**■が表示されます。このボタンをクリックすると、フローティングパレットが表示され、エクスポート中のプログレスバーが表示されます。

TIP

エクスポートをキャンセルするには、処理ボタンをクリックして、フローティング処理パネル内で、処理をキャンセルしたいプログレスバーの横にある×印をクリックします。

フローティング処理パレットには、処理中のすべての記録が表示されます。パレットの左下にある、**空にする**ボタンをクリックすると、リストを消去することができます。

NOTE

DxO Optics Proを起動した後、何も処理していないか、空にするボタンをクリックした後には、プログレスバーが何も表示されていません。

4.3　ハードディスクへのエクスポート

4.3.1　ハードディスクへのエクスポートについて

画像をエクスポートすると、設定タブ内で設定した補正を適用しながら新しい画像ファイルを作成（処理）します。指定したハードドライブ上のフォルダに補正した画像を書き出す、または外部アプリケーションで開く、Flickr ギャラリーに転送します。すべてのエクスポートでは、出力オプションの選択が必要です。

ハードディスクへのエクスポートオプションでは、出力ファイル形式、出力保存先、ファイル名の接尾詞、画像サイズ、ICC プロファイル等が設定できます。（左が Windows、右が Mac OS X）

エクスポートの目的に応じて、出力オプションウィンドウが開き、複数の設定を作成することができます。これによって自動的に異なるファイルフォーマットを異なる場所に複数書き出すことができます。出力オプションはいくつでも作成できます。

4.3.2　ファイルフォーマット

画像フォーマットによっては、ファイルサイズが小さくなる分、画像の情報が失われる場合があります（ロッシー）。またすべての情報を保持したまま圧縮をすることができる形式もあります（ロスレス）。

JPEG はロッシーフォーマットです。TIFF やほとんどの RAW ファイルはロスレスフォーマットです。DNG (Digital NeGative ／© Adobe) は特定のフォーマットです。Adobe によって RAW ファイルの標準フォーマットとして開発されました。

利用可能な入力ファイルフォーマットと出力ファイルフォーマットの組み合わせは以下の通りです：

入力ファイルフォーマット	出力ファイルフォーマット
JPEG	**JPEG、TIFF（8 ビット）**
TIFF	**TIFF（8 または 16 ビット／入力ファイルによる）**
RAW	**JPEG、TIFF（8 または 16 ビット）、DNG**

4.3.3　出力設定の作成と有効化

エクスポートオプションの作成と有効化

新規のエクスポートオプションを作成するには、フローティングウィンドウの左下にある**追加**（＋）ボタンをクリックします。ドロップダウンメニューからエクスポートオプションを選択します。作成されたオプションの名前を変更したり、パラメータを変更することができます。選択したオプションによって、設定できる項目が変わります。出力先フォルダの指定や、ファイル名の接尾詞の追加、サイズ変更なども行えます。

出力先ディレクトリ

デフォルトでは、オリジナル画像が保存されているフォルダと同じフォルダに書き出されるように設定されています。**出力先フォルダ**ドロップダウンメニューに選択されたフォルダが表示されています。フォルダ**選択**オプションを選択すると、フローティングウィンドウが開きます。コンピュータ内のディレクトリから保存したいフォルダを選択します。新規ウィンドウを作成することもできます。

NOTE

これ以降の説明は、エクスポートオプションフローティングウィンドウで**オプション表示**をクリックすると表示されます（Windows）。

ファイルパスは絶対パス（例：「C:\Photos\Output DxO Optics Pro」）または相対パス（例：「Output DxO Optics Pro」）で入力します。絶対パスを利用する場合は、オリジナル画像が複数のフォルダにある場合でも、補正画像は 1 つのフォルダにまとめられます。相対パスを利用すると、オリジナル画像と同じフォルダ内のサブフォルダに補正画像が作成されます。オリジナル画像と補正画像が近くに置かれて便利ですが、オリジナル画像のフォルダ数だけサブフォルダが作成されます。

ファイル名接尾辞

デフォルトでは、各ファイル名に「_DxO」が追加されますが、任意の文字に変更することもできます。

サイズ変更

画像サイズを変更すると画像のピクセルを再計算して再生成します。どのような方法をとっても画像情報が失われるため、サイズ変更はできるだけ最終段階で実行します。もし DxO Optics Pro の後、編集をする場合には、オリジナルのサイズを変更しない方が良いでしょう。

画像のリサンプリング（Windows）、**サイズ変更**（Mac OS X）のチェックを有効にすると以下の選択が行えます：

- **最大サイズ**：幅または高さのピクセル数、センチメートル、インチのいずれか入力します。ひとつのサイズ入力で画像の縦横比を変えずに自動的にサイズを変更します。
- **解像度**：リサンプル、サイズ変更を選択しなければ変更されません。
- **補間法**：補間に利用する演算方法を選択します。不足するピクセルを補間するための複数の演算方法が用意されています。通常は自動のままで問題ありません。ただ多くの写真家かバイキュービック法を利用していますので、バイキュービックを利用する場合はプルダウンから選択します。DxO Optics Pro では、バイキュービック一法：シャープも利用できます。

ICC プロファイル

ICC プロファイルは、オリジナル画像が保持しているもの、sRGB、Adobe RGB またはカスタムプロファイルから選択できます。DNG 出力には利用できません。sRGB はウェブなどで利用したり、印画紙やインクジェット出力に利用する場合に適しています。印刷向けや出力後レタッチが必要な場合には Adobe RGB プロファイルを選択すると良いでしょう。この場合、JPEG 形式よりも TIFF 形式を使うことをお勧めします。カスタムプロファイルは、自分のプリンタでキャリブレーションをとっている場合に利用します。

処理形式

次のステップでは、様々な書き出しファイルフォーマット（JPEG、TIFF（8 または 16 ビット）、DNG）の設定を行います。

JPEG ファイル

JPEG フォーマットは、写真の出力ラボでのプリントやオンライン用、メール送信などで利用できます。DxO Optics Pro が JPEG ファイルを書き出す際に設定が必要な項目は、品質レベルです。スライダを 10 ～ 100 まで動かすことによって、圧縮率を設定できます。圧縮があがると品質は低下します。もちろん高品質に設定するとファイルサイズは大きくなります。JPEG は圧縮すると情報が失われますので、できれば高品質（例えば 90）を選択しておき、必要に応じて小さいサイズに変換した方が良いでしょう。低い品質の画像を大きく利用するより良い結果となります。

TIFF ファイル

TIFF はロスレスフォーマットです。保存用の高品質ファイル用や、TIFF 画像を取り込んで編集できるアプリケーションで、後から編集をする場合などに利用します。TIFF フォーマットで書き出す場合は、2 つの設定を行います：

- **圧縮／非圧縮オプション**：非圧縮オプションを選択するとファイルサイズは大きくなりますが、後から編集する場合には圧縮した TIFF ファイルよりも開けるアプリケーションが多いので、非圧縮オプションの選択をお勧めします。
- **8 ビット、または 16 ビット**：8 ビットは各チャンネル 255 階調、16 ビットは 65,536 階調を持っています。16 ビットは、元画像が RAW ファイルや TIFF ファイルで、12 または 14 ビットフォーマットを持っている場合のみ利用できます。可能であれば 16 ビットで書き出した方が、より美しい階調を表現できます。将来的により高い品質で保存しておくことができます。

DNG ファイル

DNG フォーマットは、アーカイブする場合や、Adobe Camera RAW、Photoshop、Lightroom など DNG 形式に対応しているソフトウェアで処理を続ける場合に選択します。DxO Optics Pro で生成される DNG ファイルは、16 ビットリニアの DNG 形式です。この形式はオリジナル画像が RAW の場合のみ利用できます。

リニア DNG は 3 つのカラーチャネルがそれぞれ補間されているため、オリジナルの RAW ファイルより約 3 倍のファイルサイズになります。これらの補間は多くの光学補正を実行するのに必要です。この形式はカメラが生成する RAW ファイルと同様のレベルのカラーと露光コントロールが可能です。

DNG ファイルの他の設定は、画像サイズの設定を除いて TIFF と同じです。画像サイズについては、アーカイブや後処理のためにこのファイルを利用するので、最高の画質が保持されるようリサイズができないようになっています。

4.3.4 ハードディスクにエクスポート

ハードディスクにエクスポートは、補正した画像をハードディスクやドライブに、どのように処理して保存するのかを設定します。処理を開始する前に、ハードディスクにエクスポートオプションウィンドウ内のオプションのいずれかにチェックが入っている必要があります（新しいオプションを作成しても、チェックするまでは有効になりません）。少なくとも 1 つの設定にチェックがかかっている必要がありますが、必要なだけいくつでもチェックをかけることができます。DxO Optics Pro の強力な機能で、一度の処理で複数の設定の出力を同時に実行することができます。

TIP

複数の出力形式を作成することで、複数のハードディスクやサーバーに一度に書き出せます。また同じ出力形式で出力ディレクトリが違う複数のファイルを書き出す設定を作成しておけば、画像のバックアップ作成に利用することができます。

画像ブラウザ内で画像を選択したら、画像ブラウザのコマンドバーにあるハードディスクにエクスポートボタンをクリックして、エクスポートボタンをクリックすれば処理とエクスポートが開始されます。書き出す先のフォルダに同じ名前のファイルがある場合は、上書きするかどうかを聞いてきます。上書きしたくない場合には処理は中止されます。

NOTE

ファイル名の重複を避けるためには、接尾詞の追加機能を利用できます。

処理が開始されると、処理中の画像のサムネイルの右上に、歯車が表示されます。またエクスポートボタン自体に小さい進行バーが表示されます。エクスポートボタンをクリックすると、進行パレット内で進行状況を見ることができます。

NOTE

処理にかかる時間は、エクスポートする画像サイズや枚数によって大きく異なります。

処理が終わると：

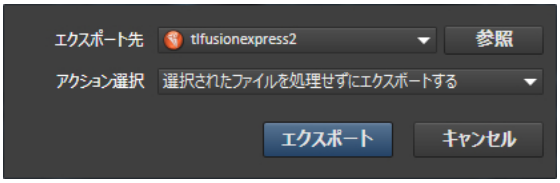
- 処理終了のウィンドウが開きます。
- サムネイルの青い星アイコンが、緑のチェックマークに変わります。これは処理が成功したことを表しています。
- もしエラーが発生した場合は、！アイコンが付きます。

同時に処理できる枚数は、**プリファレンス** > **パフォーマンス** > **表示と処理**で変更できます。

NOTE

DxO Optics Pro はマルチスレッド処理を行うので、1 枚または複数の画像を処理する場合にコンピュータに搭載されているプロセッサをすべて利用します。ただし画像点数が多い場合には、マルチスレッド処理は RAM とディスク間のメモリスワッピングが増大するため、RAM が不十分だとスピードの恩恵は受けられません。

4.4 別のアプリケーションへのエクスポート



別のアプリケーションへのエクスポート（Windows）

Adobe Photoshop や、Lightroom などの他のアプリケーションでさらに編集を続けるために、画像をエクスポートすることができます：

1. **画像ブラウザ**内でエクスポートしたい画像を選択します。
2. **ハードディスクへエクスポート**ボタンの横にあるドロップダウンメニュー■から、**別のアプリケーションにエクスポート**を選択します。
3. システムウィンドウが開くので、プログラムフォルダ（Windows）またはアプリケーションフォルダ（Mac OS X）から開きたいアプリケーションを指定します。
4. アプリケーションを指定したら、アクションメニューからオプションを選択します（JPEG、TIFF、DNG、処理しないでエクスポート）。
5. 選択したオプションに従って、さらに関連オプションを選択します（JPEG の場合は品質、TIFF の場合はビット数、ICC プロファイル等）
6. エクスポートボタンをクリックします。ファイルは処理されてから、指定したアプリケーションで開きます。

NOTE

Windows では、別のアプリケーションにエクスポートを一度利用すると、2 回目からはエクスポートドロップダウンメニュー内にそのアプリケーションがリストに含まれます。Mac OS X の場合は、毎回アプリケーションを選択する必要があります。

NOTE

1 枚または複数の RAW ファイルをエクスポート用に選択した後、処理せずにエクスポートオプションを選択すると、アプリケーションで開いた際に DxO Optics Pro で設定した補正は反映されません。

4.5 Lightroom との連携ワークフロー

4.5.1 Lightroom との連携ワークフローについて

DxO Optics Pro では Lightroom との非破壊方式のワークフローが利用できます。Lightroom のカタログから RAW 画像を DxO Optics Pro に転送し、現像処理後に Lightroom にエクスポートできます。

NOTE

この機能は Lightroom 3 ／ 4 ／ 5 と互換性があります。

このワークフローには 2 つのアプリケーションがあります。

- Lightroom のプラグイン：DxO Optics Pro に RAW 画像を直接転送できます。
- DxO Optics Pro の〔Lightroom へエクスポート〕機能: RAW 画像を現像処理し、様々な出力方式でエクスポート出来ます。

NOTE

DxO Optics Pro は自動的にプラグインを Lightroom のプラグインフォルダ内にインストールします。インストールが正常に行われない場合や、プラグインのインストールを拒否したり、コンピュータに Lightroom を DxO Optics Pro の後にインストールした場合、DxO Optics Pro 内の Lightroom へエクスポートをクリックしてプラグインのインストールをすることが可能です。

4.5.2 Lightroom から DxO Optics Pro へ画像を転送する

Lightroom から DxO Optics Pro に画像を転送：

1. Lightroom 内で画像フォルダを選択し、DxO Optics Pro の画像ブラウザにエクスポートしたい画像をクリックします。
2. ファイルメニュー>プラグインエクストラ< DxO Optics Pro 9 に転送を選択します。
3. DxO Optics Pro が起動し、新規プロジェクトが作成され、その中に転送した画像が読み込まれます。
4. 画像の補正作業を始めます。

重要

転送前に Lightroom 内で RAW 画像に対して適用された補正は DxO Optics Pro に転送される画像には反映されません。

NOTE

転送された画像は自動的に DxO Optics Pro の設定タブ内で開き、プロジェクトが新規作成され、Lightroom にエクスポートボタンが表示されます。転送後、直ぐに作業を開始できます。

4.5.3 DxO Optics Pro から Lightroom に画像をエクスポートする

1. 画像の処理作業が終了したら、... にエクスポートを開きます。
2. Lightroom にエクスポートを選択します。
3. ダイアログウィンドウが開きます。
4. アクション選択メニューから処理形式（JPEG ／ TIFF ／ DNG）を選択します。

5. オプションメニューで添付する ICC プロファイルを選択してください。

6. エクスポートボタンをクリックする。

NOTE

エクスポートする画像に対し Lightroom で更に編集を行いたい場合、RAW 形式と非常に近い補正を行うことができる DNG 形式を選択することをお勧めします。そうでない場合は、JPEG または TIFF を選択してください。

Lightroom にエクスポートされた画像は、エクスポートの日付と時間が記録されたコレクションに読み込まれます。« DxO Optics Pro » という名称のコレクションが作成され、全てのコレクションがこの中に入ります。

エクスポートされた画像ファイルは、ファイルシステムモードの Lightroom のフィルムストリップ内で、元の RAW 画像と同じスタック内に入っています。

NOTE

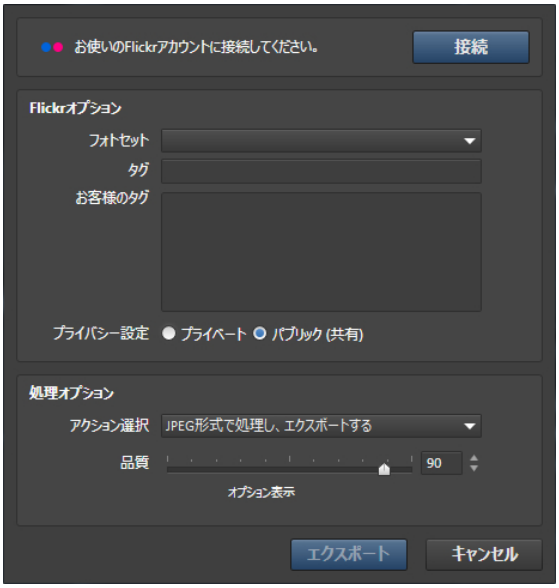
Lightroom のカタログ内で RAW 画像に対して、スター、色、キーワードを設定した場合、DxO Optics Pro でエクスポートした画像にも自動的に設定が保持されます。編集>カタログ設定の〔変更点を XMP に自動的に書き込む〕オプションをチェックしてください。

NOTE

Lightroom のライブラリ内で RAW 画像にスターや色、キーワードを付けた場合、これらの情報を DxO Optics Pro 内で見ることはできませんが保存されており、Lightroom にエクスポートすると再び見ることができます。このためには、Lightroom のライブラリの〔編集〕メニュー>〔プリファレンス〕を開き、〔変更点を XMP に自動的に書き込む〕オプションにチェックと入れます。DxO Optics Pro の〔プリファレンス〕>〔全般〕タブ内の〔RAW 画像のサイドカー XMP ファイルのメタデータを保持する〕オプションにもチェックを入れてください

 ©DxO Labs 2014 - All rights reserved

4.6 Flickr へエクスポート



Flickr にエクスポート（Windows）

DxO Optics Pro から、Flickr ウェブギャラリーへ直接写真を書き出すことができます（インターネット接続と Flickr アカウントが必要です）。初めてこの機能を使う場合には、**ハードディスクへエクスポート**ボタンの横にあるドロップダウンメニュー■から、**別のアプリケーションにエクスポート**を選択すると、Flickr アカウントに接続するための設定ダイアログボックスが開きます：

1. 接続をクリックします。
2. デフォルトのウェブブラウザが起動します。
3. Yahoo®/Flickr® のページで、お持ちの Flickr のユーザー ID とパスワードを入力します。
4. 次のページで DxO Optics Pro があなたの Flickr アカウントへアクセスすることを確認する確認コードが表示されます。
5. DxO Optics Pro の画面に戻り、確認コードを入力します。
6. 接続が認証されたことを確認する画面が表示されます。

Flickr ギャラリーへ画像をエクスポートするには：

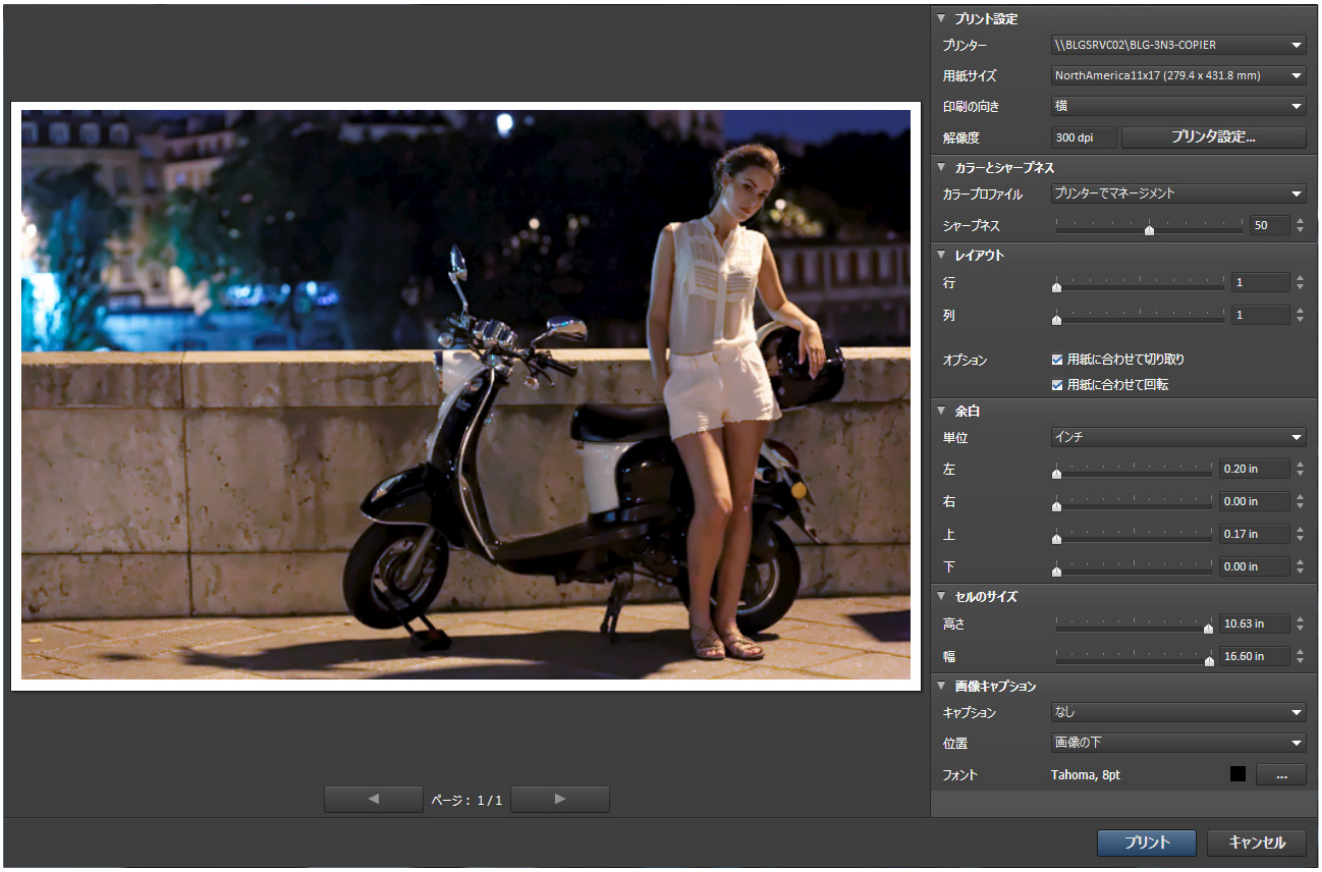
1. **画像ブラウザ**内でエクスポートしたい画像を選択します。
2. **Flickr にエクスポート**を選択します。
3. フローティングウィンドウで Flickr アカウントに接続します。

NOTE

以前のバージョンの DxO Optics Pro と異なり、Flickr へのエクスポートの前にあらかじめ画像を処理をしておく必要はありません。

4. **Flickr オプション**で、フォトセットとタグを設定します。またプライバシー設定も行います。
5. 処理オプションで、エクスポートする画像のフォーマットと品質を設定します。
6. エクスポートボタンをクリックします。DxO Optics Pro が変換とエクスポートを開始します。画像ブラウザのコマンドバーにプログレスバーが表示されます。
7. 終了したら Flickr ページを確認してください。

プリント



プリントモジュール（Windows）

5.1　プリント - Windows

5.1.1　プリントメニュー

DxO Optics Pro でサポートしている、RAW やバーチャルコピーを含むすべてのファイル形式をプリントすることができます。プリントする前に必ずしも処理する必要はありません。プリントは**選択**タブ、**設定**タブのどちらからでも利用できます。

プリンタモジュールは、コンピュータに接続されているプリンタを自動的に表示します。PDF に書き出すこともできます。

プリントカラーマネジメントはプリンタドライバ、または DxO Optics Pro で実行できます。後者のオプションは ICC プロファイルの選択と、レンダリングとシャープネスの調整が可能です。

5.1.2　ツールと設定

インターフェイス

1 枚または複数の画像を選択したら、以下の場所からプリントを実行できます：

- 画像ブラウザのコマンドバーにある**プリント**ボタン
- **ファイル** > **プリント** メニュー

プリントモジュールを開くと、DxO Optics Pro の画面上に大きなフローティングウィンドウが開きます。これは 2 つのセクションに分かれています。

- **プリントプレビューエリア**:左側にはプリントされる画像が表示されます（矢印ボタンを使って別のアイテムに移動できます）。
- **設定エリア**：右側にはプリントコントロールの設定が用意されています。

プリントウィンドウの下に、**プリント**と**キャンセル**ボタンが用意されています。

設定

プリント設定

一番上のパレットにはプリンタパラメータの設定があります：

- **プリンター**：接続して利用できるプリンタのリスト
- **用紙サイズ**：プリンタドライバによる用紙サイズ
- **印刷の向き**：プリンタドライバによる用紙の向き
- **解像度**：プリンタドライバによるデフォルト解像度（300 dpi）

NOTE

プリントの最高解像度は 1200 dpi です。

カラーとシャープネス

カラーとシャープネスセクションではプリントのカラー管理を、プリンタドライバを使うか、**カラープロファイル**ドロップダウンメニューから ICC プロファイルとレンダリングモードを選択する 2 つの方法で行えます。またプリントシャープネスをスライダで調整できます。

プリンターでマネージメント

プリンタプロパティを設定した後は、特に設定することはありません。プリンタドライバがカラープリント管理を実行します。

NOTE

レンダリングモードの選択は、ICC プロファイルを選択した後に表示されます（DxO Optics Pro でマネージメント使用時）。

DxO Optics Pro でマネージメント

このモードを選択すると、以下のメニューが表示されます：

- **ICC プロファイルをインポート**：コンピュータにインストールされている ICC プロファイルを選択できます。
- **レンダリングインテント**：4 種類のレンダリングモードから選択できます。

  - **知覚的**：このモードではガモットを圧縮し、すべてのカラーが印刷できるようにします。写真プリントに最も適したレンダリングです。

  - **彩度**：このモードは、元のカラーと変換されるカラー間のカラーマッチングを確実に実行します。明るい色を再現したい場合に有効です。

  - **相対的な色域**：このモードはカラーをできるだけ忠実に再現します。下の絶対値によるモードとは異なり、白は変換されるカラースペース内の白に変換されます。

  - **絶対的な色域**：このモードもカラーを忠実に再現します。しかし相対的なモードとは異なり、白は変更されません。レイアウト

NOTE

DxO Optics Pro のカラーマネジメントを利用する場合は、プリンタドライバ内の関連するオプションが無効になっていることを確認してください（パレット内に注意メッセージが表示されます）。

シャープネススライダ

シャープネススライダを使って、写真をプリントする際にシャープネスを向上することができます。スライダは 0 から 100 で調整でき、デフォルトでは 50 に設定されています。

NOTE

シャープネスの強さはプリントサイズに自動的に対応します。スライダはシャープネスの好みや、出力サイズのテイストに合わせるために利用します。

シャープネスのプレビューは表示できません。どの程度のシャープネスがかかるかは実際にプリントしてお試しください。

レイアウト

レイアウトパレットでは、スライダや数値を使って画像配列の**行**と**列**の数を決めることができます。さらに 2 つのチェックボックスが用意されています：

- **用紙に合わせて切り取り**：チェックをかけると、画像が用紙サイズにあいます（はみ出す部分はカットされます）。
- **用紙に合わせて回転**：チェックをかけると、用紙にあわせて画像の向きが回転します。

余白

用紙の上下左右の余白を入力できます。ドロップダウンメニューから、単位（cm、インチ等）も選択できます。

セルのサイズ

プリントするセルの**高さ**と**幅**を調整するサイズスライダでは、以下の調整が可能です：

- **1 枚の画像をプリント**：ページ内に画像を 1 点プリントする場合は、画像の高さと幅のサイズを指定できます。
- **複数の画像をプリント**（**コンタクトシート**）：画像サイズと、画像間のスペースを縦横で調整できます。

画像キャプション

画像へのキャプション追加、キャプションの位置、フォント、フォントサイズなどが設定できます。

キャプション追加ドロップダウンメニューには 4 つのオプションが用意されています。

- **なし**
- **ファイル名**
- **ファイル名と日付**
- **ファイル名とメタデータ**（シャッタースピード、露出値、焦点距離、ISO 値）

キャプションの位置ドロップダウンメニューでは、画像の上下左右が選択できます。

フォント設定では、コンピュータ上で使用可能なフォントとスタイル、サイズ、カラーが選択できます。

TIP

プリントモジュールを終了する際に、設定は保存されます。他のレイアウトや異なる設定を使いたい場合は、それぞれのスライダをダブルクリックして元の値に戻す必要があります。

 ©DxO Labs 2014 - All rights reserved

5.2 プリント（Mac OS X）

プリントメニュー（Mac OS X）

5.2.1 ツールと設定

インターフェイス

プリントメニューは Mac OS X が提供する標準ツールです。1 枚または複数の画像を選択したら、以下の場所からプリントダイアログを開くことができます：

- **画像ブラウザ**のコマンドバーにある**印刷**アイコン
- **ファイル** > **プリント**メニュー

DxO Optics Pro の画面上にプリントメニューが開きます。プリンタダイアログは以下の 2 つのセクションに分かれています：

- **プリントプレビューエリア**:左側にはプリントされる画像が表示されます（矢印ボタンを使って別のアイテムに移動できます）。
- **設定エリア**：右側にはプリントコントロールの設定が用意されています。

プリントウィンドウの下に、プリントとキャンセルボタンが用意されています。

設定

プリント設定

右上には基本的なプリントパラメータ関連があります：

- **プリンタドロップダウンメニュー**：接続して利用できるプリンタのリスト
- **プリセット**：保存されたプリント設定

3 つ目のドロップダウンメニューでは、DxO Optics Pro の設定やプリンタドライバの設定が行えます（このメニューが見えていない場合は、プリントダイアログの下にある**詳細を表示**ボタンをクリックします）。

DxO - 画像設定

- **用紙に合わせて切り取り**：チェックをかけると、画像が用紙サイズにあいます（はみ出す部分はカットされます）。
- **用紙に合わせて回転**：チェックをかけると、用紙にあわせて画像の向きが回転します。
- **キャプション追加**：画像へのキャプション追加、キャプションの位置、フォントなどが設定できます。

キャプション追加ドロップダウンメニューには 3 つのオプションが用意されています。

- **ファイル名**
- **ファイル名とメタデータ**（シャッタースピード、露出値、焦点距離、ISO 値）

・**ファイル名と日付**

キャプションの位置ドロップダウンメニューでは、画像の上下左右が選択できます。フォント設定では、コンピュータ上で使用可能なフォントとスタイル、サイズが選択できます。

DxO - レイアウト

・**余白**：用紙の周囲の余白を入力できます。

・**レイアウト**：コンタクトシートを作成する際に、スライダを動かして縦横の画像数を決めることができます。

・**セルのサイズ**：実際の数値を入れて画像サイズを決めることができます。また「自動」を選択すると、用紙サイズにあわせて自動に調整されます。

その他、用紙処理、用紙サイズ、用紙の向きなど、その他の設定はすべて中央のプルダウンメニューからプリンタドライバのパラメータを開いて設定します。

NOTE

プリントの最高解像度は 1200 dpi です。

DxO - シャープネス

シャープネススライダを使って、写真をプリントする際にシャープネスを向上することができます。スライダは 0 から 100 で調整でき、デフォルトでは 50 に設定されています。

NOTE

シャープネスの強さはプリントサイズに自動的に対応します。スライダはシャープネスの好みや、出力サイズのテイストに合わせるために利用します。

シャープネスのプレビューは表示できません。どの程度のシャープネスがかかるかは実際にプリントしてお試しください。

 ©DxO Labs 2014 - All rights reserved

6.1 メニュー

ファイルメニュー

新規プロジェクト、プロジェクトを開く、前回の画像参照場所、終了などの一般的なメニュー以外に、以下のような項目があります:

- **新規プロジェクト**：DxO Optics Pro の新規プロジェクトを作成します。
- **プロジェクトを開く**：DxO Optics Pro に保存されているプロジェクトを開きます。
- **前回の画像参照場所**：最近作成した、または最近開いたプロジェクトを直接開けます。
- **DxO Optics Pro プロジェクト履歴**：データベースのバックアップ作成やバックアップの修復が行えます。
- **画像を ICC プロファイル作成のためにエクスポートする**：プロ向けキャリブレーションプログラムで ICC プロファイルを作成するのに利用できる画像を保存します（RAW リニアまたはリアル・カラーレンダリングでエクスポート）。
- **サイドカー**：画像の設定ファイルをサイドカーファイル（.dop 形式）としてオリジナル画像と同じフォルダ内に書き出し、他の画像に適用したり、他のユーザーと共有したりすることができます。サイドカーファイルは Mac と Windows 両方で共有できます。
- **ハードディスクにエクスポート**：ハードディスクや外部メディアに画像を書き出します。
- **別のアプリケーションにエクスポート**：オリジナル、または処理した画像を他のアプリケーションで開きます。
- **Flickr にエクスポートする**：Flickr ギャラリーに画像を書き出します。
- **プリント**：プリントモジュールを開きます。
- **終了**：DxO Optics Pro を終了します。

編集メニュー

- **元に戻す、やり直し**：最後に行ったアクションに対して影響します。
- **全てを選択**：画像ブラウザ内のすべての画像を選択します。
- **ファイル名の変更**：選択した画像ファイルのファイル名を変更します（この変更は実際のファイル名が変更されます）。
- **プリファレンス**：ソフトウェアの環境設定を行います（詳細はプリファレンスのページを参照してください）。

表示メニュー

表示メニュー上部では、タブ間の移動が行えます。その下に、画像表示に関するツールが表示されます。

NOTE

以下のコマンドのいくつかは、選択タブ、設定タブのどちらかにいるかによって利用できないものもあります。

表示メニューの下部は 4 つのセクションに分かれています：

- **画像情報**：選択した画像の詳細情報をフローティングウィンドウで表示します。
- **罫線**（設定タブ）：プレビュー画像の上に、グリッド罫線を表示します。
- **リフレッシュ**：選択したフォルダやプロジェクトの画像ブラウザをリフレッシュします。
- **ソースブラウザを表示する／隠す**（選択タブ）：フォルダやプロジェクトのパネルを表示／非表示します。
- **画像ブラウザを表示する／隠す**：アプリケーションウィンドウの下にサムネイル画像が並んでいる、画像ブラウザを表示／非表示します。
- **全てのパレットを表示する／隠す**（設定タブ）：すべての補正パレットを表示／非表示します。
- **全画面表示**：画像を全画面で表示します（もう一度選択すると元の表示に戻ります）。
- **画像ブラウザをアンドックする**：画面の下にある画像ブラウザを切り離して、フローティングウィンドウとして移動することができます。

画像メニュー

- **プリセット適用**：ドロップダウンメニューからプリセットを選択
- **現在の設定からプリセットを新規作成**：選択された補正の設定がされた画像を元にプリセットを新規作成
- **補正設定をコピー**：他の画像に適用するために、現在の画像の補正設定をコピー
- **補正設定をペースト**：選択した画像に補正設定をペースト
- **DxO 光学モジュールの曖昧性を解決する**：手動で DxO 光学モジュールの曖昧性を解決するためのダイアログボックスが開きます。
- **回転**：画像を左右に 90° 回転、リセット
- **Windows エクスプローラで入力画像を表示**：現在の画像が保存されている場所をシステム上で表示します。
- **Windows エクスプローラで出力画像を表示**：処理が完了した画像の保存場所をシステム上で表示します。
- **元画像を別のソフトウェアで開く**：元画像を他のソフトウェアで画像を開きます。初めて利用する場合は参照のみが表示されますが、それ以降は一度選択したソフトウェア名が表示されます。
- **処理画像を別のソフトウェアで開く**：処理した画像を他のソフトウェアで画像を開きます。初めて利用する場合は参照のみが表示されますが、それ以降は一度選択したソフトウェア名が表示されます。
- **バーチャルコピーの作成**：バーチャルコピーを自動的に作成して、画像ブラウザに参照番号付きで表示します。
- **現在選択されている画像からプロジェクトを作成する**：画像ブラウザで選択した画像から新規プロジェクトを作成します。
- **現在選択されている画像をプロジェクトに追加**：画像ブラウザで選択している画像を現在のプロジェクトに追加します。
- **削除する**：このメニューは状況により異なる働きをします：
  - プロジェクトでは、選択した画像がプロジェクトから削除されます（画像ファイル自体はゴミ箱には移動されません）。
  - バーチャルコピーの無いフォルダでは、画像がゴミ箱に移動されます。
  - バーチャルコピーを含むフォルダで、すべてが選択されている場合は、すべてのファイルがゴミ箱に移動されます。
  - バーチャルコピーがを含むフォルダで、バーチャルコピーのみが選択されている場合は、プロジェクトから削除されますが、ゴミ箱には移動されません。
- **処理を可能にする**：選択した画像の処理ステータスを設定できます（しない、多分、する）。赤／黄／青の記号を選択するとプロジェクトのサムネイルに表示されます。プリファレンス画面で有効になっていないと表示されません。
- **ランク付け**：星をつけて画像のランクを付けられます。プレファレンス画面でスターランキングが有効になっていないと表示されません。
- **EXIF 情報**:ファイル名、保存場所、EXIF データ、関連 DxO 光学モジュールなどがフローティングウィンドウとして開きます。

DxO 光学モジュールメニュー

このメニューには、画像の自動処理に必要な DxO 光学モジュールに関する各機能が用意されています：

- **DxO 光学モジュールの追加ダウンロード**（インターネット接続が必要）**：**DxO Labs のダウンロードサーバーに接続して、新しい DxO 光学モジュールを選択することができます。モジュールダウンロード後はすぐに利用できます。
- **インストールされている DxO 光学モジュール**：インストール済みの DxO 光学モジュールの一覧表示と削除が行えます。
- **DxO 光学モジュールのリリース予定表**（インターネット接続が必要）: DxO Labs のウェブサイトに接続して、今後リリースが予定されている DxO 光学モジュールを見ることができます。
- **新しい DxO 光学モジュールを DxO Labs 社まで提案する**（インターネット接続が必要）: DxO Labs のウェブサイトに接続して、今後作成してほしい DxO 光学モジュールを提案することができます。

補正パレットメニュー（設定タブ）

設定タブ内の補正パレットメニューでは、ツールパレットの管理が行えます：

- **各パレット名**：各パレットの表示／非表示が行えます。
- **新規ユーザーパレットの作成**:任意のツールを入れるカスタムパレットを作成します。ダイアログボックスが開いて名前をニュ力できます。
- **パレットを表示する／隠す**：全てのパレットを表示／非表示します。

ワークスペースメニュー（設定タブ）

このメニューでは、ワークスペースの作成や選択ができます：

- **DxO- スタンダード**：デフォルトのワークスペース
- **ユーザーワークスペース**：ユーザーが作成したワークスペース名が表示されます。
- **ワークスペースの保存**:カスタムワークスペースを保存できます。選択すると名前を入力するダイアログボックスが開きます。
- **ワークスペースを削除**：選択しているワークスペースを削除します。

ヘルプメニュー

ヘルプメニューでは、DxO Optics Pro をより効果的に使えるよう様々な項目が用意されています：

- **DxO Optics Pro ヘルプ**：ユーザーガイドを起動
- **オンラインサポートとドキュメンテーション**（インターネット接続が必要）：オンライン上のヘルプを起動
- **DxO Academy**（インターネット接続が必要）：DxO Academy のサイトを開きます。チュートリアルやウェブトレーニング、DxO ユーザーガイドのダウンロードなどが行えます。
- **ショートカット**：キーボードショートカットを表示
- **アップデートの確認をする**（インターネット接続が必要）：DxO Labs のウェブサイトに接続して、最新の DxO Optics Pro をインストールしているかどうかを確認します。もし最新でない場合は、最新版をダウンロードしてインストールすることができます。
- **DxO Optics Pro のライセンス認証をする**（インターネット接続が必要）：DxO Optics Pro のライセンス認証を行います。
- **DxO FilmPack**（インターネット接続が必要）：DxO FilmPack のライセンス認証を行います（最初の 30 日間は無料体験版として利用できますが、それ以降利用する場合は、DxO FilmPack の購入が必要です）。
- **ウェブサイトにアクセス**（インターネット接続が必要）：ウェブブラウザが起動し、DxO Labs ウェブサイトにアクセスすることができます。
- **DxO Optics Pro について**：この画面内にはご利用のバージョンやインストール済みの追加オプションが表示されます。DxO Labs のテクニカルサポートを受ける場合には、これらは重要な情報になります。

右クリックメニュー

画像ブラウザ内のサムネイルやメインプレビュー画像を右クリックすると、以下のコンテキストメニューが利用できます（選択タブ、設定タブのどちらでも利用できます）。

- **ハードディスクにエクスポート**：ハードディスクや外部メディアに画像を書き出します。
- **別のアプリケーションにエクスポート**：オリジナル、または処理した画像を他のアプリケーションで開きます。
- **Flickr にエクスポートする**：Flickr ギャラリーに画像を書き出します。
- **プリント**：プリントモジュールを開きます。
- **DxO 光学モジュールのダウンロード**（インターネット接続が必要）：新しい DxO 光学モジュールを選択することができます。モジュールダウンロード後はすぐに利用できます。
- **DxO 光学モジュール曖昧性を解決する**：曖昧性を手動で解決するダイアログボックスが開きます。
- **プリセット適用**：ドロップダウンメニューからプリセットを選択して適用できます。
- **現在の設定からプリセットを新規作成**：選択された補正の設定がされた画像を元にプリセットを新規作成
- **補正設定をコピー**：他の画像やスタックに適用するために現在の画像の補正設定をコピー
- **補正設定をペースト**：選択した画像に補正設定をペースト
- **現在選択されている画像からプロジェクトを作成する**：画像ブラウザで選択した画像から新規プロジェクトを作成します。
- **現在選択されている画像をプロジェクトに追加**：画像ブラウザ内で選択した画像を現在のプロジェクトに追加します。
- **ファイル名の変更**：画像ブラウザ内のファイル名を編集できます。ファイル名の変更はバッチ処理できません。画像は 1 枚ずつ選択して実行してください。
- **削除する**：このメニューは状況により異なる働きをします：
  - -プロジェクトでは、選択した画像がプロジェクトから削除されます（画像ファイル自体はゴミ箱には移動されません）。
  - - バーチャルコピーの無いフォルダでは、画像がゴミ箱に移動されます。
  - - バーチャルコピーを含むフォルダで、すべてが選択されている場合は、すべてのファイルがゴミ箱に移動されます。
  - - バーチャルコピーがを含むフォルダで、バーチャルコピーのみが選択されている場合は、プロジェクトから削除されますが、ゴミ箱には移動されません。
- **回転**：画像を左右 90° に回転、リセット
- **元画像のフォルダを読み込む**：プロジェクトでは、このコマンドでオリジナル画像のあるフォルダを開くことができます。
- **Windows エクスプローラで入力画像を表示**：現在の画像が保存されている場所をシステムで表示します。
- **Windows エクスプローラで出力画像を表示**：処理が完了した画像の保存場所をシステムで表示します。
- **出力画像を別のソフトウェアで開く**：例えばチェック用にプリントしたい場合など、書き出した画像を他のソフトウェアで画像を開きます。初めて利用する場合は参照のみが表示されますが、それ以降は一度選択したソフトウェア名が表示されます。
- **バーチャルコピーの作成**：同じ元画像からバーチャルコピーを作成することで、異なる補正設定やプリセットを適用するこ

とができます。

- **処理を可能にする**：選択した画像の処理ステータスを設定できます（しない、多分、する）。赤／黄／青の記号を選択するとプロジェクトのサムネイルに表示されます。プリファレンス画面で有効になっていないと表示されません。
- **ランク付け**：星をつけて画像のランクを付けられます。プレファレンス画面でスターランキングが有効になっていないと表示されません。
- **EXIF 情報**:ファイル名、保存場所、EXIF データ、関連 DxO 光学モジュールなどがフローティングウィンドウとして開きます。

6.2 プリファレンス

プリファレンスは**編集**メニューから開くことができます。プリファレンスウィンドウには、全般、表示、パフォーマンスの 3 つのタブがあります。

全般タブ

プリファレンス画面の**全般**タブには以下の項目があります：

アプリケーション用プリファレンス

- **インターフェイスの表示言語（再起動必要）**: 利用する言語を選択して DxO Optics Pro を再起動してください。
- **アップデートを自動的にチェックする（再起動必要）**: 設定変更後は DxO Optics Pro の再起動が必要です。
- **ソフトウェア改善プログラムへ参加する**：この項目にチェックを入れると、お使いのコンピュータの最低限の仕様と DxO のプロジェクト情報が DxO Labs に送信されます。この情報は今後のプログラム改善のために参考にされます（詳細は、タブ内のリンクをクリックしてください）。

処理

- **DxO FilmPack の旧カラーレンダリング（v2.0 以前のバージョン）を適用（再起動必要）**: このオプションは DxO FilmPack 3 以降を利用している場合に、前のバージョン（2.0 以前）のカラーレンダリングを利用したい場合に使います。設定変更後は DxO Optics Pro の再起動が必要です。
- **RAW 画像のサイドカー XMP ファイルのメタデータを保持する（Photoshop や Lightroom 等をお使いの場合のみ）**: 書き出したファイルの xmp サイドカーファイル内に、画像のメタデータを保存します。例えば Adobe Bridge などのプログラムで作成されたメタデータを保存できます。

補正用諸設定

- **サイドカーファイル（接尾辞 .dop）の自動保存**：サイドカーファイルは、拡張子に .dop が付いた小さなテキストファイルで、画像ファイルに関連づけされています。このファイルには画像補正の設定情報が含まれています。画像を他のコンピュータにコピーする場合など、画像だけではなく関連したサイドカーファイルのコピーも必要です。この下の自動読み込みの設定にチェックがかかっていれば、後で画像を開いた際にサイドカーファイルが自動的に読み込まれます。
- **サイドカーファイル（.dop）からの設定自動読み込み**：選択した画像に関連づけされているサイドカーファイルから自動的に設定を読み込みます。ファイルメニューからサイドカーを手動で読み込むこともできます。
- **RAW 画像用**：RAW に適用するプリセットをドロップダウンメニューから選択できます。このプリセットにより、選択した画像に即座に補正が実行されます。初期設定は **DxO 標準**になっています。
- **RGB 画像用**：RAW 以外の TIFF や JPEG に適用するプリセットです。初期設定は **DxO 標準**になっています。

DxO Optics Pro プロジェクト履歴

- **場所**（再起動必要）：DxO Optics Pro のデーターベースが保存されているディレクトリパスを表示しています。参照ボタンをクリックすると、システム内のディレクトリが開きます。

表示タブ

表示タブは、アプリケーション全体に関わる設定、**設定**タブの設定、**画像ブラウザ**の設定の 3 つのパートに分かれています。

表示全般

- **ディスプレイに使われている ICC プロファイル**：3 つのオプションから選択できます：
  - **当ディスプレイのプロファイル**：ディスプレイが計測器によりキャリブレートされている場合に利用します。
  - **ジェネリックプロファイル（sRGB）- 表示モニタ用（特定のカリブレーションなし）**: デフォルト
  - **Adobe プロファイル（Adobe RGB）- このプロファイルに対して調整された表示モニタ用**：Adobe RGB ガモットを表示できる高品質モニタを利用している場合はこちらを利用します。

・**ウィンドウ内の背景色**：スライダで黒から白までの背景色の明るさを設定できます。元の設定に戻すにはスライダをダブルクリックします。

・**DxO 光学モジュールがダウンロードされていないか見つからない場合、DxO 光学モジュールのダウンロードウィンドウを表示する**：画像を選択しプロジェクトに読み込む際に、DxO 光学モジュールがない場合、DxO 光学モジュールダウンロードウィンドウを表示します。表示されますがまだインストールはされません。

・**バッチ処理前に、DxO 光学モジュールの有無・曖昧性確認のダイアログボックスを表示**：解決のためのダイアログを表示します。

設定タブ

・**グリッドのサイズ**：ディストーションやパース補正設定時に表示すると便利な罫線グリッド表示のサイズを設定します。

画像ブラウザセクション

サムネイルに 6 種類のアイコンを表示できます。これらのアイコンの表示は常にオン、常にオフ、マウスオーバー表示、から選択できます：

・**処理ステータス**：処理前か処理済みかがわかります。

・**画像名**：RAW か JPEG ファイルかがわかります。

・**処理を可能にする**：赤／黄／青のライトで画像が処理可能かどうかを識別できます。

・**スターランキング**：写真のランキングを付けられます。

・**DxO 光学モジュールのステータス**：DxO 光学モジュールが利用可能かどうかを表示します。

・**削除ボタン**：プロジェクトやハードディスクから画像を削除できるボタンを表示します。

パフォーマンスタブ

キャッシュ

キャッシュのファイルサイズと場所を設定できます。DxO Optics Pro のプレビューやサムネールを一時的に保存するのに利用されます。画像枚数の多い処理を行う場合などは、キャッシュサイズを上げて DxO Optics Pro のパフォーマンスを向上することができます。**参照**ボタンをクリックしてキャッシュファイルの保存場所を指定できます。また**クリア**ボタンでキャッシュをクリアすることができます。

NOTE

スライダ上にマウスポイントを置くと、現在のキャッシュサイズが表示されます。

表示と処理

・**GPU 高速処理**：お使いのコンピュータに GPU が搭載されている場合に処理時に利用します。表示が不安定になるなどの現象が発生した場合はこのチェックを外します。

・**OpenCL 有効化（再起動必要）**：サムネイル表示、画像処理のスピードをアップできます。DxO Optics Pro を最初に起動したときに、CPU プロセッサの処理よりもグラフィックカード（GPU）の処理が速いかどうかがテストされます。もし CPU の方が速い場合は、OpenCL オプションはグレーアウトして利用できません。

・**ズーム率 75%未満でのノイズ除去プレビューを非アクティブ化する**：ノイズ除去のプレビューを 75%以下にしたときに表示しないようにできます。デフォルトではプレビューは無効になっています（有効にすると、ご利用のコンピュータのパフォーマンスによっては、処理が遅くなることがあります）。

・**同時に処理する画像の最大数(2 枚を奨励)**:初期設定では、同時に 2 枚の画像を処理します。パワフルなコンピュータを使っている場合には、より多くの画像を同時に処理させることができます。

メニューとプレファレンス（Mac OS X）

7.1　メニュー

DxO Optics Pro 9 メニュー

- **DxO Optics Pro について**：このメニューには現在使っているバージョンについての情報が用意されています。DxO Labs のテクニカルサポートを利用される場合にはこれらの情報が重要になります。
- **DxO Optics Pro のライセンス認証をする**
- **DxO FilmPack**：DxO Optics Pro のライセンス認証が完了していれば、このコマンドを利用できます。DxO FilmPack のライセンス認証を行います（最初の 30 日間は無料体験版として利用できますが、それ以降利用する場合は、DxO FilmPack の購入が必要です）。DxO FilmPack は補正パレット内に関連パレットが表示され、DxO Optics Pro の一部として統合された環境で利用できます。
- **アップデートを確認**
- **プレファレンス**：プレファレンスウィンドウを開きます。
- **DxO Optics Pro を隠す**
- **他を隠す**
- **全てを表示**
- **DxO Optics Pro を閉じる**：アプリケーションを終了します。

ファイルメニュー

- **新規プロジェクト**：DxO Optics Pro の新規プロジェクトを作成します。
- **プロジェクトを開く**：DxO Optics Pro に保存されているプロジェクトを開きます。
- **最近のプロジェクト**：最近作成した、または最近開いたプロジェクトを直接開けます。
- **ウィンドウを閉じる**
- **プロジェクト履歴**：データベースのバックアップ作成やバックアップの修復が行えます。
- **サイドカーファイル（.dop）**：画像の設定ファイルをサイドカーファイル（.dop 形式）としてオリジナル画像と同じフォルダ内に書き出し、他の画像に適用したり、他のユーザーと共有したりすることができます。サイドカーファイルは Mac と Windows 両方で共有できます。
- **プリント**：プリントモジュールを開きます。

編集メニュー

- **取り消す／やり直す**：最後に行ったアクションに適用されます。
- **切り取り**：選択したテキストやオブジェクトをシステムのクリップボードに移動します。
- **コピー**：選択したテキストやオブジェクトをシステムのクリップボードにコピーします。元のテキストやオブジェクトは元の場所に残ります。
- **貼り付け**：EXIF フィールドなどにコピーしたテキストを貼付けられます。
- **全てを選択**：画像ブラウザ内の画像をすべて選択します。

表示メニュー

表示メニューではタブ間の移動が行えます。また画像表示のコントロールを行えます。

NOTE

以下の項目は選択しているタブによって使えない物があります。

- **〔選択〕タブに行く、〔設定〕タブに行く**：各タブへ移動
- **参照パネルを表示／非表示**（選択タブ）：フォルダやプロジェクトが表示されている参照パネルを表示／非表示します。
- **参照画像／補正画像を並べて表示**、または**補正画像のみ表示**：現在選択されている表示方法によって、メニューが変わります。1 画面表示、または 2 画面表示の切り替えができます。

・**参照画像の設定**：撮影時設定（デフォルト）、出力画像、バーチャルコピーから選択できます。
・**画像情報の表示／非表示**：どの画像（補正前、補正のプレビュー、参照画像）が表示されているかを、画像プレビュー上に表記する／しないを切り替えられます。
・**罫線の表示／非表示**：画像プレビュー上に罫線を表示／非表示
・***拡大ズーム／縮小ズーム***：画像の表示を拡大、縮小
・**ズームフィット**：プレビュー画面内に全画面を表示
・**フルサイズ**：100%ズームレベルで表示
・**ハイライトのクリッピングの表示／隠す**：画像内のハイライトクリッピングエリアを表示／非表示
・**シャドウのクリッピングの表示／隠す**：画像内のシャドウクリッピングエリアを表示／非表示
・**補正パレット**（設定タブ）：ヒストグラム、ライトとカラー、基本補正機能、新規ユーザーパレット
・**ワークスペース**（設定タブ）：ワークスペースを切り替えられます。またカスタムワークスペースの保存や削除も行えます。
・**ドック**（設定タブ）：各パレットを画面左右にドック／アンドックします。
・〔**プロジェクト**〕 **ウィンドウをドックに入れる／アンドックする**：画面下の画像ブラウザをドック／アンドックします。

画像メニュー

NOTE

画像メニューのコマンドは、画像ブラウザ内のサムネイル上で右クリックしてコンテキストメニュー内からも利用できます。

・**プリセット適用**：ドロップダウンメニューからプリセットを選択
・**現在の設定からプリセットを新規作成**：選択された補正の設定がされた画像を元にプリセットを新規作成
・**プリセットのインポート**：カスタムプリセットの読み込み
・**補正設定をコピー**：他の画像やスタックに適用するために、現在の画像の補正設定をコピー
・**補正設定を貼り付け**：選択した画像に補正設定をペースト
・**不足している DxO 光学モジュールをダウンロード**
・**ハードディスクにエクスポート**：ハードディスクや外部メディアに画像を書き出します。
・**別のアプリケーションにエクスポート**：オリジナル、または処理した画像を他のアプリケーションで開きます。
・**Flickr にエクスポートする**：Flickr ギャラリーに画像を書き出します。
・**回転**：画像を左右に 90° 回転、リセット
・**ランク付け**：星をつけて画像のランク付けを行えます。プレファレンス画面で〔スターランキング〕が有効になっていないと表示されません。
・**削除する**：このメニューは状況により異なる働きをします：
  - プロジェクトでは、選択した画像がプロジェクトから削除（画像ファイル自体はゴミ箱には移動されません）。
  - バーチャルコピーの無いフォルダでは、画像がゴミ箱に移動されます。
  - バーチャルコピーを含むフォルダで、すべてが選択されている場合は、すべてのファイルがゴミ箱に移動されます。
  - バーチャルコピーがを含むフォルダで、バーチャルコピーのみが選択されている場合は、プロジェクトから削除されますが、ゴミ箱には移動されません。

NOTE

操作を実行すると、アクションについてのメッセージが表示されます。

・**Finder で元画像表示**
・**Finder で補正済み画像表示**
・**ハードディスク上で名称変更**：選択画像のファイル名を変更（バッチ処理はできません）。
・**画像パスの修復**：プロジェクト内の画像パスが切れている場合に修復します。
・**バーチャルコピー作成**：バーチャルコピーを自動的に作成して、画像ブラウザに参照番号付きで表示します。

・**現在選択されている画像からプロジェクトを作成する**：画像ブラウザで選択した画像から新規プロジェクトを作成します。

・**現在選択されている画像をプロジェクトに追加**：画像ブラウザで選択している画像を現在のプロジェクトに追加します。

DxO 光学モジュールメニュー

このメニューには、画像の自動処理に必要な DxO 光学モジュールに関する各機能が用意されています：

・**インストールされていない DxO 光学モジュールのダウンロード**（インターネット接続が必要）：新しい DxO 光学モジュールを選択してダウンロードできます。モジュールダウンロード後はすぐに利用できます。

・**DxO 光学モジュール管理**：利用可能なすべての DxO 光学モジュールの一覧を表示します。必要なモジュールをダウンロードしたり、不要なモジュールを削除することもできます。ウィンドウの下にある**インストールされた DxO 光学モジュールのみ表示する**にチェックを入れることで、すでにインストール済みのモジュールだけを表示できます。

・**DxO 光学モジュールのリリース予定表**（インターネット接続が必要）：DxO Labs のウェブサイトに接続して、今後リリースが予定されている DxO 光学モジュールを含む、全 DxO 光学モジュールの一覧を見ることができます。

・**新しい DxO 光学モジュールを DxO Labs に提案する**（インターネット接続が必要）：DxO Labs のウェブサイトに接続して、今後作成してほしい DxO 光学モジュールを提案することができます。

ウィンドウメニュー

・**最小化**：アプリケーションウィンドウを閉じて Mac OS X ドックに最小化

・**ズーム**：アプリケーションウィンドウをスクリーンサイズにフィット

・**全てを最前面へ**：現在開いているすべてのアプリケーションウィンドウを表示します。

・**フォルダやプロジェクト名**：現在のフォルダやプロジェクト名

ヘルプメニュー

ヘルプメニューでは、DxO Optics Pro をより効果的に使えるよう様々な項目が用意されています：

・**DxO Optics Pro ヘルプ**：ユーザーガイドを起動

・**オンラインヘルプ**（インターネット接続が必要）：オンライン上のヘルプを起動

・**DxO Academy**（インターネット接続が必要）：DxO Academy のサイトを開きます。チュートリアルやウェブトレーニング、DxO ユーザーガイドのダウンロードなどが行えます。

・**DxO Labs のウェブサイトにアクセス**（インターネット接続が必要）：このメニュー項目を選択するとウェブブラウザが起動し、DxO Labs ウェブサイトにアクセスします。

右クリック（コンテキスト）メニュー

画像ブラウザのサムネイル上で右クリックすると利用できるメニューは、画像メニューの内容と同じです。

NOTE

Windows 版とは異なり、Mac OS X 版では右クリックは画像ブラウザ内のサムネイル上でのみ利用できます。プレビュー画面内では利用できません。

7.2 プレファレンス

プレファレンスは DxO Optics Pro 9メニューから開くことができます。プレファレンスウィンドウには、全般、表示、サムネイル、処理、詳細プレファレンス、の 5 つのタブがあります。

全般タブ

・**アップデートを自動的にチェック**：DxO Optics Pro 起動時に、自動的にアップデートをチェックします。

・**DxO 光学モジュールのダウンロードウィンドウを自動的に表示する**：利用できる DxO 光学モジュールがあるが、コンピュータ上にインストールされていない場合に、すぐに DxO 光学モジュールダウンロードウィンドウを開きます。

・**プリセット**：

- **新しい RAW 画像にデフォルトで適用するプリセット**：RAW 画像に適用するプリセットをドロップダウンメニューから選択できます。初期設定は **DxO 標準**になっています。

- **新しい RGB 画像にデフォルトで適用するプリセット**：RAW 以外の TIFF や JPEG に適用するプリセットです。初期設定は **DxO 標準**になっています。

・**統計**：お使いのコンピュータの最低限の仕様と DxO のプロジェクト情報が DxO Labs に送信されます。この情報は今後のプログラム改善のために参考にされます（詳細は、タブ内のリンクをクリックしてください）。

表示タブ

・**画像の背景の色**：スライダで黒から白までの背景色の明るさを設定できます。

・**罫線の色**：罫線の色が変更できるツールが表示されます。

・**罫線のサイズ**：ディストーションやパース補正設定時に表示すると便利な罫線グリッド表示のサイズを設定します。

・**設定タブのツールバーにツールを表示する**：コマンドバーにツールアイコンを表示します。

サムネイルタブ

アイコン表示

・**赤／黄／青信号の処理ステータスフラグ**：赤／黄／青のライトで画像が処理可能かどうかを識別できます。

・**スターランキング**：写真のランキングを決められます。

・**DxO 光学モジュールアイコン**：DxO 光学モジュールが利用可能かどうかがわかります。

・**処理ステータスアイコン**：処理前か処理済みかがわかります。

・**警告アイコン**：EXIF データが欠如されている場合に表示されます。または以下の情報がない場合に警告を表示します：

- 撮影距離のデフォルトを無限遠に設定する
- 焦点距離の曖昧性
- カメラの向きの曖昧性

・**削除ボタン**：プロジェクトから選択画像を取り除きます。またはバーチャルコピーや元画像を削除します。

処理タブ

・**処理画像の拡張子**：JPEG、TIFF、DNG の拡張子を変更できます。システムやアプリケーションによっては、3 文字の拡張子（.jpeg ではなく .jpg）が求められる場合があります。

・**RAW 画像のサイドカー XMP ファイルのメタデータを保持する**：チェックをかけると、RAW 画像を処理する際にファイルに、Adobe Bridge などで作成された XMP フォーマットでファイル内に保存されているメタデータを使って処理することができます。

・**FilmPack（v.2.0 以前）のカラーハンドリングを使う**：DxO FilmPack 2 以前のカラーレンダリングを利用したい場合に使います。

詳細プレファレンス

パフォーマンス

・**GPU 高速処理**：お使いのコンピュータに GPU が搭載されている場合に処理時に利用します。表示が不安定になるなどの現象が発生した場合はこのチェックを外します。

・**ズーム率 75%未満でのノイズ除去プレビューを非アクティブ化する**：ノイズ除去のプレビューを 75%以下にしたときに表示しないようにできます。デフォルトではプレビューは無効になっています（有効にすると、ご利用のコンピュータのパフォーマンスによっては、処理が遅くなることがあります）。

・**バッチ処理パワー**：画像処理にどの程度のプロセッサを割り当てるのかを設定することができます。DxO Optics Pro と同時に他のアプリケーションを使う場合には、スライダを左に動かします。スライダを右に動かすと、処理は速くなりますが他のプログラムを使用する余地が減ります。

サイドカー

・**サイドカーファイルを自動的にエクスポートする**：サイドカーファイルは、拡張子に .dop が付いた小さなテキストファイルで、画像ファイルに関連づけされています。このファイルには画像補正の設定情報が含まれています。画像を他のコンピュータにコピーする場合など、画像だけではなく関連したサイドカーファイルのコピーも必要です。この下の自動読み込みの設定にチェックがかかっていれば、後で画像を開いた際にサイドカーファイルが自動的に読み込まれます。ファイルメニューからサイドカーを手動で読み込むこともできます。

・**サイドカーファイルを自動的にインポートする**：選択した画像に関連づけされているサイドカーファイルから自動的に設定を読み込みます。

キャッシュ

キャッシュの最大ファイルサイズを設定できます。**クリア**ボタンでキャッシュをクリアすることができます。

付録

8.1 用語集

キャリブレーション

実際に撮影した画像を解析して、撮影時の条件を含むカメラ、レンズの特性を持った詳細データ。DxO Optics Pro ではこの情報を使って、光学的な画像品質の補正を実行します。

DxO 光学モジュール

DxO 光学モジュールは、カメラとレンズの組み合わせによる情報を持つファイルです。このファイルによって、レンズにより発生する光学的な問題を DxO Optics Pro で自動で補正できます。

フルプリセット

フルプリセット：すべての設定情報が含まれたプリセット

出力画像

DxO Optics Pro で作成された最終画像。出力画像は必ずオリジナル画像とは異なる名前で、新しいファイルが作成されます。

プリセット

画像に対して適用できるよう、あらかじめ設定が保存されているセットです。プリセットにはすべての機能に対して設定が行われるフルプリセットと、特定の機能にのみ有効な部分プリセットがあります。どちらも手動で設定を変更することができ、また変更した内容を新規カスタムプリセットとして保存することができます。

ソース画像、入力画像

DxO Optics Pro で処理するために読み込まれる RAW または JPEG の元画像。

バーチャルコピー

元画像の複製。バーチャルコピーを作成すると、元画像とは別の設定を行うことができます。バーチャルコピーはいくつでも作成でき、それぞれ異なる設定をして補正設定を比較することもできます。

8.2 キーボードショートカット（Windows）

全般	
新規プロジェクト	Ctrl + N
カット	Ctrl + X
コピー	Ctrl + C
貼付け	Ctrl + V
全てを選択	Ctrl + A
元に戻す	Ctrl + Z
やり直し	Ctrl + Y
画像ブラウザのドック／アンドック	Ctrl + U
オンラインヘルプ	F1
選択タブに移動	Ctrl + F1
設定タブに移動	Ctrl + F2
プレファレンスウィンドウを開く	Ctrl + Shift + P
元画像を表示（キーを押している間）	Ctrl + D
フルスクリーンモード	Alt + F
画像ブラウザの表示／非表示	Ctrl + F9
画像ブラウザのリフレッシュ	F5
フォルダ／ファイル／プロジェクト／プリセットの名称変更	F2
プロジェクトプロパティ	Ctrl + E
画面にフィット	F3
100%ズーム	F4
ズームイン	Ctrl + +
ズームアウト	Ctrl + -
一時的にハンドツールに切り替え	スペースバー（押している間）
前の画像を表示	左の矢印
次の画像を表示	右の矢印
画像を左に 90° 回転	Ctrl + L
画像を右に 90° 回転	Ctrl + R
バーチャルコピー作成	Ctrl + J
ランク付け	Ctrl + 0 ～ 5
処理開始	Ctrl + Alt + P
画像プロパティ	Ctrl + E
プロジェクトから画像を削除	Delete
ディスクから画像を削除	Delete
バーチャルコピーを削除	Delete
画像をプリント	Ctrl + P

選択タブ	Ctrl + F10
参照ブラウザの表示／非表示	Shift + F9
ファイルシステムを表示	Shift + F10
プロジェクトデータベースを表示	

設定タブ	
元画像と補正画を比較表示または前後表示	Ctrl + T
すべてのパレットを表示／非表示	F9
ズームフィット	F2
100%表示	F3
ズームアウト	Ctrl + +
ズームイン	Ctrl + -

罫線グリッドを表示	Ctrl + G
情報を表示	Ctrl + H
ハイライトクリッピングを表示	Ctrl + W
シャドウクリッピングを表示	Ctrl + B

ツール	
アクティブスライダを動かす（クリックしてアクティブ化）	左右の矢印キーまたはマウスホイール

8.3 キーボードショートカット（Mac OS X）

一般	
新規プロジェクト	⌘ +N
プロジェクトを開く	⌘ + O
プロジェクトの保存	⌘ + S
終了	⌘ + Q
カット（テキスト）	⌘ + X
コピー（テキスト）	⌘ + C
貼付け（テキスト）	⌘ + V
全てを選択	⌘ + A
元に戻す	⌘ + Z
やり直し	⌘ + Shift + Z
画像ブラウザをドック／切り離し	⌘ + U
オンラインヘルプ	⌘ + ?
選択タブに移動	Alt + ⌘ + 1
設定タブに移動	Alt + ⌘ + 2
プレファレンスを表示	⌘ + ,
バーチャルコピーの作成	⌘ + D
画像ブラウザの表示／非表示	Shift + Tab
次のタブ	Ctrl + Tab
前のタブ	Ctrl + Shift + Tab
選択画像をプリント	⌘ + P

設定タブ	
参照画像を表示（キーを押したまま）	D
ハンドツール（キーを押したまま）	スペースバー
参照画像の方法を切り替え	C
すべてのパレットを表示／非表示	Tab
ズームフィット	⌘ + 0
100%表示	⌘ + 1
ズームアウト	⌘ + -
ズームイン	Ctrl + =
罫線を表示／非表示	G
画像情報を表示／非表示	I
ハイライトクリップを表示	A
シャドウクリップを表示	B

ツール	
ハンドツール（キーを押している間）	スペースバー
ポインタツール	J
ズーム／移動	Y
クロップ	R
ダスト	N
水平	E
平行を強制	U
長方形を強制	V
マルチポイントカラーバランス	*
ホワイトバランス	W

dxo.com

DOP 9.5-140521